第 6 章

地域別構想

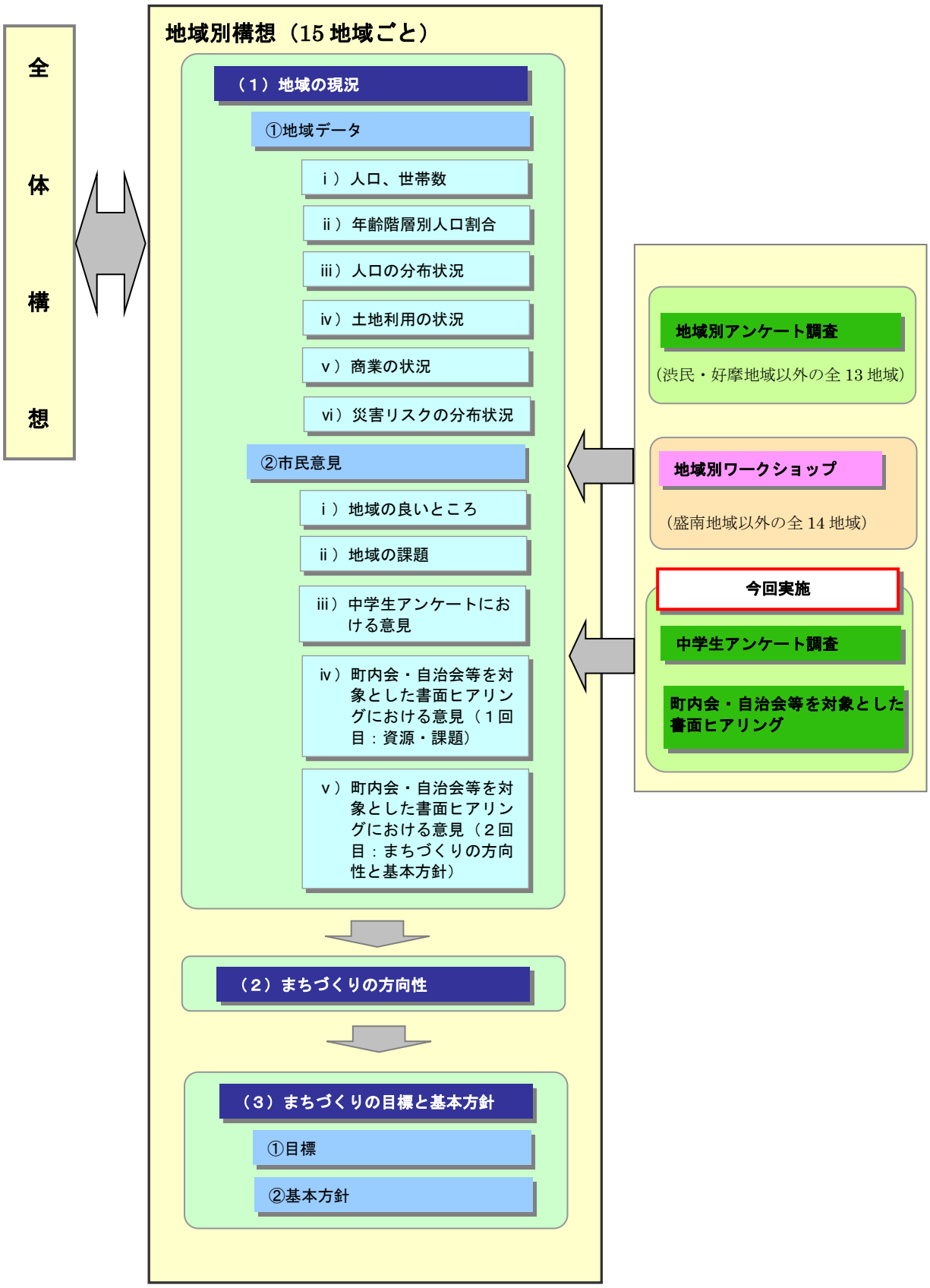
第6章　地域別構想

地域別構想は、全体構想を受けて、主に市街地における地域の特色あるまちづくりを進めるための基本的な考え方を示します。

1. 地域別構想の構成

地域別構想は、次のような内容で構成されています。

- 本市のまちづくりの基本的な考えである全体構想を踏まえています。
- 地域毎の最新の現況データを掲載しています。
- 地域別構想は、当初計画の策定後に行った地域別のワークショップ参加者の意見などをもとに充実させてきましたが、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や、地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査、地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて見直しを行っています。


全体構想
地域別構想（15 地域ごと）
（１）地域の現況
①地域データ
ⅰ）人口、世帯数
ⅱ）年齢階層別人口割合
ⅲ）人口の分布状況
ⅳ）土地利用の状況
ⅴ）商業の状況
ⅵ）災害リスクの分布状況
②市民意見
ⅰ）地域の良いところ
ⅱ）地域の課題
ⅲ）中学生アンケートにおける意見
ⅳ）町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見（１回目：資源・課題）
ⅴ）町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見（２回目：まちづくりの方向性と基本方針）
（２）まちづくりの方向性
（３）まちづくりの目標と基本方針
①目標
②基本方針
地域別アンケート調査
（渋民・好摩地域以外の全 13 地域）
地域別ワークショップ
（盛南地域以外の全 14 地域）
今回実施
中学生アンケート調査
町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリング

2. 地域区分

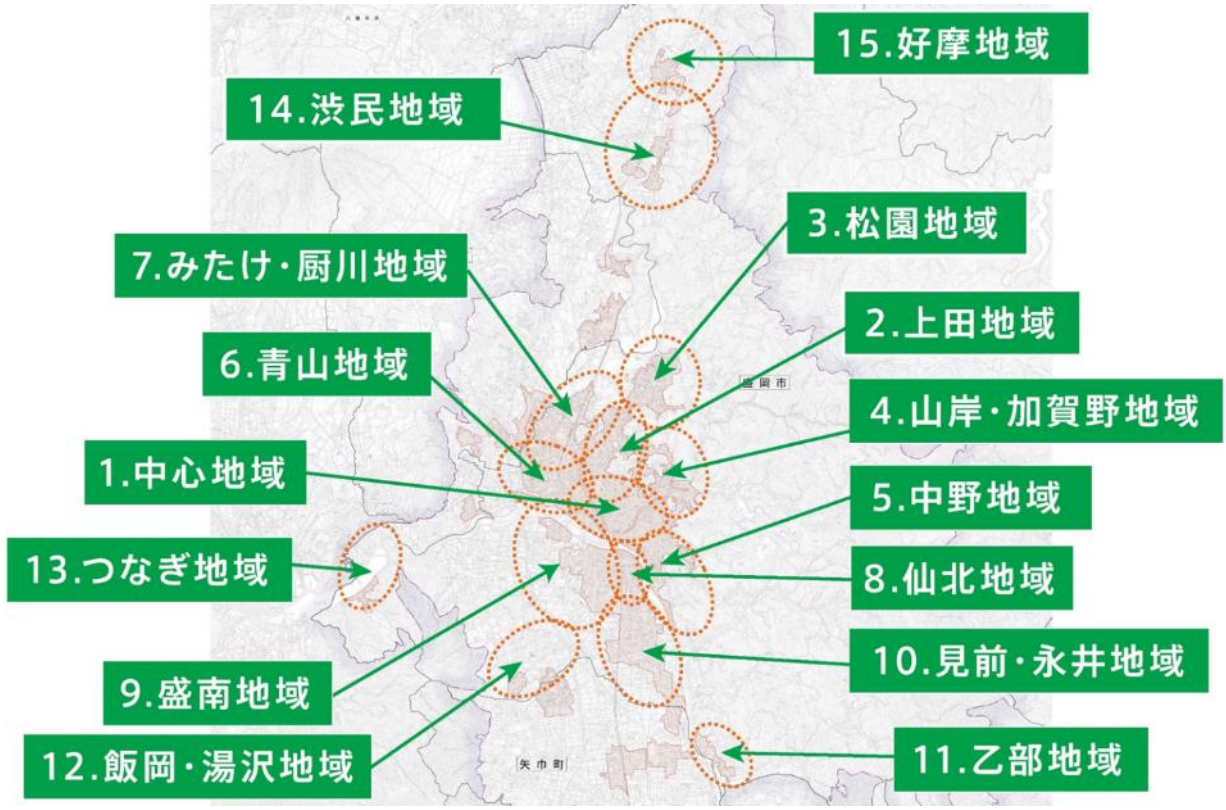
地域別構想の地域区分は、次の考え方により、地域区分図に示す 15 地域としました。

1)地域区分の考え方

・住区計画の基本となる小学校区程度の日常生活圏を考慮し、これらを合わせた中学校区程度（最大で２中学校区）をコミュニティ単位として区分しました。
・小学校区を合わせる場合、市のコミュニティ区分や、土地利用状況、道路等の地形地物により、一体となる地域を設定しました。

2)地域区分

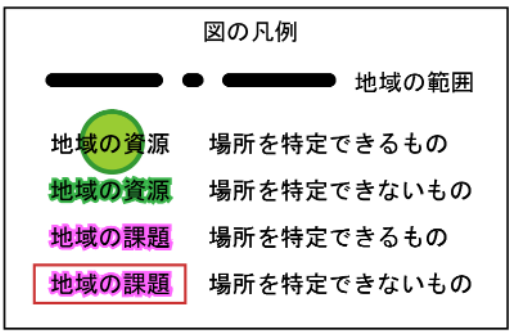
地域区分図



3. 地域の資源・課題マップ、まちづくりの方針マップの見方

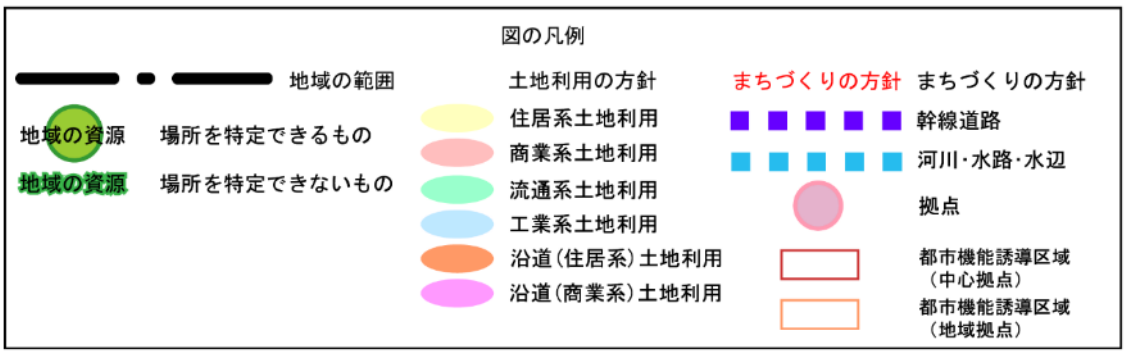
1)地域の資源・課題マップ

これまでの地域別構想における地域の資源・課題マップを基に、今回、新たに行った現状把握や、地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査、地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを踏まえ、地域の資源・課題を更新しました。



2)まちづくりの方針マップ

これまでの地域別構想におけるまちづくりの方針マップを基に、今回、新たに行った現状把握や、地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査、地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを踏まえ、まちづくりの方針を更新しました。



4. 地域別構想

1)中心地域

中心地域の平成 17 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

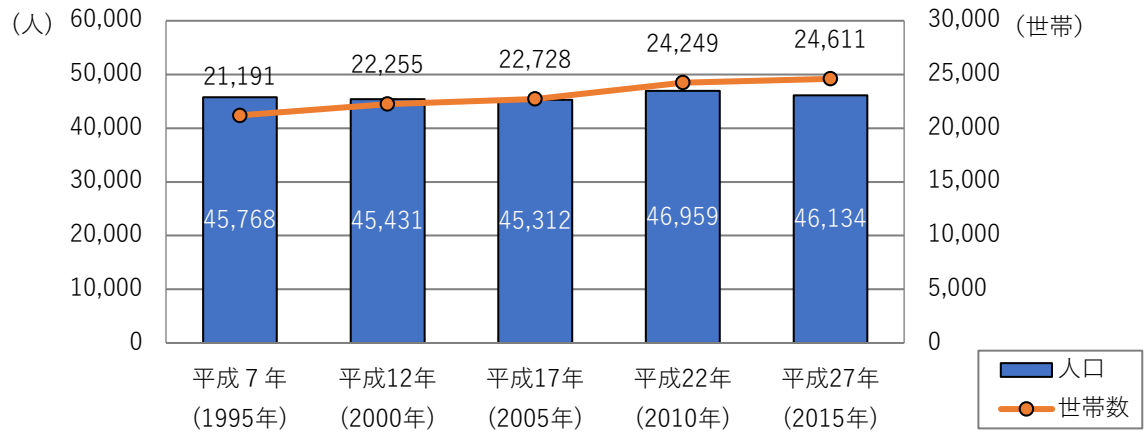
(1)地域の現況

①地域データ

ⅰ)人口･世帯数

中心地域の人口は概ね横ばいですが、世帯数は増加傾向にあります。

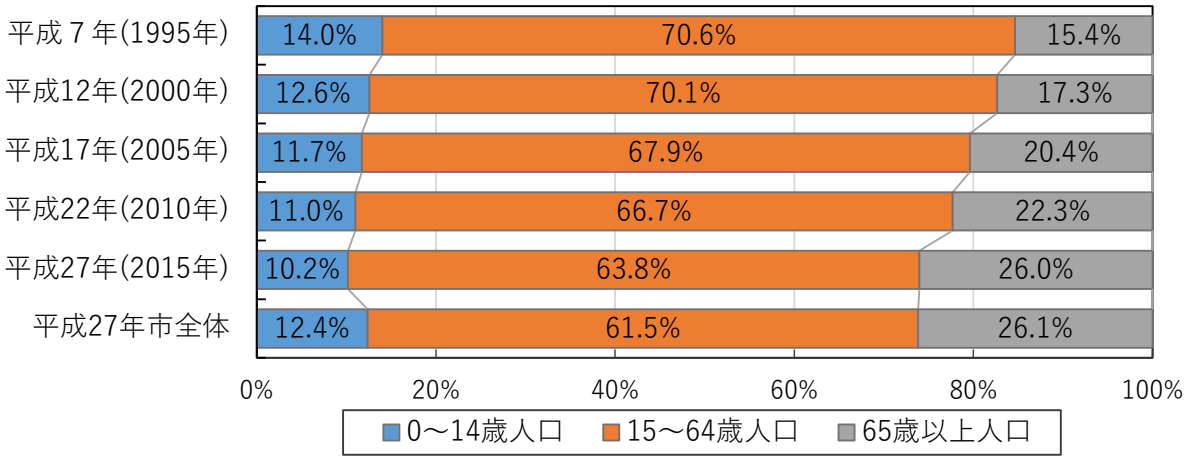
人口･世帯数の推移　資料:国勢調査



ⅱ)年齢階層別人口割合

中心地域は、少子化・高齢化の傾向にあり、0～14 歳人口の割合が市全体に比べて低くなっています。

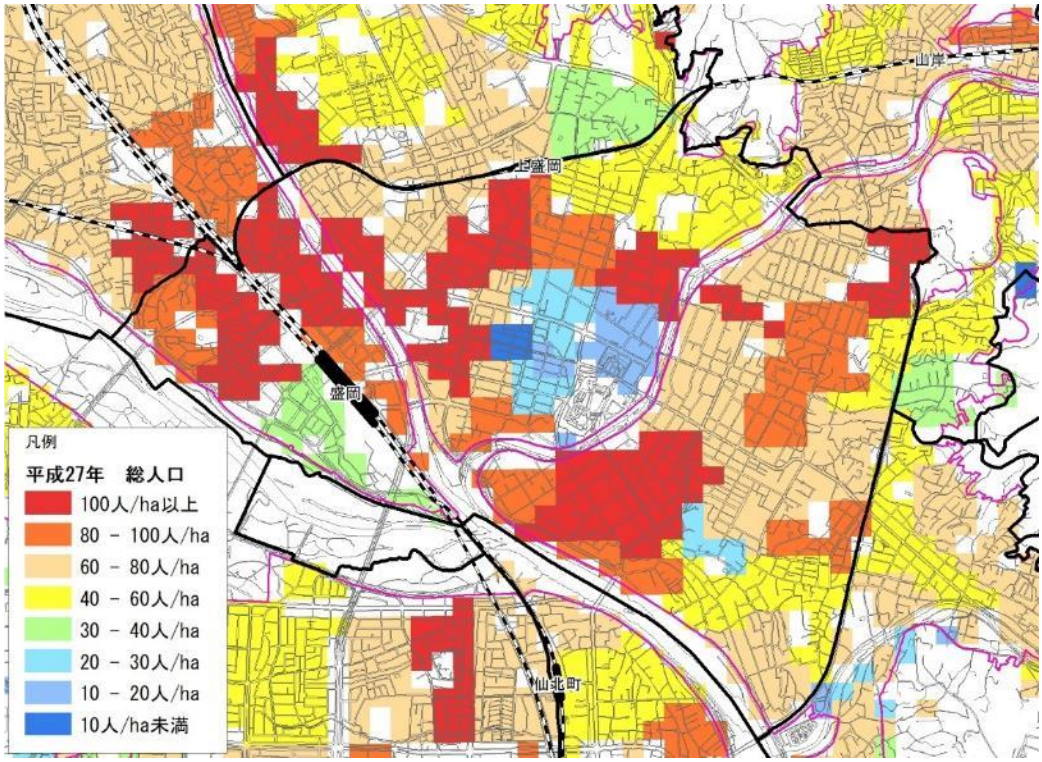
年齢階層の推移　資料:国勢調査



iii）人口の分布状況

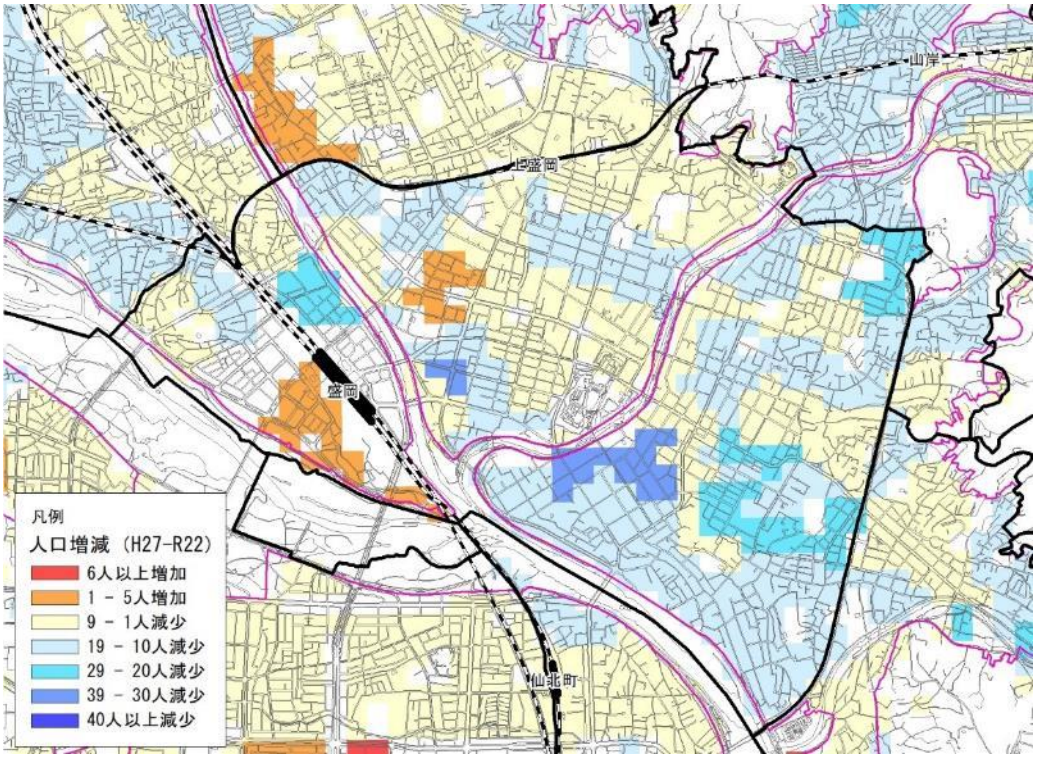
100 人/ha 以上の人口が集積しているエリアが多くみられます。
盛岡駅の西側などにおいて、将来的に人口の増加が見込まれます。
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲が地域の東側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図　資料：平成 27 年国勢調査結果

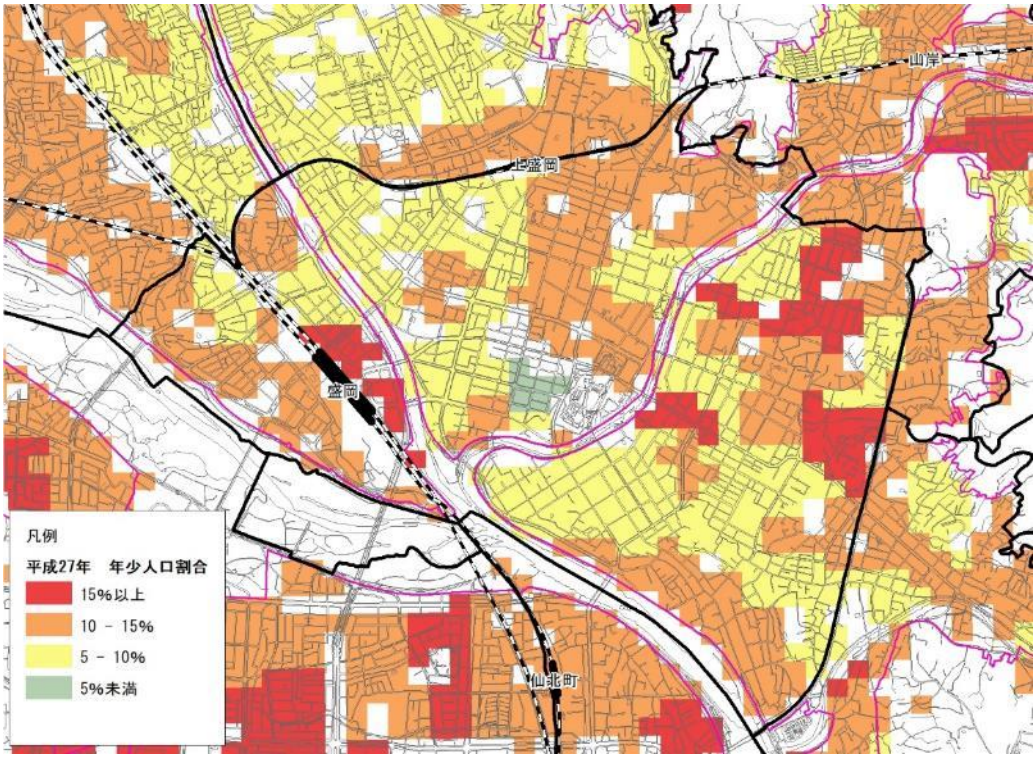


人口増減予測図（平成 27 年～令和 22 年）

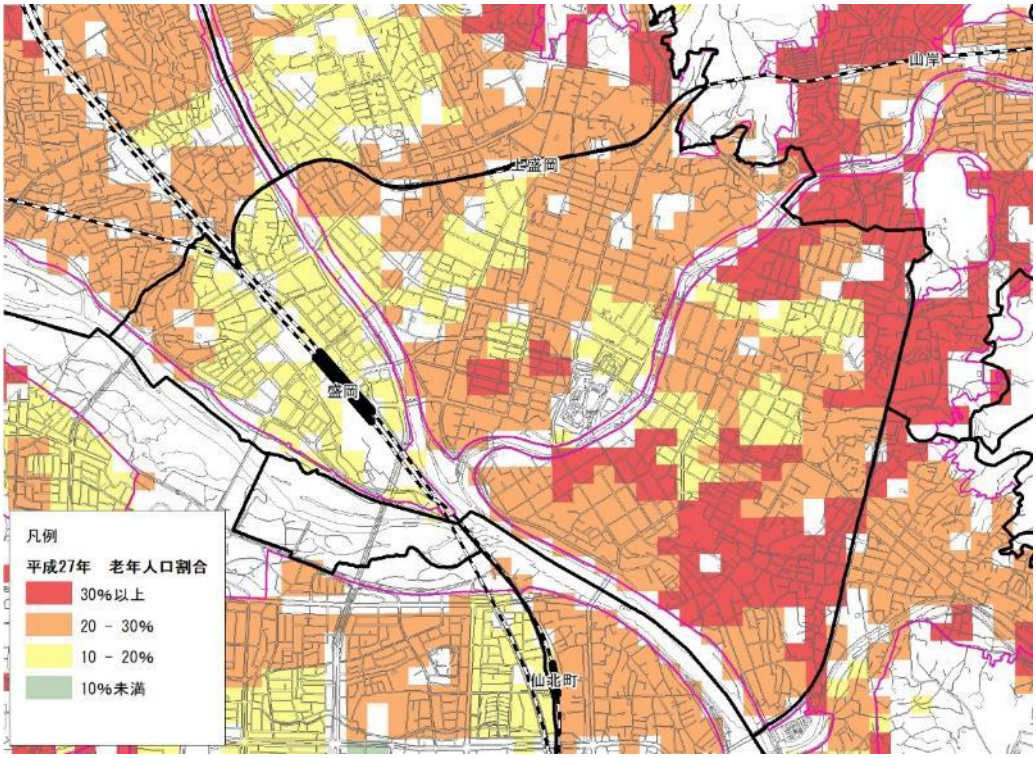
資料：平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



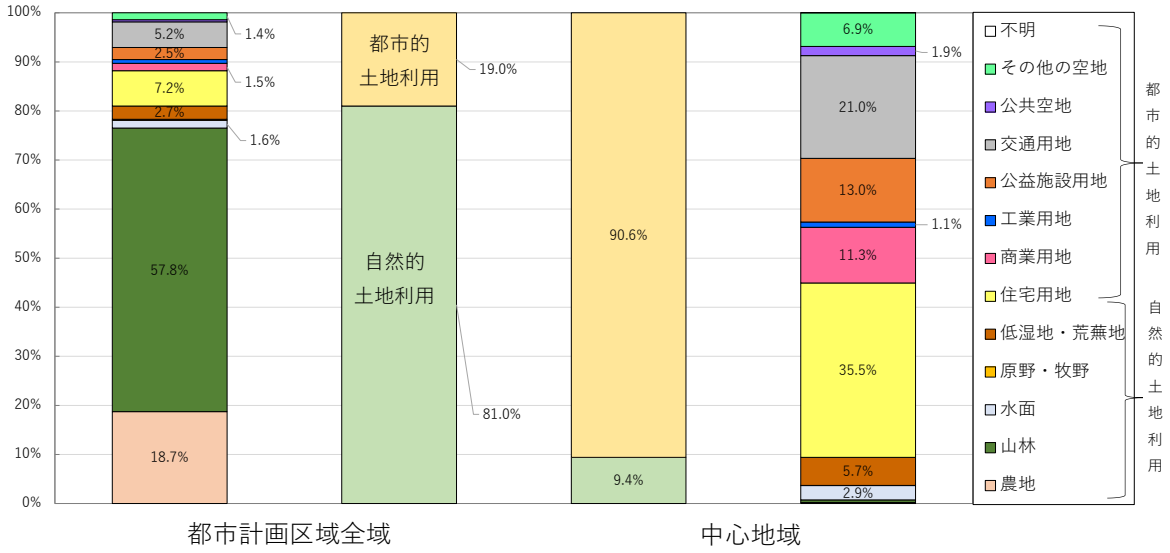
100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



ⅳ）土地利用の状況

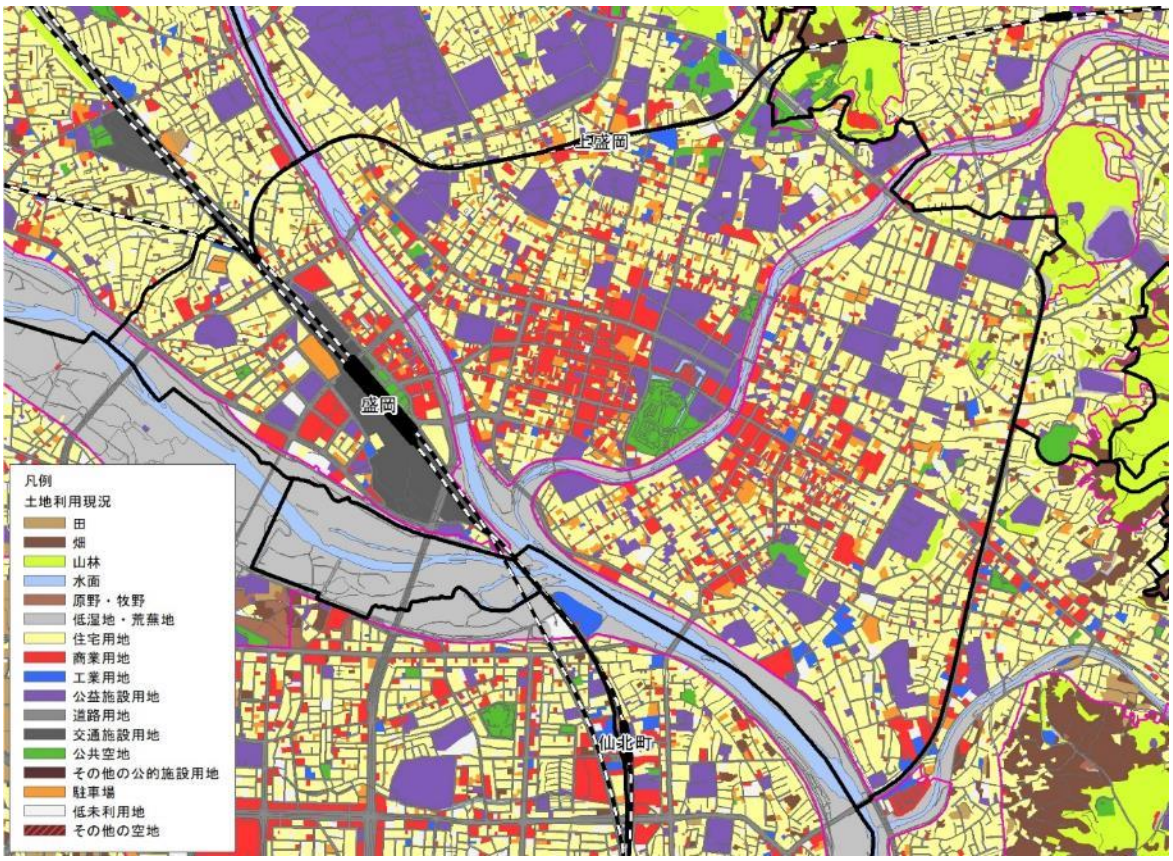
中心地域の土地利用は、約 91%が都市的土地利用となっています。そのうち約 89%を住宅用地、交通施設用地、公益施設用地、商業用地が占めており、盛岡市の中心部としての特徴が表れています。

地域の土地利用構成と全地域との比較　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



（地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。）

土地利用現況図　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



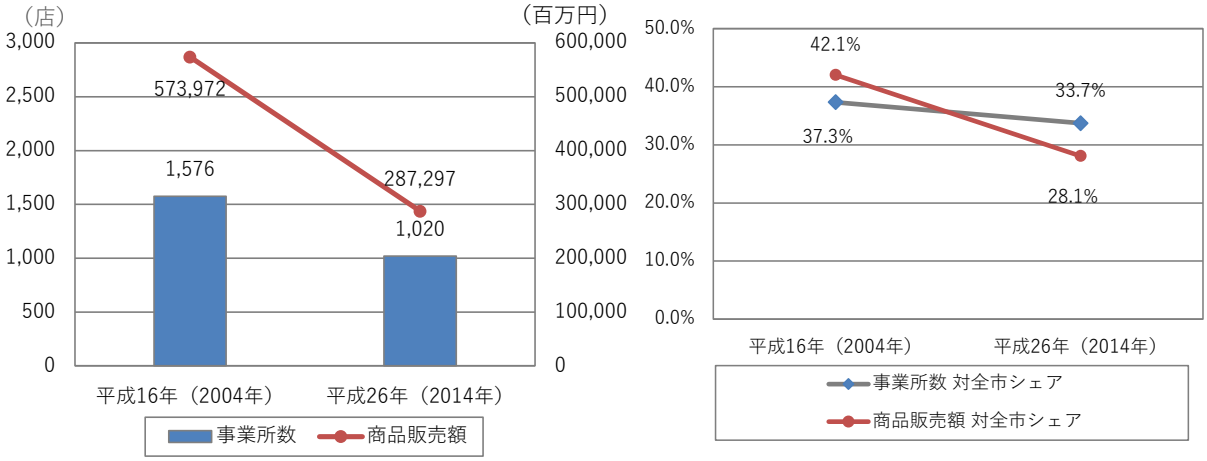
v）商業の状況

地域内の事業所数並びに商品販売額は減少傾向にあり、その対全市シェアも減少傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは約 34%、商品販売額の対全市シェアは約 28%となっています。

減少傾向にあるものの、いずれの対全市シェアも高く、本市の商業の中心となっています。

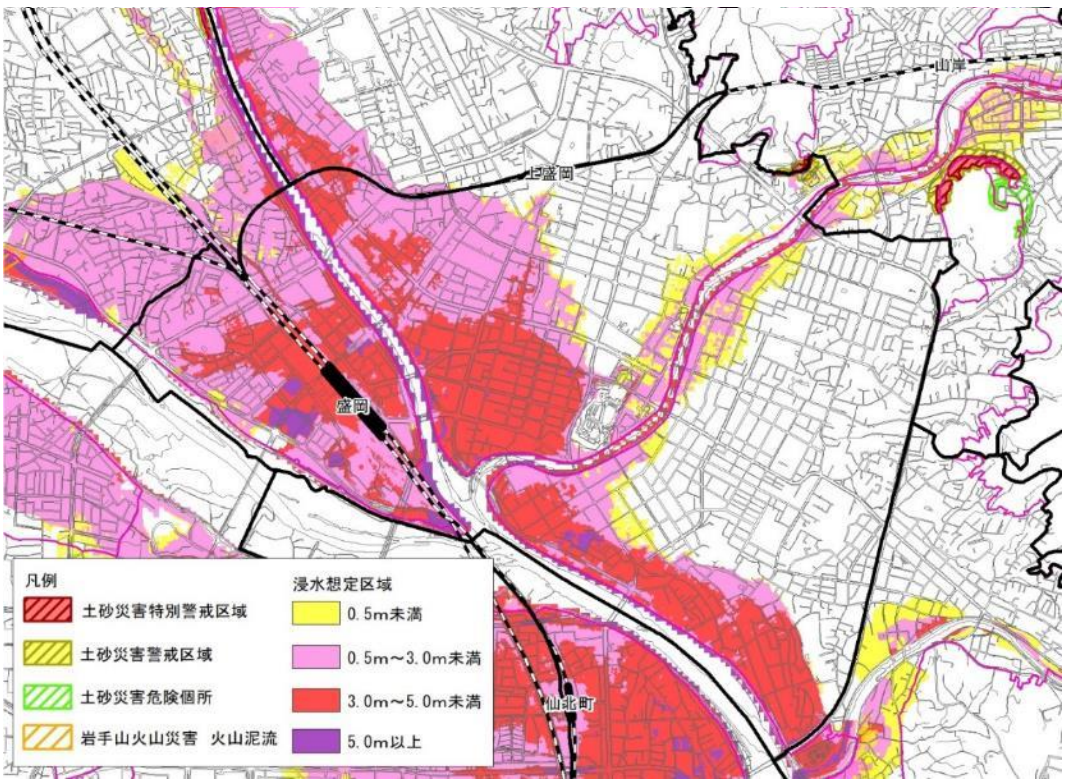
産業関連指標と対全市シェア　資料:商業統計



vi）災害リスクの分布状況

盛岡駅周辺や北上川沿いの地域などの人口や都市機能が集積している広い範囲に洪水浸水想定区域が分布しています。浸水深が 3.0m～5.0m未満の範囲が広く分布していることに加え、一部に 5.0m以上の範囲があります。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料:国土交通省、岩手県



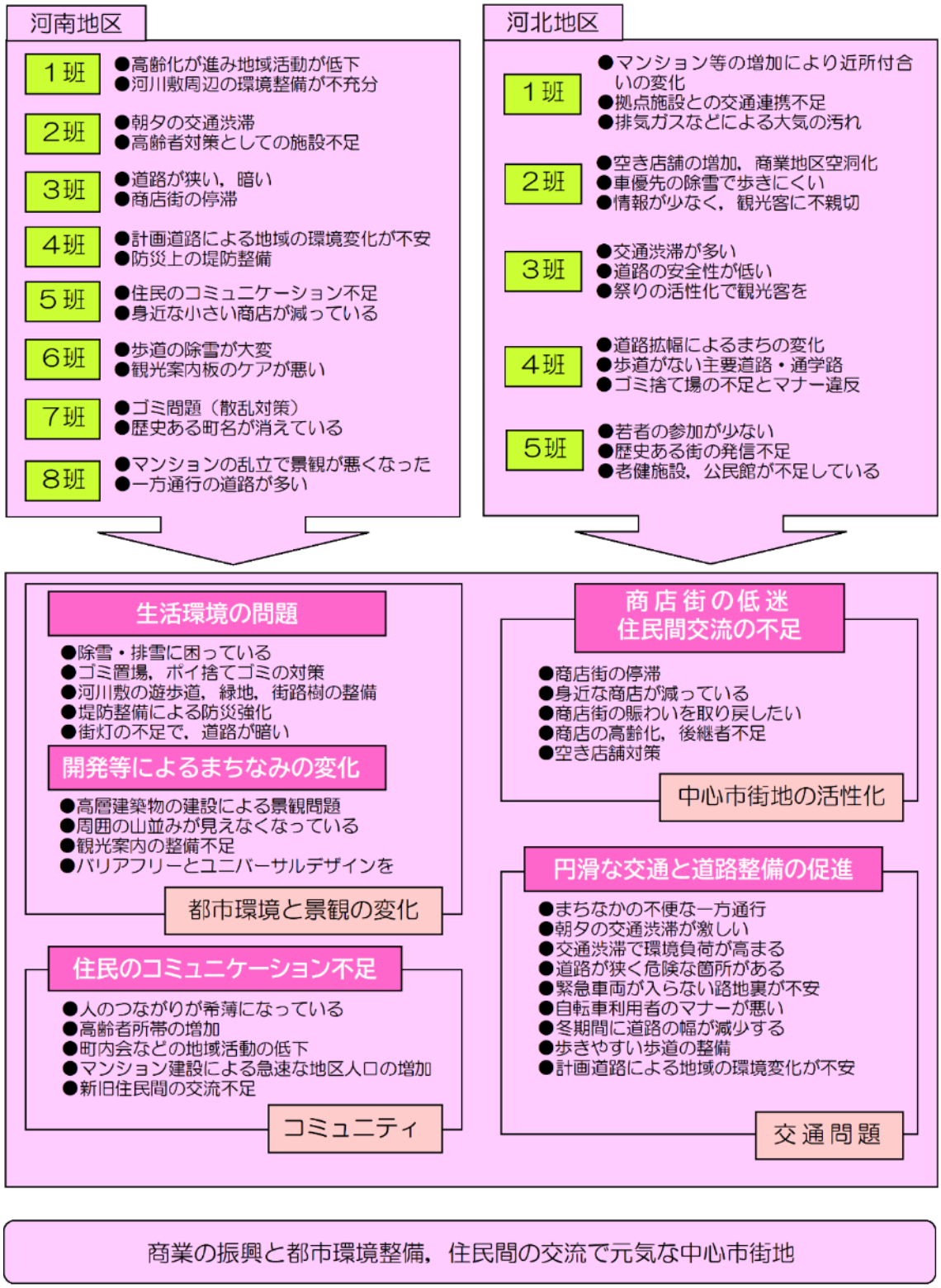
②市民意見

ｉ)地域の良いところ

平成 17 年度に策定した地域別構想（中心地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

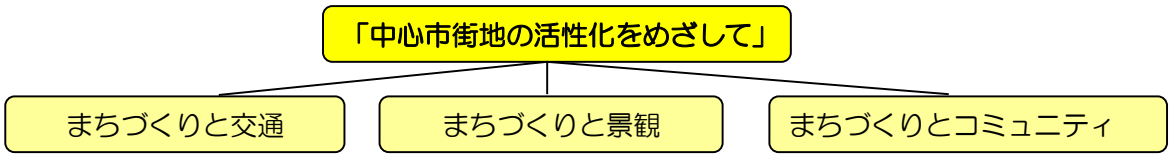
ii)地域の課題

平成 17 年度に策定した地域別構想（中心地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



iii）中心地区ワークショップの開催

平成 17 年度に策定した地域別構想（中心地域）における、中心市街地の活性化に向けた商業振興や観光促進、居住環境の向上をめざしたまちづくりを推進するための中心地区ワークショップの結果は、次のとおりとなっています。



中心地域の方が考える地域の良いところ・課題をワークショップの結果からまとめると次のとおりとなります。

交　通

１班
○バスの便が良い
○駐車場が多く，見つけやすい
○中央通りは道が歩きやすい
×停車車両が原因の交通渋滞
×歩道の駐輪自転車
×歩きにくい歩道がある

２班
○でんでんむし等の効果でバスが便利
○歩道が整備されていて自転車や歩行者が安心して通行できる
○タクシーに安心して乗れる
×交通渋滞でバスが定刻どおり走らない時がある
×自転車利用者のマナーが良くない
×歩道上の柱が歩行者にとって危ない

３班
○道路設備やサインが見やすい
○交通弱者へ配慮した交通施策
○地域の特徴を活かした道づくり
×公共交通機関のサービスが悪い
×道路計画が古い
×交通弱者の視線での交通施策不足

景　観

４班
○市街地に溢れる自然環境
○落ち着いた雰囲気のある街並み
○街中からの岩手山眺望
×建築物の色や高さ，新旧が雑然としていて，統一感が希薄
×道路にあふれる放置自転車

５班
○伝えたい街並みや歴史
○後世に残したい自然環境
○景観の市民意識が高い
×マンション乱立で盛岡らしさが消失
×大通り商店街の閉鎖商店は景観的に問題

コミュニティ

６班
○マンションによる人口増加
○高い利便性，人にやさしい街
○多くの課題を抱えていることがあえて良いところ
×新旧住民間のコミュニケーションの難しさ

７班
○個性的で賑わいがあり，生活利便性が高い
○歴史と自然から醸成された盛岡文化
○コミュニティと文化の融合した街
×盛岡人らしさが低下している
×人の交流の減少，関係の希薄化

８班
○イベントに参加する積極的な商店街
○地域の質の向上に積極的
○市民活動に対する意欲が高い
×新しいものを排除する心のバリア
×公共施設が柔軟な対応ではない
×コミュニティが空洞化している

テーマ別　中心地区のまとめ

交　通

＜人が中心の道路環境整備＞
●交通弱者の視点に立ったバリアフリーユニバーサルデザインによる道づくり
●安全で安心，歩いて楽しい道づくり（狭い道幅の解消，歩道の拡充，照明の設置）
●消雪，融雪設備の拡充，除雪の効率化

＜交通渋滞の緩和＞
●効率的で利用しやすい公共交通政策の拡充とサービスの向上
●多く存在する駐車場の有効利用
●道路空間の再構築

＜バスと自転車が似合うまち＞
●バスや自転車の積極的な利用で環境負荷の低減を
●自転車の利用マナーの向上
●駐輪場の設置，有効活用

景　観

＜地域資源を活かした景観づくり＞
●岩手山と川が織り成す景観を大切に
●城下町の名残や歴史的，伝統的建築物が醸し出す，落ち着いた街並み
●身近な街中の緑が創出するやすらぎの空間

＜後世に残したい盛岡らしい景観＞
●景観法やガイドラインの運用
●不調和な建築物の建設による景観への弊害を解消
●盛岡らしい景観創出に向けた，住民意識や地域アイデンティティの醸成

＜盛岡らしい都市景観の向上＞
●誇れる景観を観光面でもアピール
●来訪者のためのシンボルサインの充実
●街をきれいにして街の価値を上げる

コミュニティ

＜利便性の高い街に＞
●程よい街の大きさ
●個性豊かな賑わいの演出

＜商店街の役割を＞
●シャッター商店街，空き地化対策
●イベントに積極的な商店街に

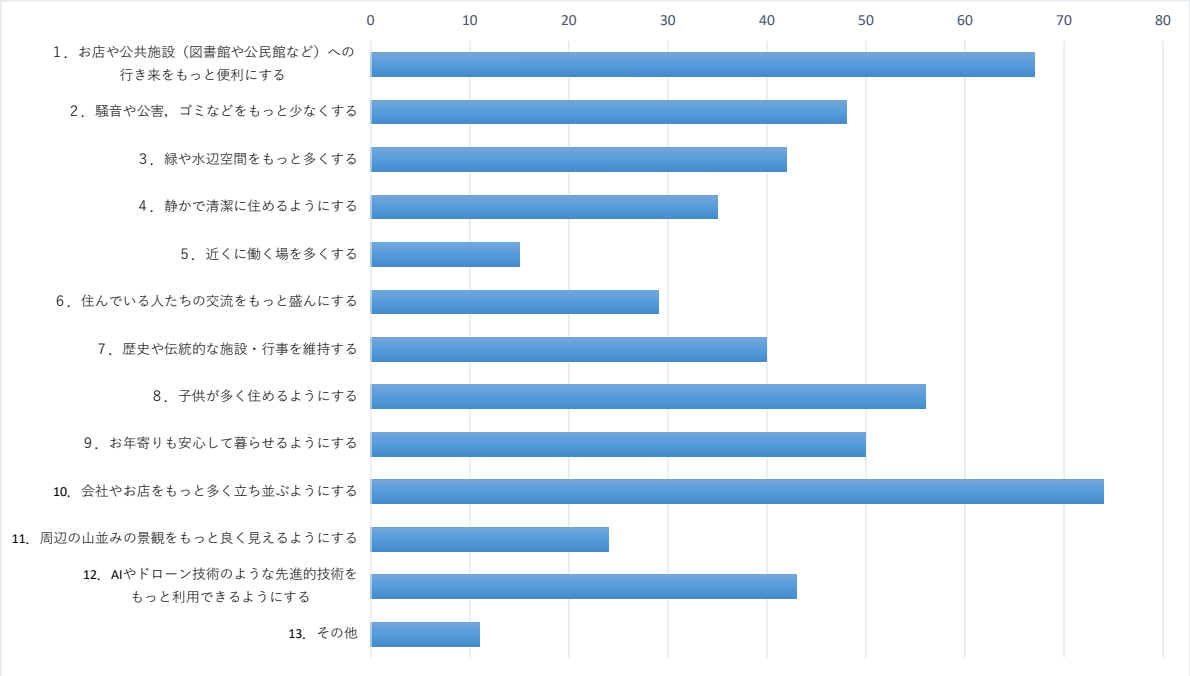
＜コミュニケーションの希薄化＞
●新旧住民間のコミュニケーションに工夫をもつ
●新しいものを排除する心のバリアの解消

＜盛岡人のこころの伝承＞
●地域の資源を大切にするこころ
●ボランティア精神が豊か
●住民の「盛岡人らしさ」の再認識

ⅳ）中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（中心地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代である中心地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（中心地域の 199 人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「子どもが多く住めるようにする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、道路整備に関する意見（道路の拡幅、舗装等の修繕など）、学校に関する意見（施設の整備・充実など）が多くありました。

ⅴ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（中心地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、中心地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔79 町内会・自治会のうち 46 団体（58%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●歴史のある街並みや中津川のせせらぎ、中心部の便利さが共存している。盛岡で最も住みやすい場所だと思う。
●都市と自然、新しいものと古いものが融合しており、見どころもたくさんある。
●文化、伝統、芸術に関するものが多く集まっている。

【課題】

●北上川河岸の住宅地区の防災対策が進んでいない。
●大型店の廃業や岩手医科大学附属病院の移転など、中心部の空洞化による影響が大きい。同時に郊外への人口流出も止まっていない状況だと思う。
●高齢化が進み、町内会役員のなり手が不足している。
●若い世帯や子どもが少ない。
●高齢化に伴い空き家が多く、さらに空き地が増え、駐車場が目立つようになって来ている。非常に淋しい感じである。
●バスセンターの建替えや中ノ橋通一丁目地区の再開発を期待している。高齢者の多い地区であることから、歩いて楽しめる街へと変化してほしい。

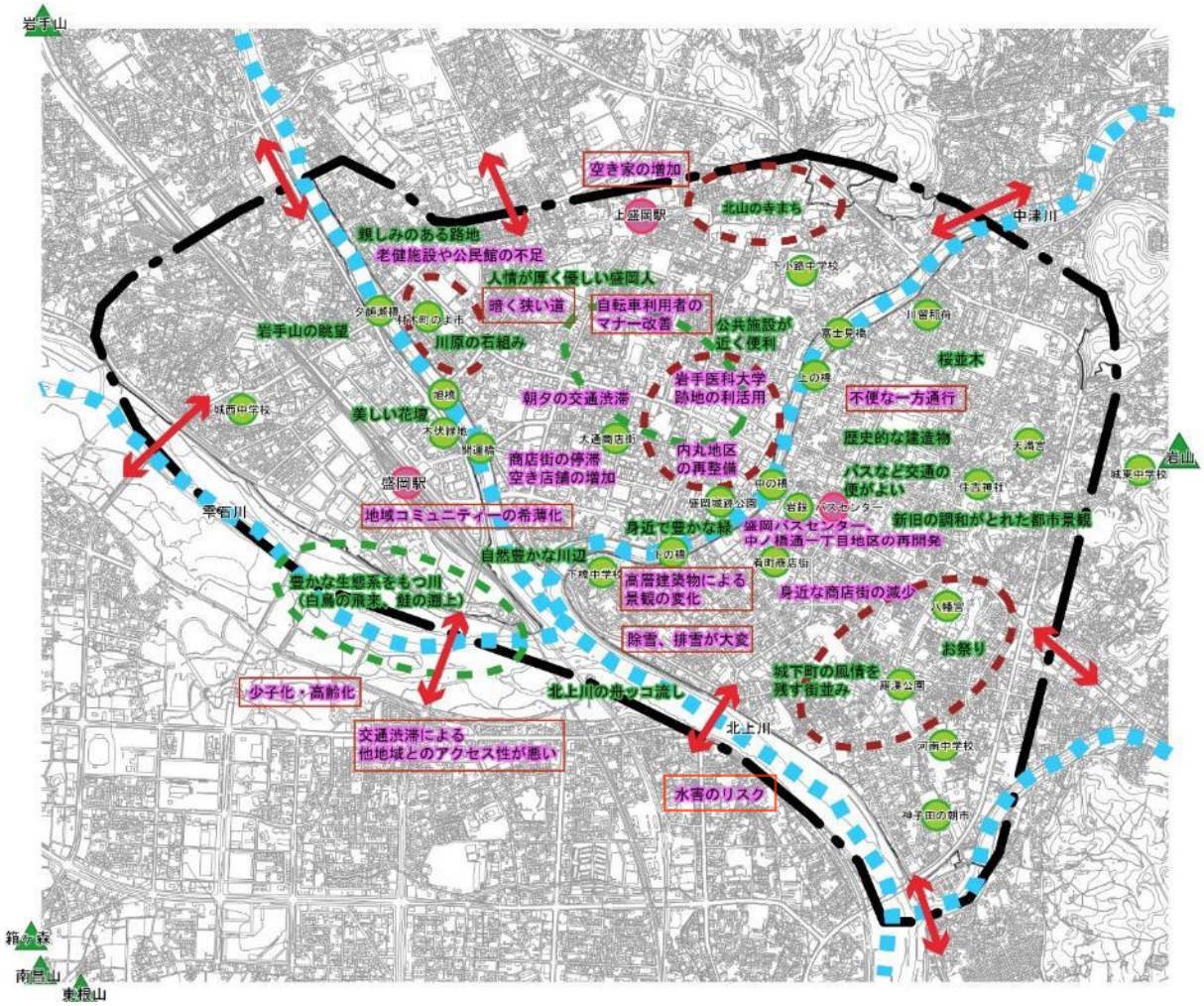
ⅵ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（中心地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、中心地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔79 町内会・自治会のうち 41 団体（52%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

●岩手医科大学附属病院の移転により盛岡の中心部の空洞化が顕著となった。特色あるまちづくりを進めていくには核となってきた中心市街地を活性化していくことが重要である。
●災害に強いまちづくりが必要である。
●町内会活動への参加者が少なくなっている現状を踏まえた方針にしたい。
●高齢者が買い物できる商店街を形成してほしい。

地域の資源・課題マップ



図の凡例

地域の範囲

地域の資源　場所を特定できるもの

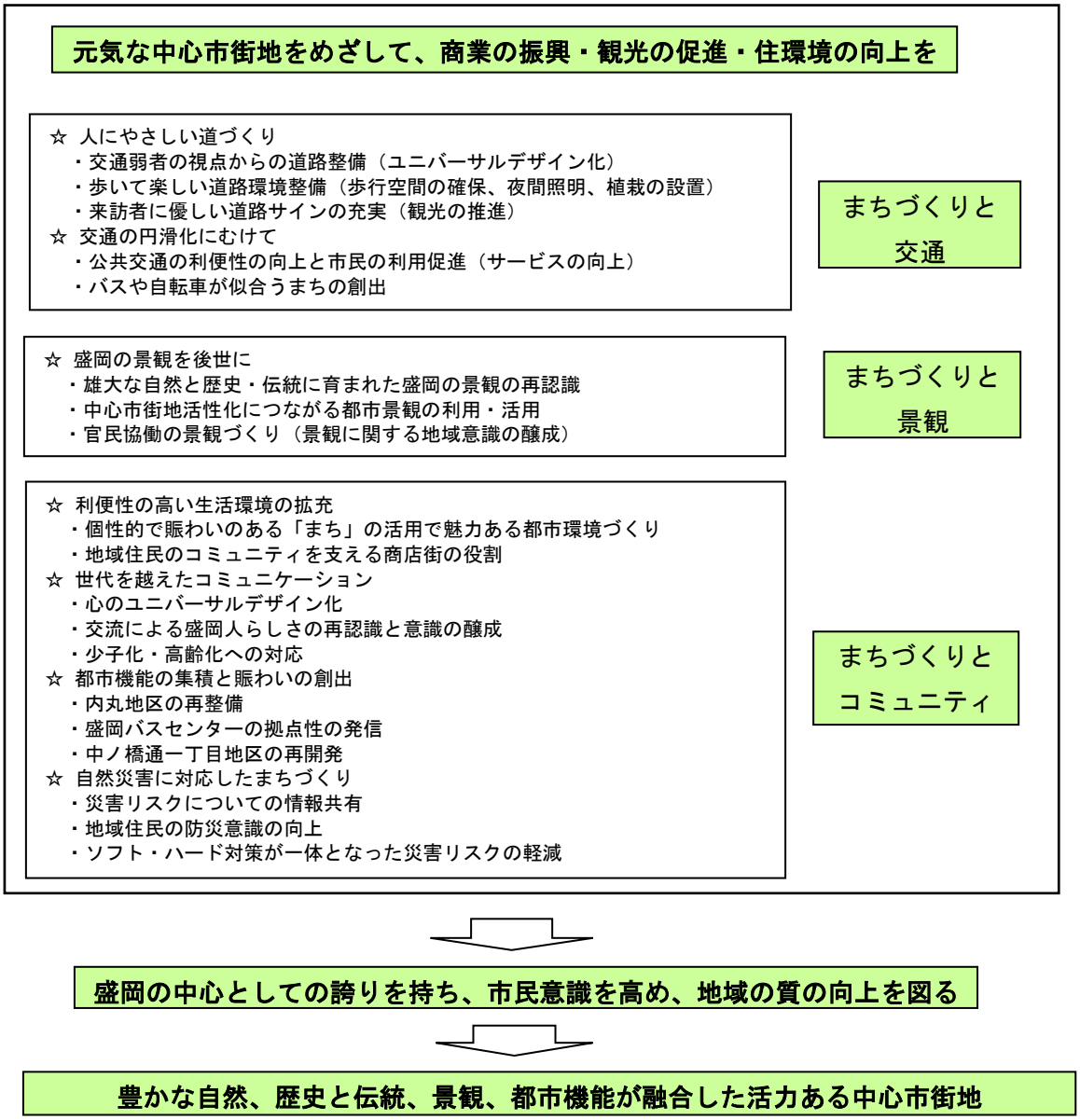
地域の資源　場所を特定できないもの

地域の課題　場所を特定できるもの

地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成 17 年度に策定した地域別構想（中心地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『都市の趣(おもむき)を大切にした 元気で心豊かなまちづくり』

～ 水と歴史が育み 人情と活気あふれる 中心地域 ～

②基本方針

ⅰ)人にやさしく元気なまちづくり

中心地域は、官公庁や民間企業、商店街など商業業務機能が集積する地域で、盛岡市の核となる拠点として歴史と伝統が息づく個性的で賑わいのあるまちなみが形成されています。近年、商店街の活力低下による商業活動の停滞傾向や、中心市街地の交通渋滞による時間的な経済損失や環境への負荷の増加などが問題となっています。

都市交通の円滑化を推進するため、将来道路網計画に基づく幹線道路の整備促進とともに、公共交通や自転車の利便性の向上と利用促進によって自動車流入量の低減を図り、交通渋滞の緩和を図ります。

また、街路の歩行空間の確保やユニバーサルデザイン化の推進など、歩行者が安心して快適に通行できる環境づくりを進め、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりに取組みます。あわせて、観光資源を活かした道路整備などによって、商店街を活性化し、歩いて楽しめる元気な中心市街地の形成を目指して、地域と一体となったまちづくりを推進します。

さらには、多くの都市機能が集積する内丸地区の再整備や地域の魅力を繋ぐローカルハブとして盛岡バスセンターの拠点性の発信、土地の高度利用とともに商業・業務施設などの整備を行う中ノ橋通一丁目地区の再開発のほか、低未利用土地の解消対策など、官民が一体となった取組を推進し、市の中心拠点としてより一層の都市機能の集積と賑わいの創出を図り、お城を中心とした風格ある城下町盛岡のまちづくりにより都心の再生を目指します。

ⅱ)みんなで気づき、守り育てる盛岡の景観

中心地域は、まちなかを流れる北上川や中津川、岩手山をはじめとする周囲の山並みなど、多くの自然資源があります。また、城下町の風情を残す歴史と伝統に育まれた落ち着いたまちなみが残り、これらが織り成す景観は、市民の大切な財産でもあります。

この大切な都市景観を守り育て、後世に盛岡らしい景観を引き継ぐために、景観形成に関する地域意識のさらなる醸成に努めるとともに、岩手山眺望の確保や建築形態の規制など、まちの記憶を大切にした良好な都市景観の形成に向けて、市民協働の景観づくりを行い、中心市街地の活性化につながる積極的な景観の活用を図ります。

また、これらの取組により、お城を中心とした城下町盛岡らしい風格ある景観づくりを推進します。

iii)さあ始めよう！　身近なところのまちづくり

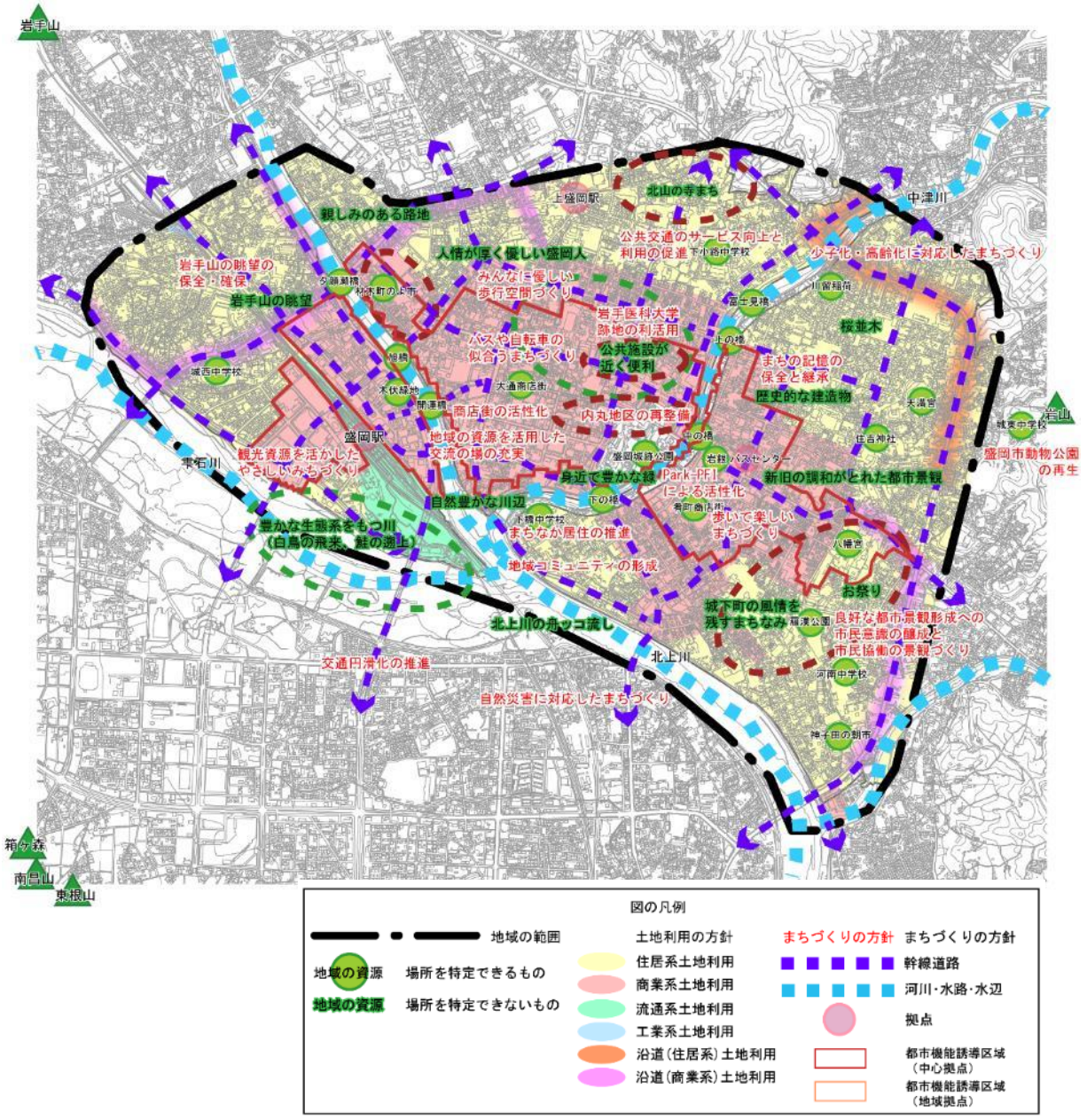
中心地域の住居地区は、歴史あるまちなみを形成してきた地区でもあり、古くからの近所付き合いが大切に続けられています。しかし、少子化・高齢化やライフスタイルの多様化、さらに近年のマンション建設などによって、地区住民間のコミュニティが希薄になったといわれています。

まちなか居住を推進するとともに、地域の安心安全を支えるコミュニティを守り育てるために、身近な自然環境や公共施設、商店街を交流の場として充実させるなど、誰もが集える環境づくりを進めます。また、来訪者にもやさしいまちづくりを進めることにより、様々な交流を図りながら、この地に住まい、この地を愛する心を育む、より良いまちづくりを推進します。

中心地域には、雫石川、北上川及び中津川が流れ、豊かな自然に恵まれた盛岡のまちのイメージを構成しています。また、まちなかの貴重な自然空間であり、河川管理者や市民団体等と連携した盛岡地区かわまちづくり事業などにより、沿川の市街地と一体となった地域の賑わい創出の場や憩いの場、観光振興の場としての利活用を図ります。

一方では、洪水浸水想定区域内にあり、河川沿いの一部が河岸侵食や氾濫流による家屋倒壊などのリスクがあるエリアに含まれています。この災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ



2）上田地域

上田地域の平成 15 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

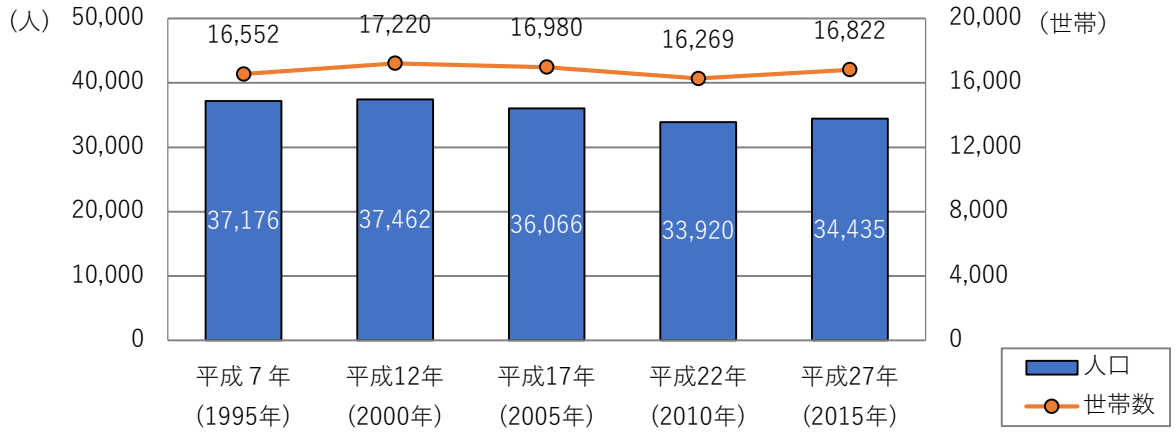
（1）地域の現況

①地域データ

ⅰ）人口･世帯数

上田地域の人口と世帯数は概ね横ばいで推移しています。

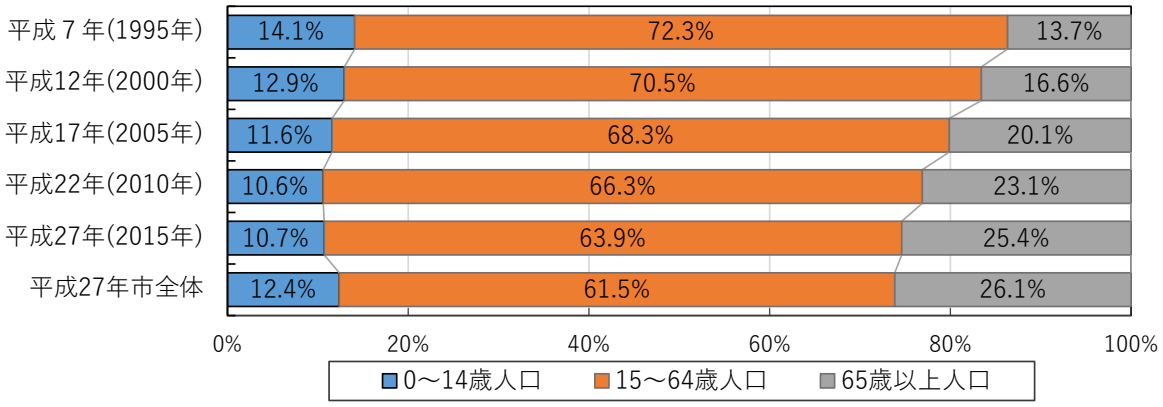
人口･世帯数の推移　資料：国勢調査



ⅱ）年齢階層別人口割合

上田地域は、少子化・高齢化の傾向にあり、市全体に比べ０～14 歳の割合が低くなっています。

年齢階層の推移　資料：国勢調査

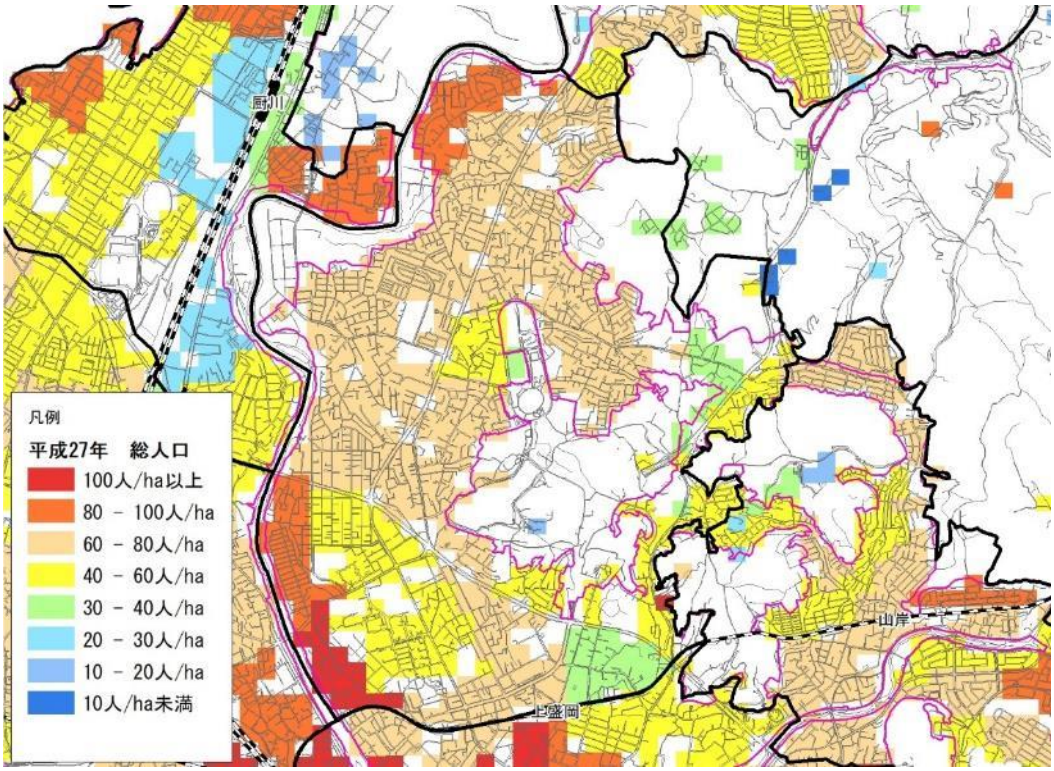


iii）人口の分布状況

100 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられますが、将来的には、西下台の一部を除き人口の減少が見込まれます。

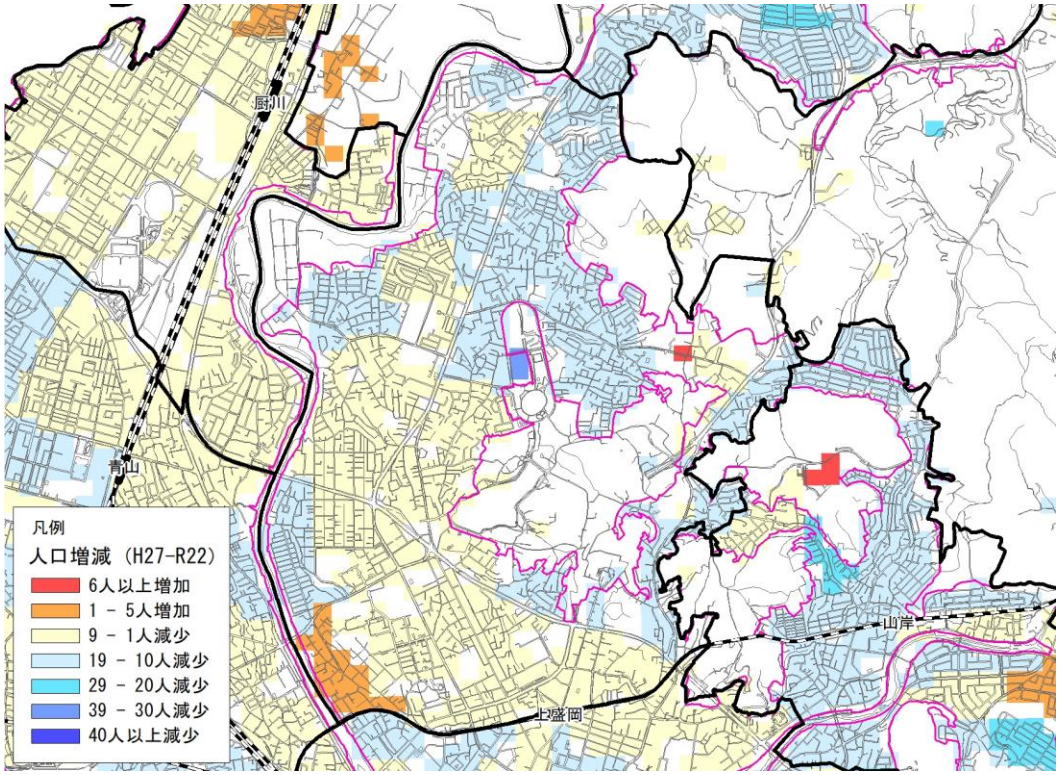
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲が地域の東側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図　資料：平成 27 年国勢調査結果

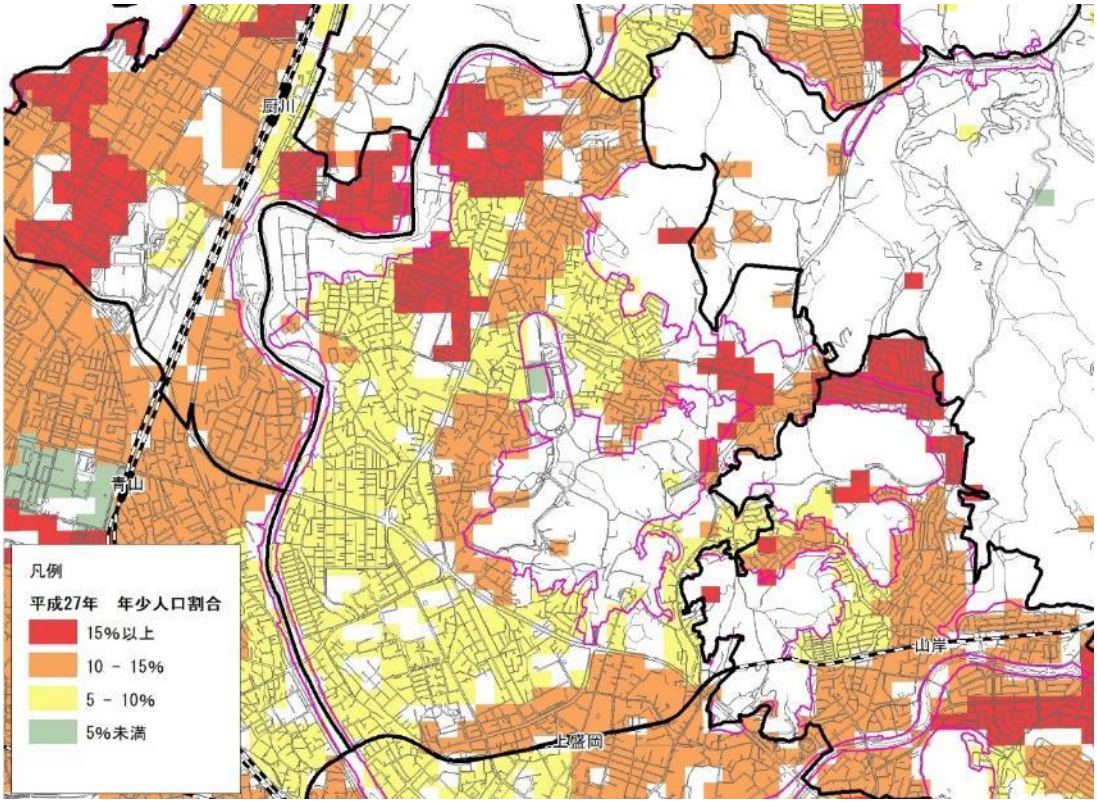


人口増減予測図（平成 27 年～令和 22 年）

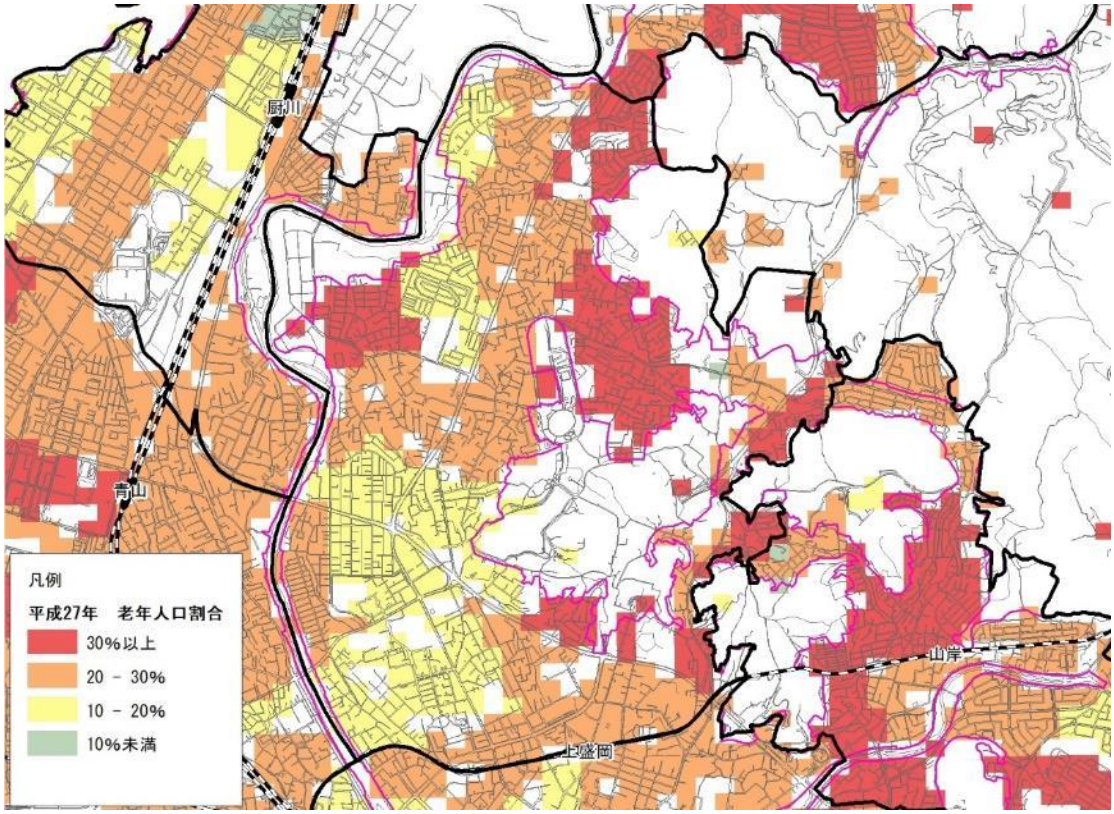
資料：平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果

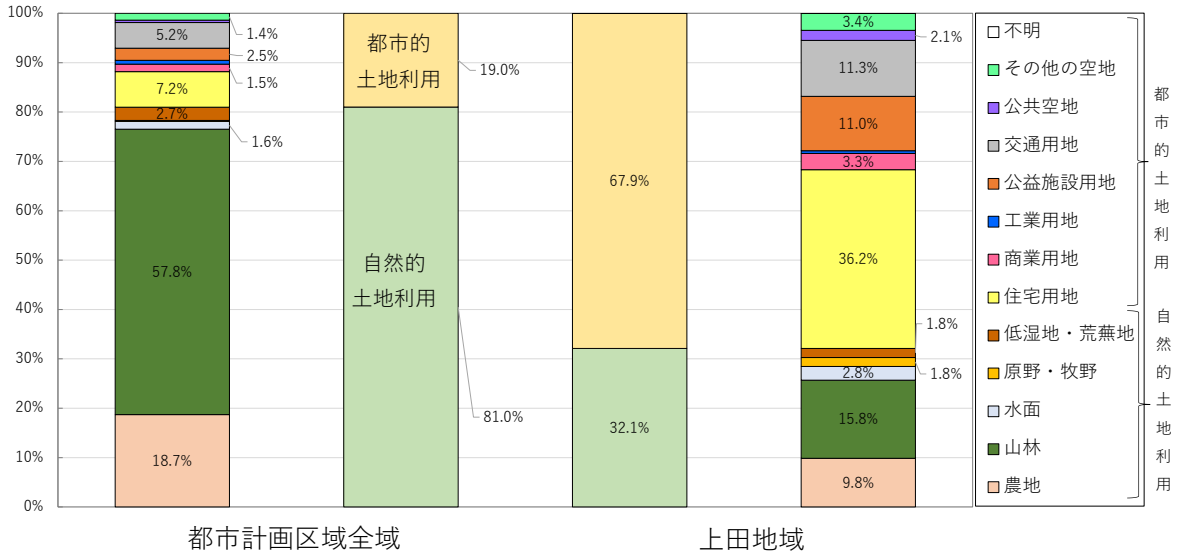


ⅳ）土地利用の状況

上田地域の土地利用は、約 68％が都市的土地利用となっています。都市的土地利用の過半を住宅用地が占めており、次いで公益施設用地と交通施設用地の割合が多くなっています。

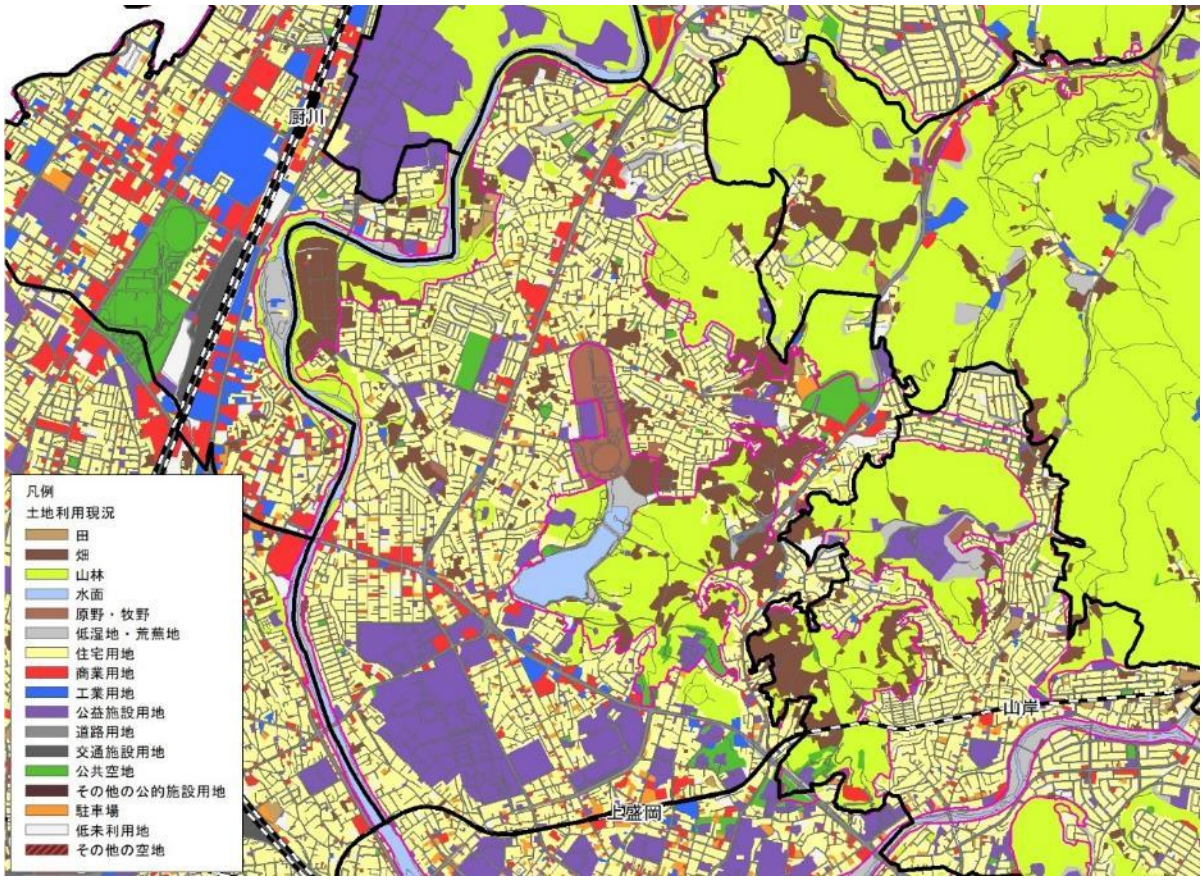
自然的土地利用については、山林が最も多く、次いで農地が多くなっています。

土地利用現況図　資料：平成 27 年都市計画基礎調査



（地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。）

土地利用現況図　資料：平成 27 年都市計画基礎調査

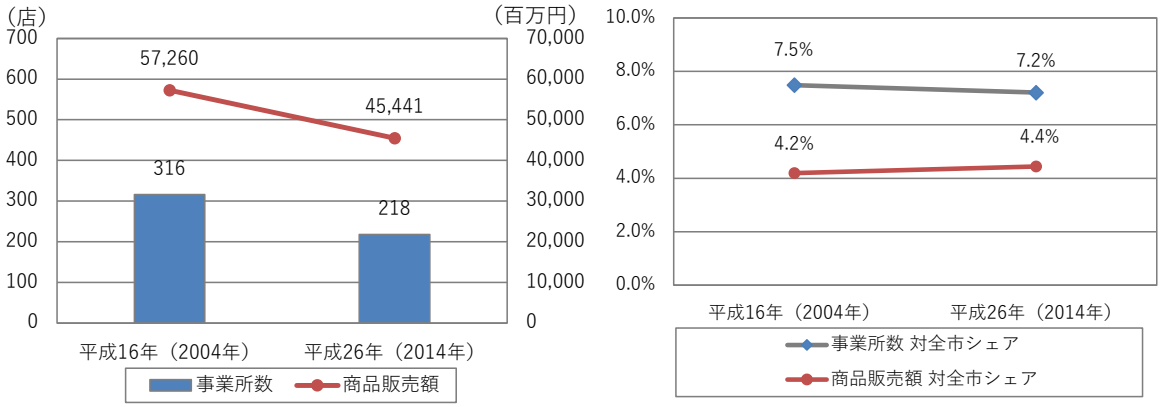


v）商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは約７％、商品販売額の対全市シェアは約４％となっています。

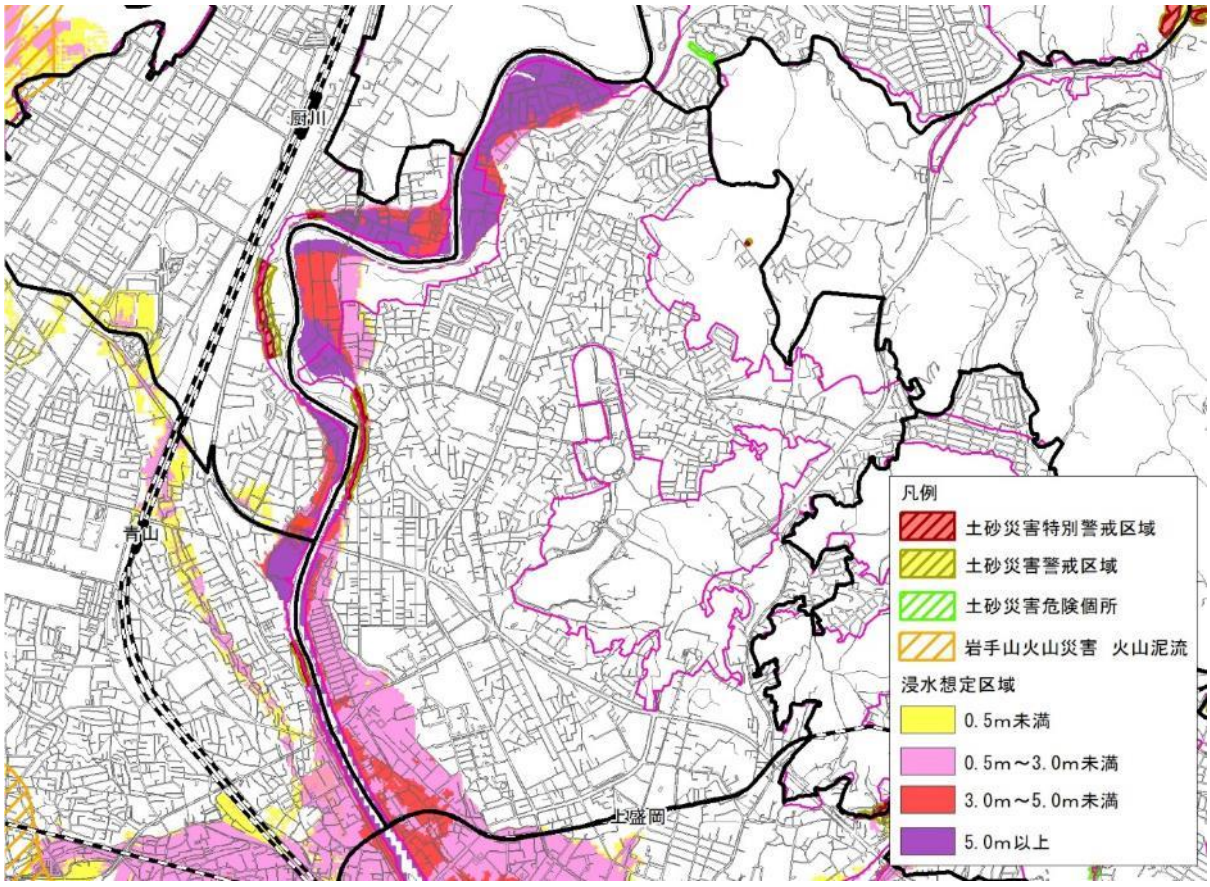
産業関連指標と対全市シェア　資料:商業統計



vi）災害リスクの分布状況

北上川沿いに洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域などが分布しており、浸水深が 5.0m以上となる区域もあります。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料:国土交通省、岩手県



②市民意見

ⅰ)地域の良いところ

平成 15 年度に策定した地域別構想（上田地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

（ ）は班員の主な居住地域

1班（高松等）
- ○住むには一等地
- ○歴史を感じるまち（上田茶屋、上田組町）
- ○上田の宝「高松の池」
- ○高校や大学、図書館などがある文教のまち

2班（緑が丘等）
- ○高松の池、北山散策路、黒岩山、小鹿牧場
- ○一里塚、奥街道
- ○文教のまち
- ○病院や買物の場があり高齢者にも安心

3班（黒石野等）
- ○大きなお店や病院、図書館などがあって便利
- ○学校が多い文教地区
- ○歴史のある街道や神社、壬生義士伝
- ○緑の回廊（高松の池～黒岩～大森山～小鹿牧場）

4班（上田等）
- ○山や川、高松の池、巨木など自然がある
- ○市街地に近く公共施設もありとても便利
- ○電波文化の発祥地
- ○地域の中心に岩大があり若者が多い

利便性が高く快適で住みやすいまち

便利で暮らしやすいまち
- ●中心部へのアクセス、バスの便がよい
- ●国道4号、46号があって便利
- ●北の商業地幹線道路を中心にデパート、スーパーが多い
- ●袋小路が多く車がたくさん通らない（道路で遊べる）
- ●きれいな公園がある

競馬場跡地の利用

高齢者にも安心
- ●病院医院が多く安心
- ●閑静な住宅地で精神面によい
- ●人間関係が良い
- ●子供が素直
- ●いろいろな活動がある

環境

岩大を中心とした文教のまち
- ●宮沢賢治も学んだ歴史のある岩手大学
- ●若者が多く、留学生も住んでいる
- ●高校や中学校、小学校、幼稚園
- ●図書館や公民館、スポーツ施設

文教

歴史を感じるまち

街道の歴史
- ●奥街道
- ●一里塚は地域コミュニティの中心的な役割
- ●上田茶屋、上田組町

歴史めぐり
- ●神社（高松神社・山神社・八幡神社）
- ●壬生義士伝の舞台
- ●手掛の松がある
- ●横川省三の像があった

歴史

地域のシンボル高松の池と美しい景観

地域の宝「高松の池」
- ●桜（桜百選）、白鳥、カッコーの鳴声、カモシカが現れる
- ●美術作品がある湖畔が良い
- ●昔は水がきれいで泳げた

周囲の山々、岩手山の景観
- ●北山の散策路、鉢の皮～小鹿公園
- ●黒岩山、大森山、湧水、北上川
- ●黒石野付近から見る岩手山

自然

便利で暮らしやすく、自然や歴史の豊かさを感じさせる文教のまち

ii)地域の課題

平成 15 年度に策定した地域別構想（上田地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

（ ）は班員の主な居住地域

1班（高松等）
- ○学生と住民のコミュニケーションが足りない
- ○高松の池など自然の管理が行き届いていない
- ○道路の渋滞や狭い路地
- ○競馬場跡地の利用が見えない

2班（緑が丘等）
- ○住宅地の道路が狭い，除雪が問題
- ○歩道の段差、切り下げがあって歩きづらい
- ○少子高齢化
- ○住民のふれあいが不足、マナー低下

3班（黒石野等）
- ○上田深沢線の渋滞、交通事故
- ○住宅地の道路が狭くて入り組んでいる
- ○バスの便が悪いところといい所の差がありすぎる
- ○住宅の不統一感、商店の看板が景観を壊している

4班（上田等）
- ○住宅地内の道路が狭く、冬は凍結で歩きにくい
- ○鉄道、バスが使いづらい
- ○上田の商店街に活気がない
- ○学生との交流、地域の活動が少ない

自然

地域の宝「高松の池」が泣いている
- ●花見の時の混雑
- ●池の水質が心配
- ●周囲の林が荒れてきている
- ●野鳥が減ってきている

競馬場跡地の利用が見えない

まち

まちの環境が変容してきている
- ●商店街が淋しくなってきている
- ●少子化でアパート街の将来が不安
- ●夜の岩大前通りは怖い（変な車が走る）
- ●住宅の不統一感，商店の看板が景観を壊している

人

コミュニティのつながりが薄らいでいる
- ●アパート住民、学生の自治活動への参加が少ない
- ●学生との交流が少ない
- ●近所付き合い、連帯感が低下している
- ●お祭りが少ない
- ●ゴミ出しのマナーが悪い
- ●自転車利用のマナーが悪い、右側通行や無灯火

施設

こんな施設が不足している
- ●交番がない（緑が丘地区）
- ●公園が小さい、子供たちの遊ぶ場所がない
- ●市の施設が少ない（緑が丘，黒石野）
- ●文教地区といわれながらも本屋が少ない

道

悩みの多い道路，交通を巡る問題

身近な住宅地内の道路が危ない
- ●住宅地が乱雑に開発され、道が狭くて複雑
  →わかりづらい、防災対策が心配
- ●歩道が少ない
- ●電柱が道路にはみ出している
- ●側溝が古くなるとガタガタうるさい
- ●通学路が危険、歩道に柵がほしい
- ●抜け道に車が入ってきて危険
- ●坂道がきつい、凍ると大変
- ●歩道の段差、切り下げがあって歩きづらい

幹線道路もパンク状態
- ●4号、46号が地域を分断
- ●通勤時間帯や土日の渋滞
- ●上田商店街の道路が狭い、バスが通るのに
- ●バイパス横断の歩道信号が短い、年寄りには大変

鉄道，バスが活かされていない
- ●中心部以外へのバスが不便、路線がない
- ●バスの本数が少ない
- ●バスルートが行きは上田通り、帰りは一高前
- ●バス停の時刻表の字が小さくて見えない
- ●鉄道はダイヤが少なく使えない

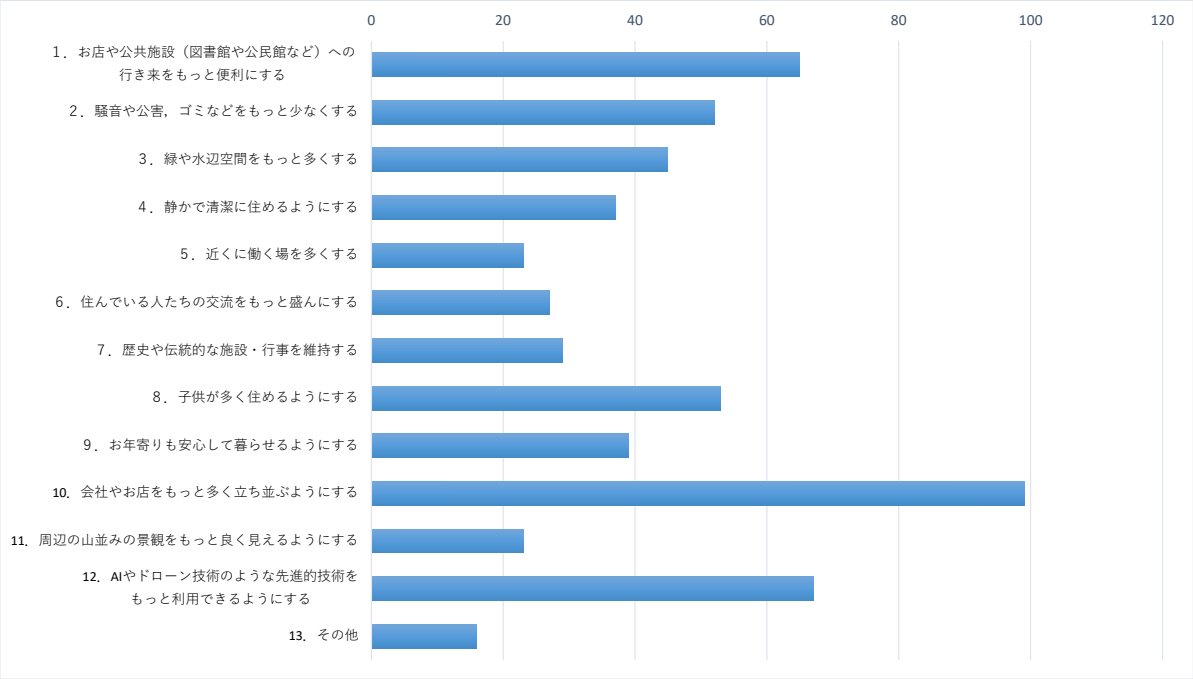
除雪対策が不十分
- ●除雪の仕方が悪く道路に山盛り
- ●除雪に入ってこない道路がある
- ●排雪の場所がない

道路交通の課題や住環境対策に向けて、住民や学生の力を集めたまちづくり

iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（上田地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代である上田地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（上田地域の 216 人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「先進的技術をもっと利用できるようにする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「子どもが多く住めるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公園整備に関する意見（新たな公園の整備など）、道路整備に関する意見（道路の拡幅、舗装等の修繕など）が多くありました。

ⅳ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（上田地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、上田地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔29 町内会・自治会のうち 16 団体（55%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●南部藩に関わる歴史のまち。
●主要道のバス路線は官庁街・盛岡駅方面には確立されており、ダイヤも充分である。
●高松公園一帯は近年、こがねパーク高松が整備されるなど、盛岡市の代表的な憩いの場となり、地域の活性化に充分寄与している。
●小学校、中学校、高等学校、大学が存立する文教地区。

【課題】

●道路が狭く歩行者が歩きにくい。
●少子化・高齢化が進み、地域のコミュニケーションの核になっている町内会の役員のなり手がいない。空き家の増加も不安要素である。

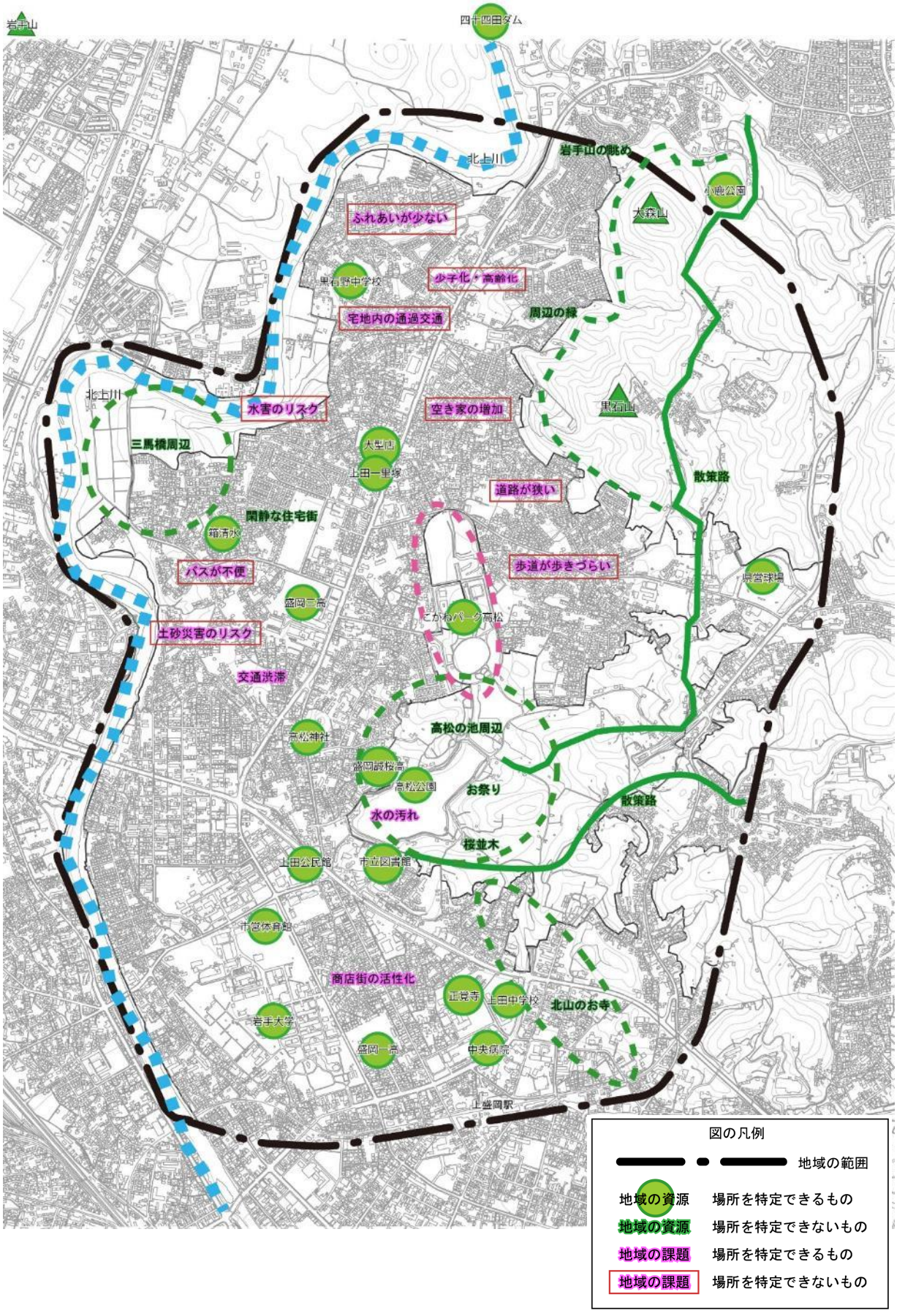
ⅴ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（上田地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、上田地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔29 町内会・自治会のうち 13 団体（45%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

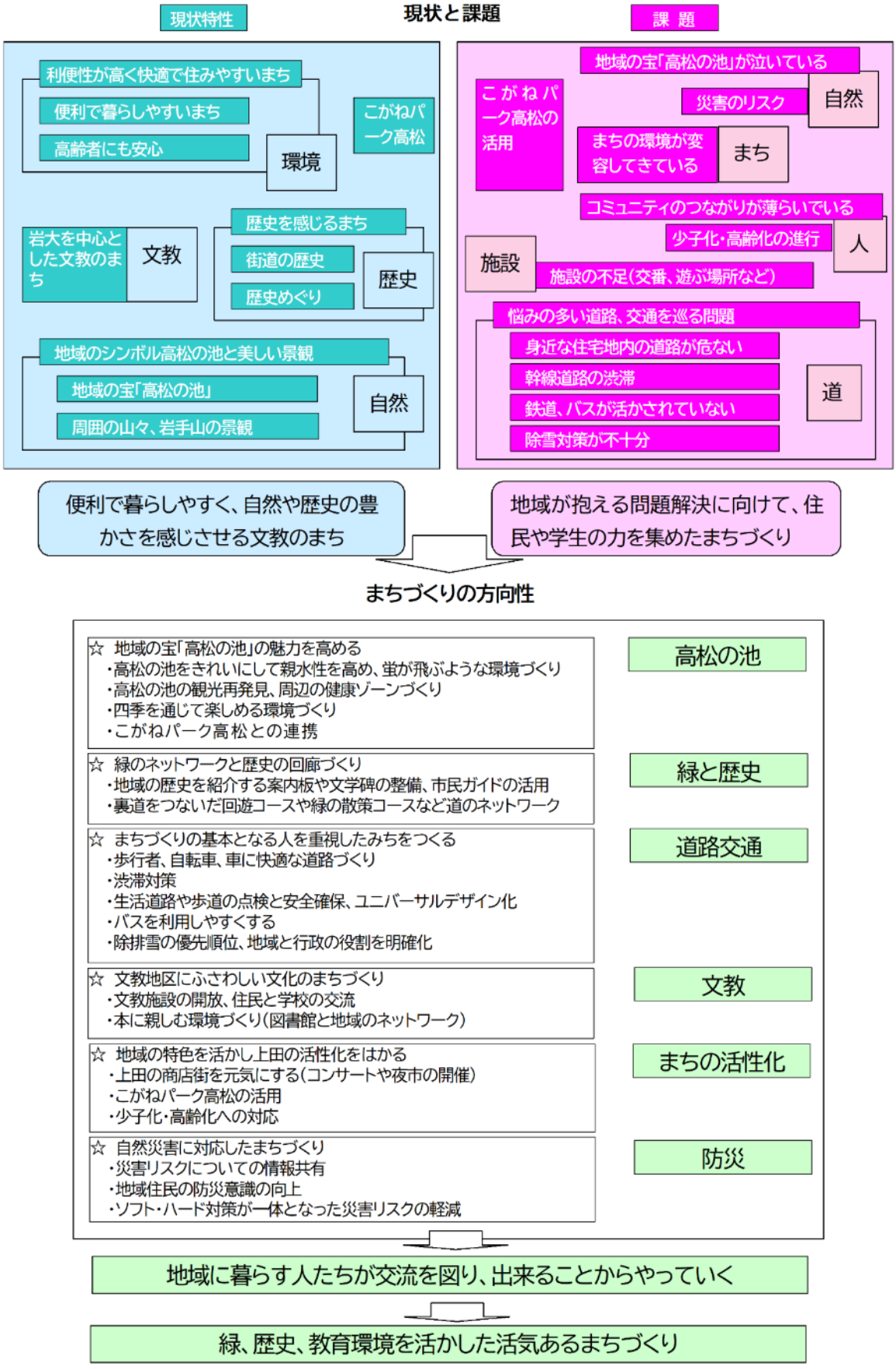
●高松の池、こがねパーク高松と四季を通じた自然環境を加味した魅力を活かしたまちづくり。
●高齢者にとっての住みやすさ、子育て世代にとっての住みやすさ、若者にとっての住みやすさ、それぞれに違いはあるが、共通するのは安全・安心・便利さということ。
●自然と歴史に満ちた教育文化の高い住みよい環境をみんなで共有して築き上げる。
●活動の輪を広げみんなが一体となってまちをつくる。こがねパーク高松と高松の池一帯を有効に活用して工夫を図りながら賑わいのある拠点として地域づくりに取り組みたい。
●まちづくりに関わろうとする住民の気持ちを引き出すことが必要。

地域の資源・課題マップ


岩手山
四十四田ダム
北上川
岩手山の眺め
小鹿公園
大森山
ふれあいが少ない
黒石野中学校
少子化・高齢化
宅地内の通過交通
周辺の緑
北上川
水害のリスク
空き家の増加
黒石山
三馬橋周辺
大里町
上田一里塚
散策路
道路が狭い
閑静な住宅街
箱清水
バスが不便
歩道が歩きづらい
県営球場
盛岡一高
こがねパーク高松
土砂災害のリスク
交通渋滞
高松神社
高松の池周辺
盛岡誠桜高
高松公園
お祭り
散策路
水の汚れ
桜並木
上田公民館
市立図書館
市営体育館
商店街の活性化
正覚寺
上田中学校
北山のお寺
岩手大学
盛岡一高
中央病院
上盛岡駅
図の凡例
地域の範囲
地域の資源　場所を特定できるもの
地域の資源　場所を特定できないもの
地域の課題　場所を特定できるもの
地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成 15 年度に策定した地域別構想（上田地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『歴史、緑、教育、人と街、みんなでつくろう住みよい上田』

②基本方針

ⅰ)上田の魅力を活かしたまちづくり

上田地域は、中心市街地に隣接する住宅地域で、岩手大学をはじめ小中学校や高校など多くの教育施設のほか、図書館、体育館などが立地しています。

このような地域の特性を活かし、地域と学校との交流を深めながら、文教のまちにふさわしい文化活動、情報発信などに取り組みます。

また、地域のシンボルである高松の池や桜の花見客等で賑わう高松公園は、市民の誇りであり、北上川や黒石山・大森山など周辺の自然とともに豊かな緑を演出しています。

高松公園は、春の桜並木、夏の蛍、秋の紅葉、冬の白鳥の飛来など、四季を通じて楽しめる、自然豊かな公園づくりや自然環境の持つ多様な機能を活用するグリーンインフラの取組を進め、こがねパーク高松（旧盛岡競馬場跡地）とともに、市民の憩いの場や観光拠点としての魅力を高めます。

これらの取組により、文化的な環境や恵まれた自然環境など、地域の魅力を守り活かしたまちづくりを推進します。

ⅱ)知恵と工夫をこらしながら住みよい環境をつくる

少子化・高齢化の進行や空き家等の増加が顕在化する中、上田地域の特性をもとに、地域の課題解決に向けて、知恵と工夫により、住みよい環境整備に取り組みます。

道路は、防災にも配慮しながら、高齢者や障がい者も含めすべての人が安心して利用できるユニバーサルデザインを基本にした歩道や交通安全施設など、幹線道路と生活道路、それぞれの機能に応じた整備とともに、除雪対策などを進めます。

また、公共交通は、バスやＪＲ山田線について、誰もが利用しやすい運行システムの工夫と活用により、渋滞の解消や中心地域へのアクセス性の向上を図ります。

さらに、住宅地と中心部を歩いて結ぶ裏道をつないだ回遊コースや丘陵・水辺・歴史資源などを巡る緑の散策コースなど、自転車利用者や歩行者が楽しみながら通行し、まちの魅力を再発見できるような道のネットワークづくりを推進します。

地域の歴史的な遺産の活用のほか、住民の福祉やふれあいを促進する拠点施設の整備を進めることにより、誰もが安心して生活し、交流が深まる都市環境の形成を目指します。

iii)活動の輪を広げ、みんなが一体となってまちをつくる

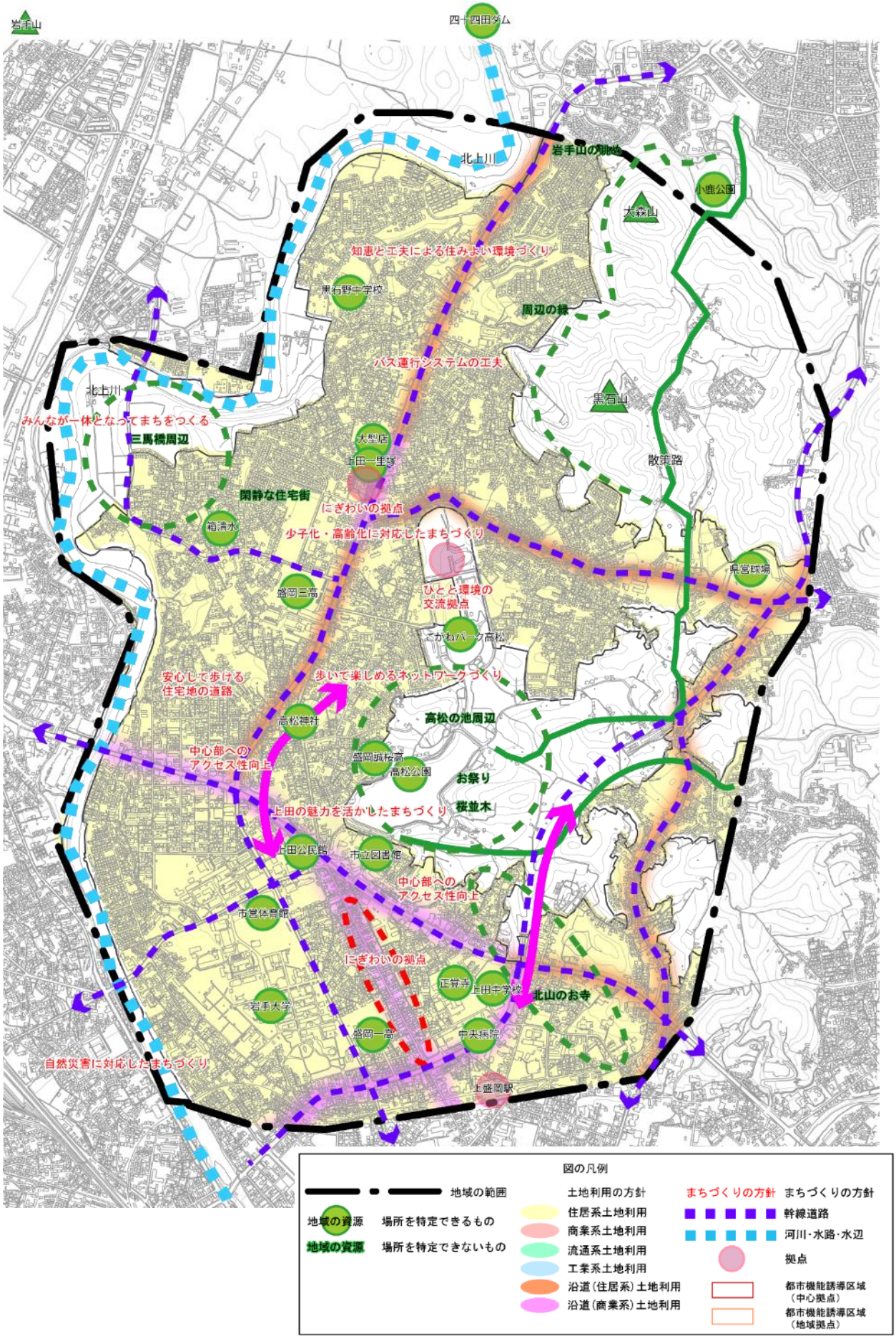
住民と行政の役割分担と協力のもと、地域が一体となったまちづくりを進めます。

地域に暮らす住民や学生が、ともにまちを歩き、互いに会話を交わしながら、地域の課題や将来に対する思いを共有し、できることから取り組むことにより、まちづくりの活動の輪を広げます。

さらに、上田商店街や緑が丘地区を地域のにぎわい拠点として、商店街の方々と住民や学生などの連携によるイベントやフリーマーケットを開催するなど、魅力あるコミュニティづくりを推進します。

防災面では、地域を流れる北上川沿いが、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域などに含まれています。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ



3)松園地域

松園地域の平成 13 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

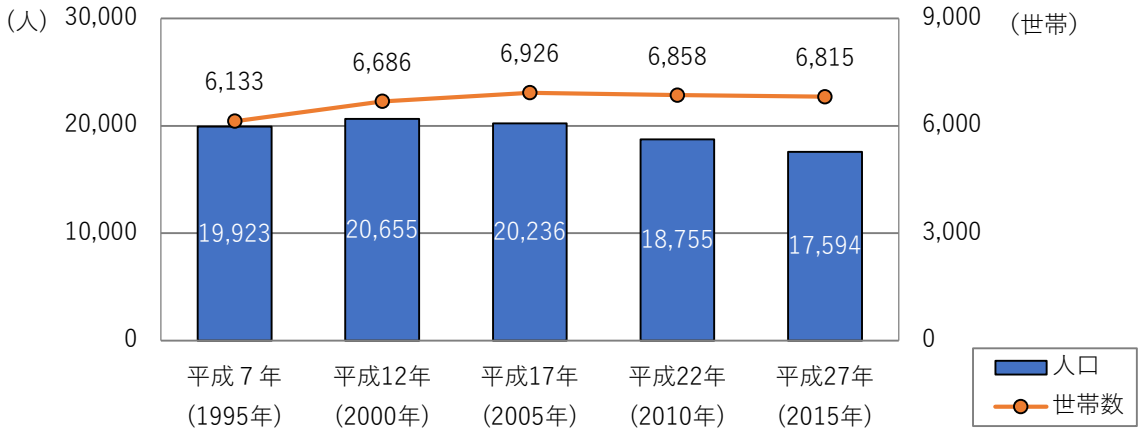
(1)地域の現況

①地域データ

ⅰ)人口･世帯数

松園地域の人口は減少傾向、世帯数は微減傾向にあります。

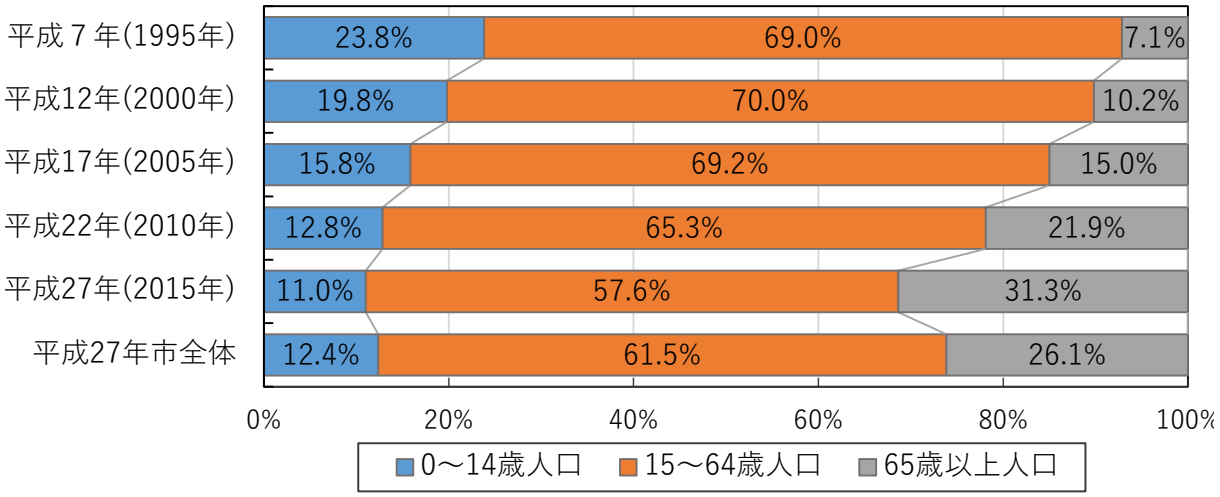
人口･世帯数の推移　資料:国勢調査



ⅱ)年齢階層別人口割合

松園地域は、少子化・高齢化の傾向にあり、市全体に比べ、特に 65 歳以上人口の割合が高くなっています。

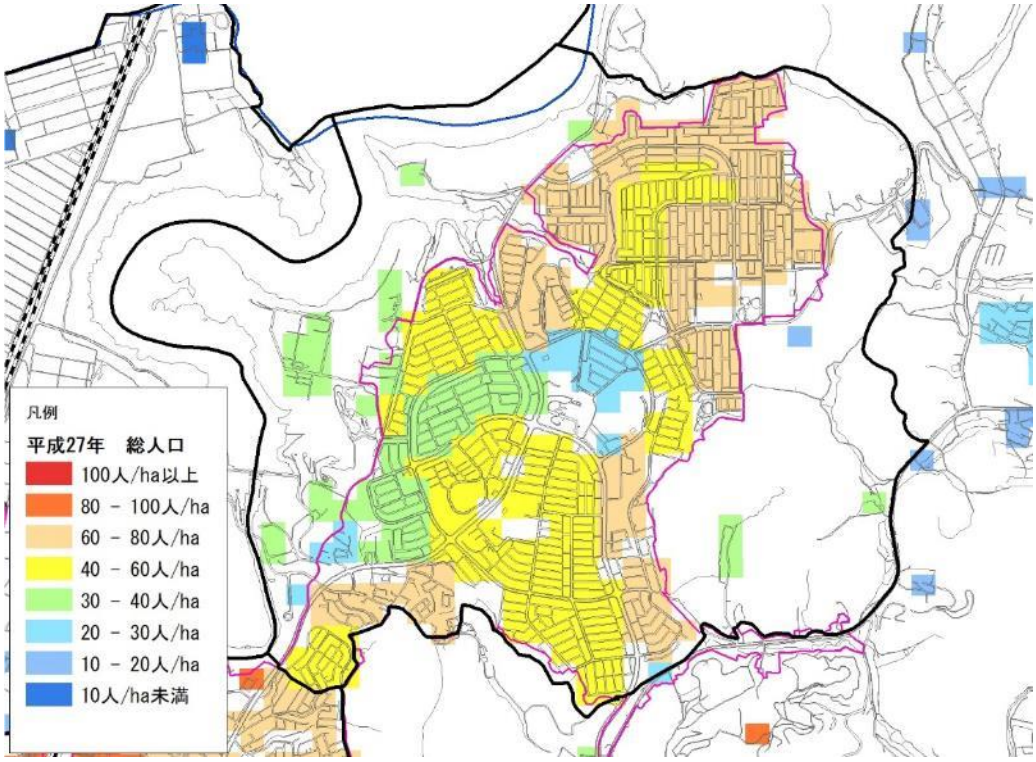
年齢階層の推移　資料:国勢調査



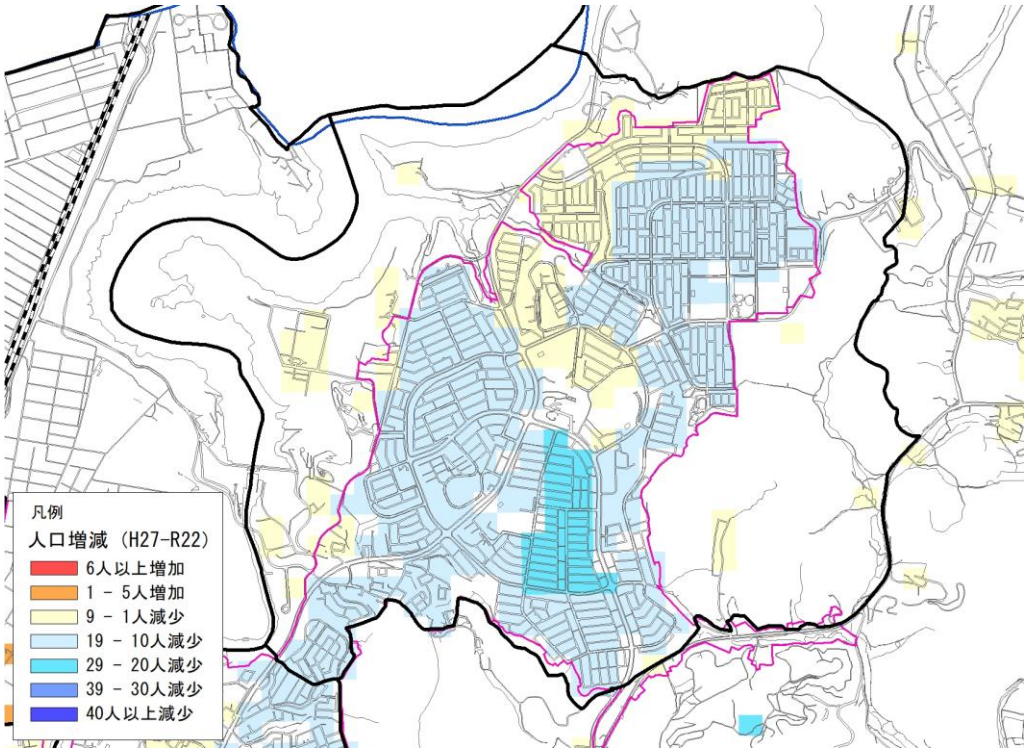
iii）人口の分布状況

60～80 人/ha の人口が集積しているエリアが地域の北側にみられます。
全域において将来的に人口の減少が見込まれます。
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲が地域の南側に分布しています。

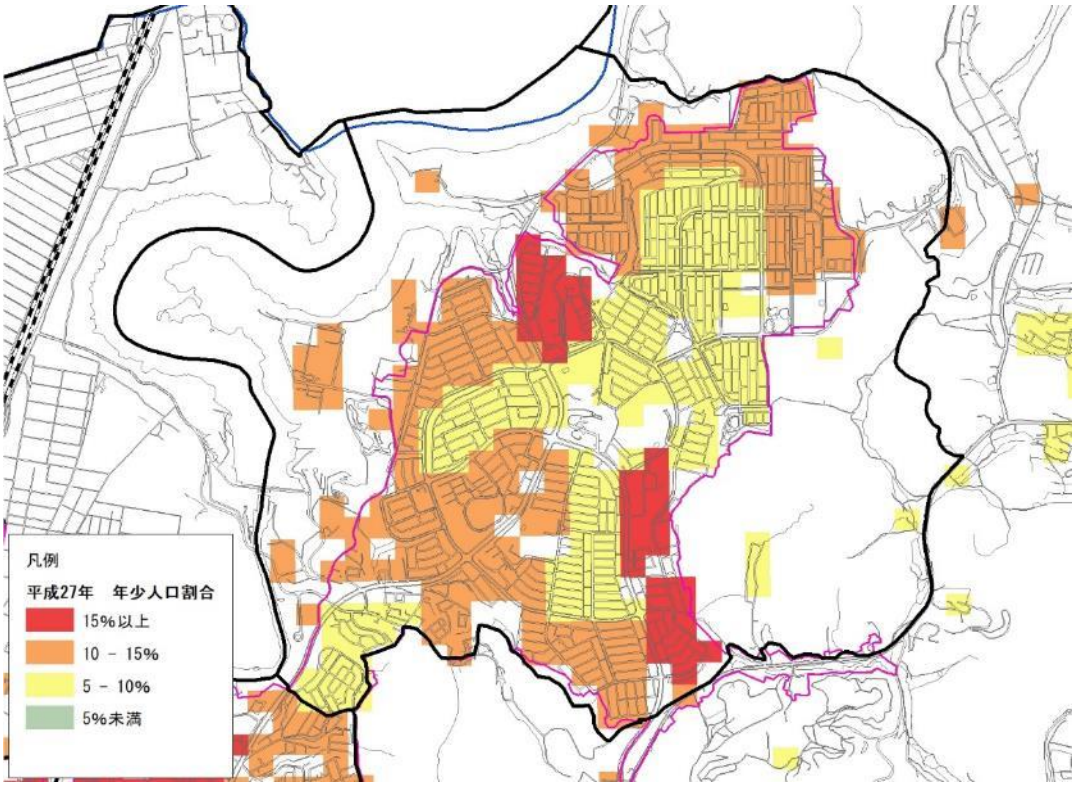
100mメッシュ総人口分布図　資料：平成 27 年国勢調査結果



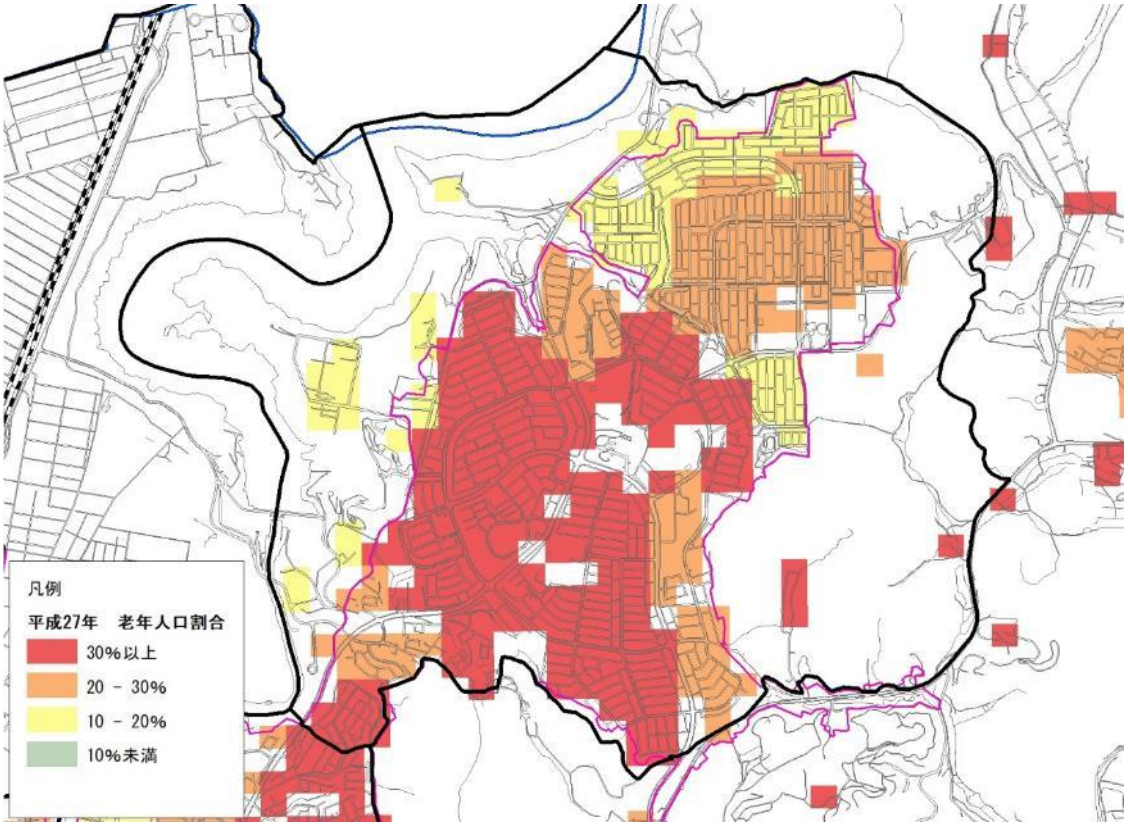
人口増減予測図（平成 27 年～令和 22 年）
資料：平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



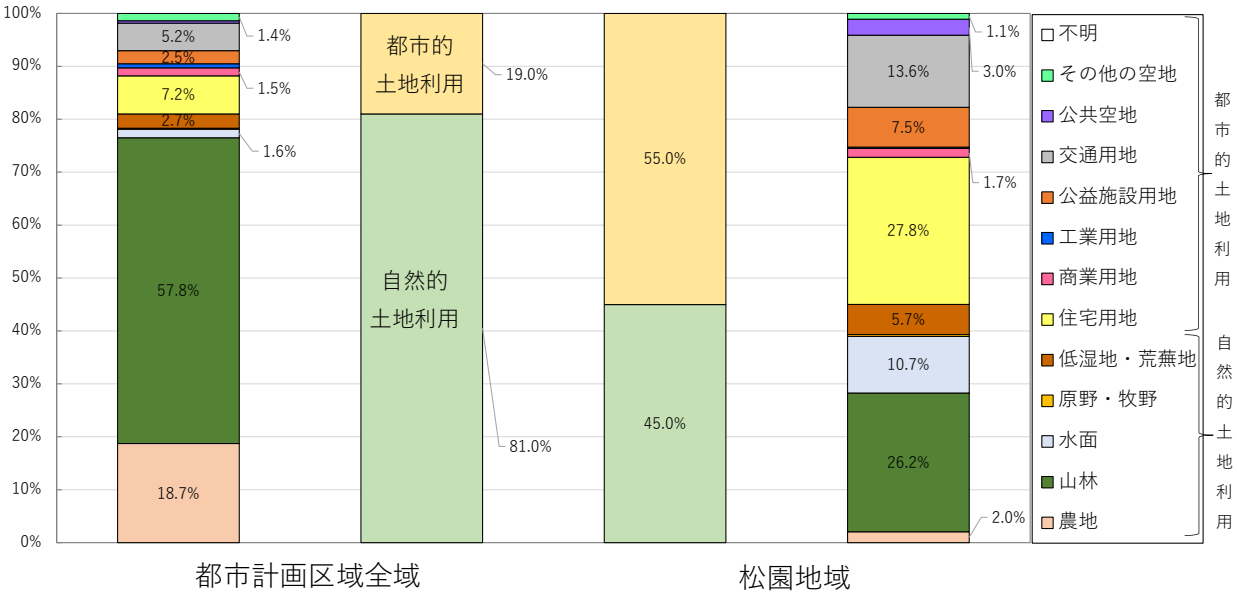
ⅳ）土地利用の状況

松園地域の土地利用は、都市的土地利用が 55%、自然的土地利用が 45%となっています。都市的土地利用においては、住宅用地がその過半を占めていますが、一方、工業用地や商業用地の割合は低くなっています。

自然的土地利用においては、山林が占める割合が高く、農地は少ない地域となっています。

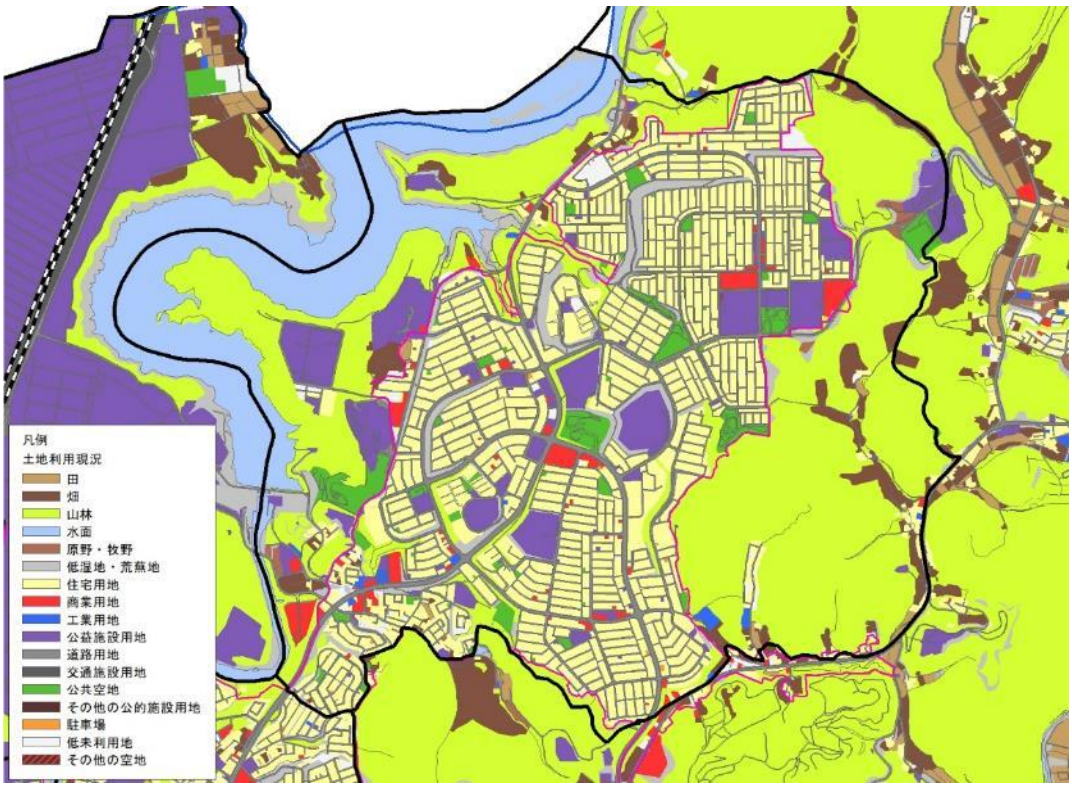
松園地域は、豊かな緑に囲まれた住環境が地域の特色となっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



（地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。）

土地利用現況図　資料:平成 27 年都市計画基礎調査

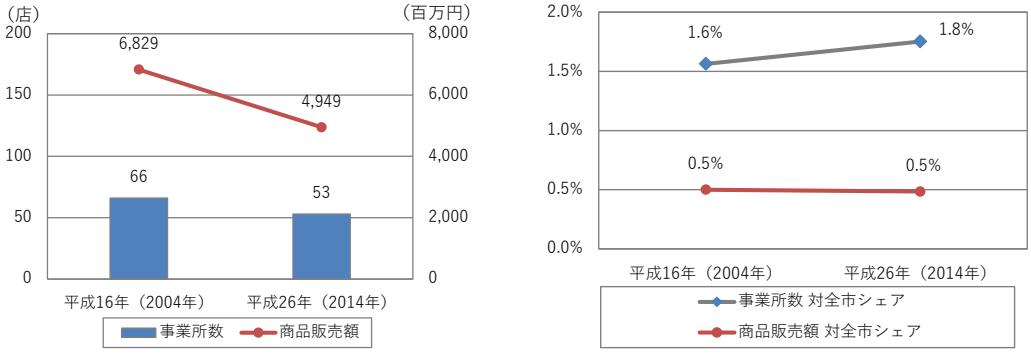


v）商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にありますが、その対全市シェアは概ね横ばい傾向となっています。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは 1.8%、商品販売額の対全市シェアは 0.5%となっています。

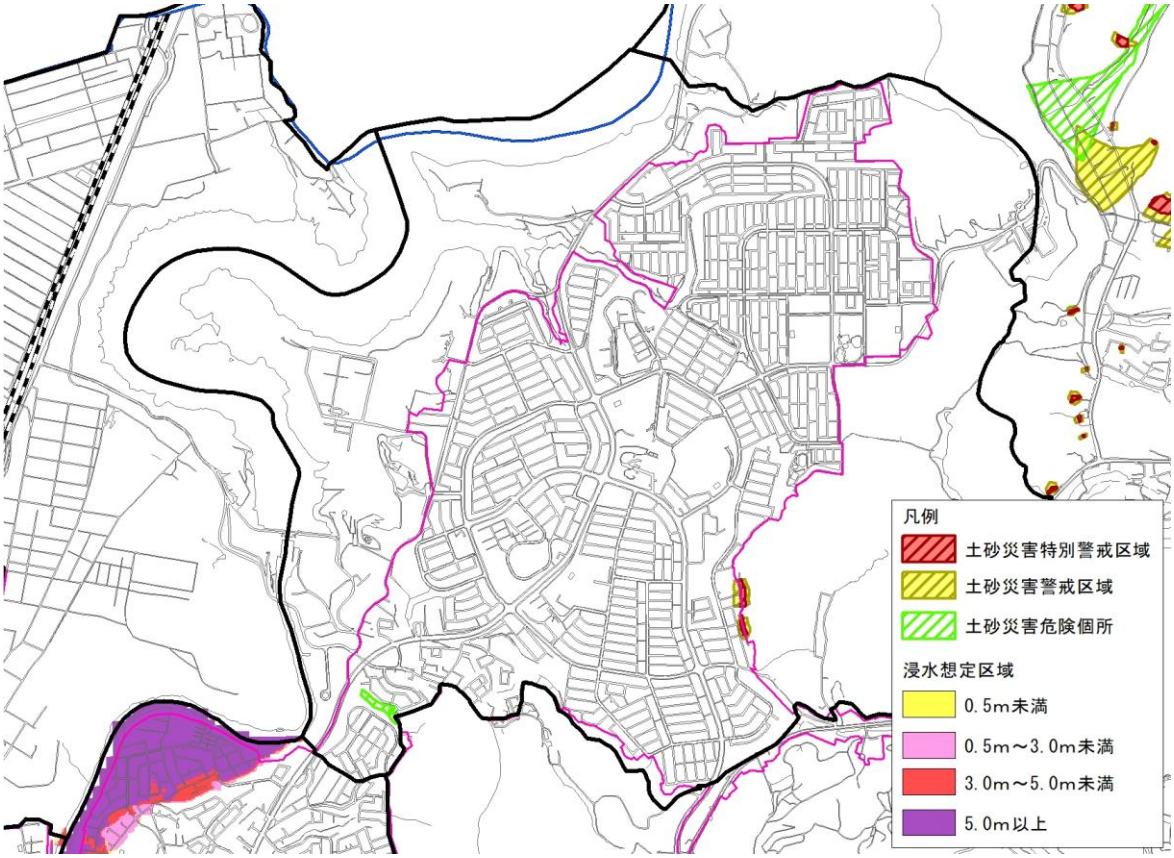
産業関連指標と対全市シェア　資料:商業統計



vi）災害リスクの分布状況

地域内に洪水浸水想定区域はありませんが、一部に土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所が分布しています。

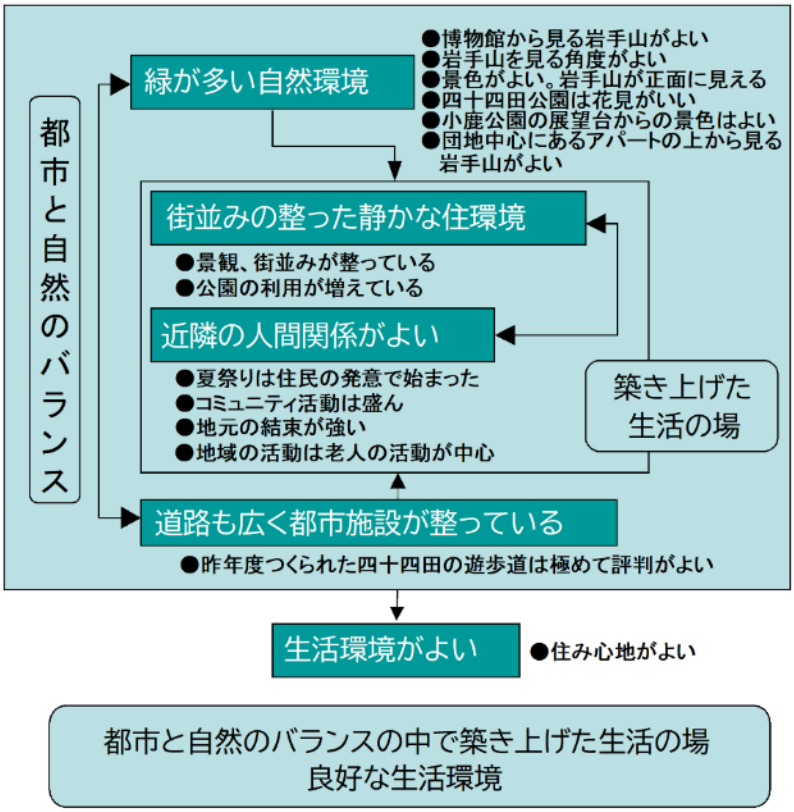
洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料:国土交通省、岩手県

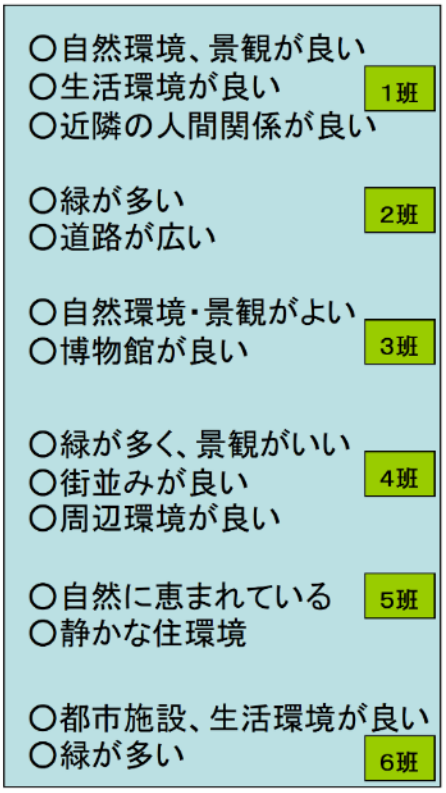


②市民意見

ｉ)地域の良いところ

平成 13 年度に策定した地域別構想（松園地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

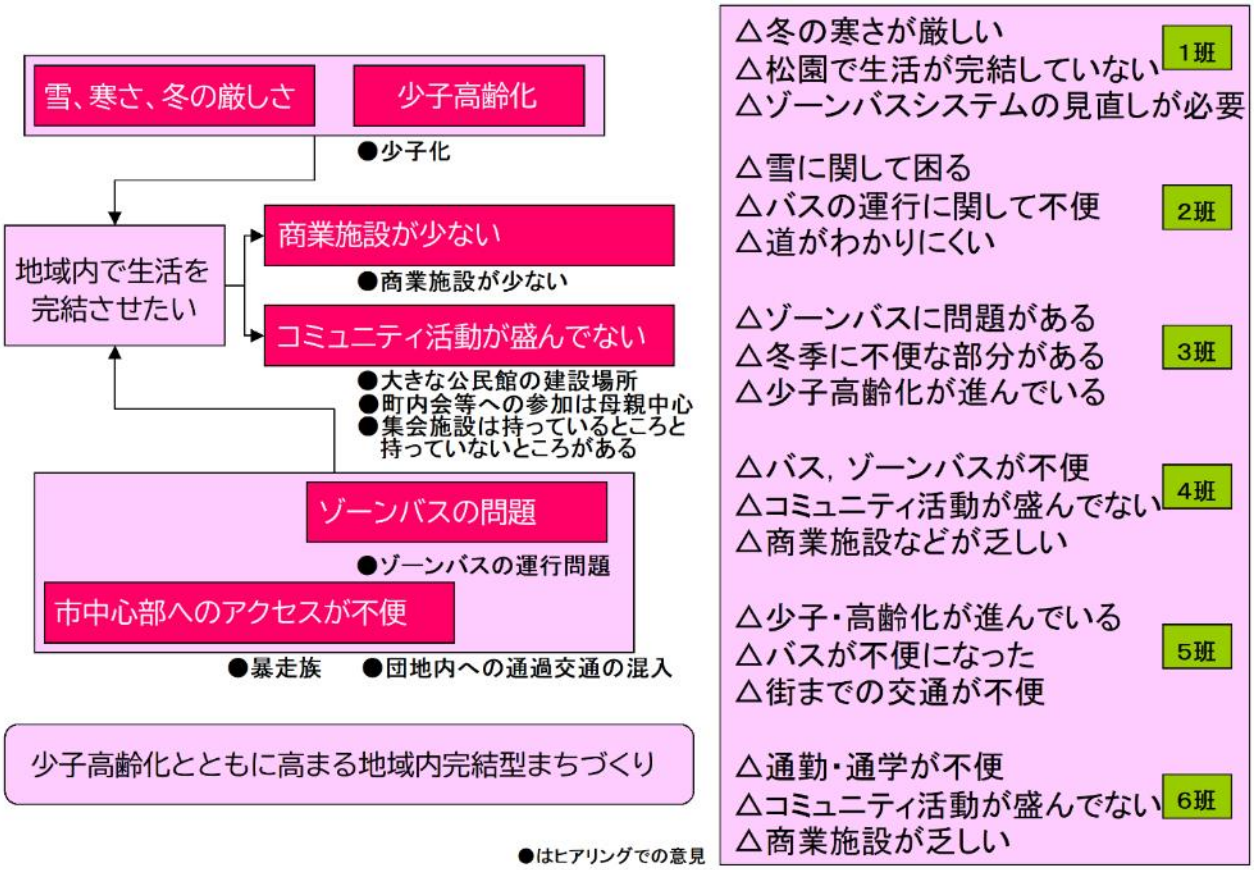




●はヒアリングでの意見

ii)地域の課題

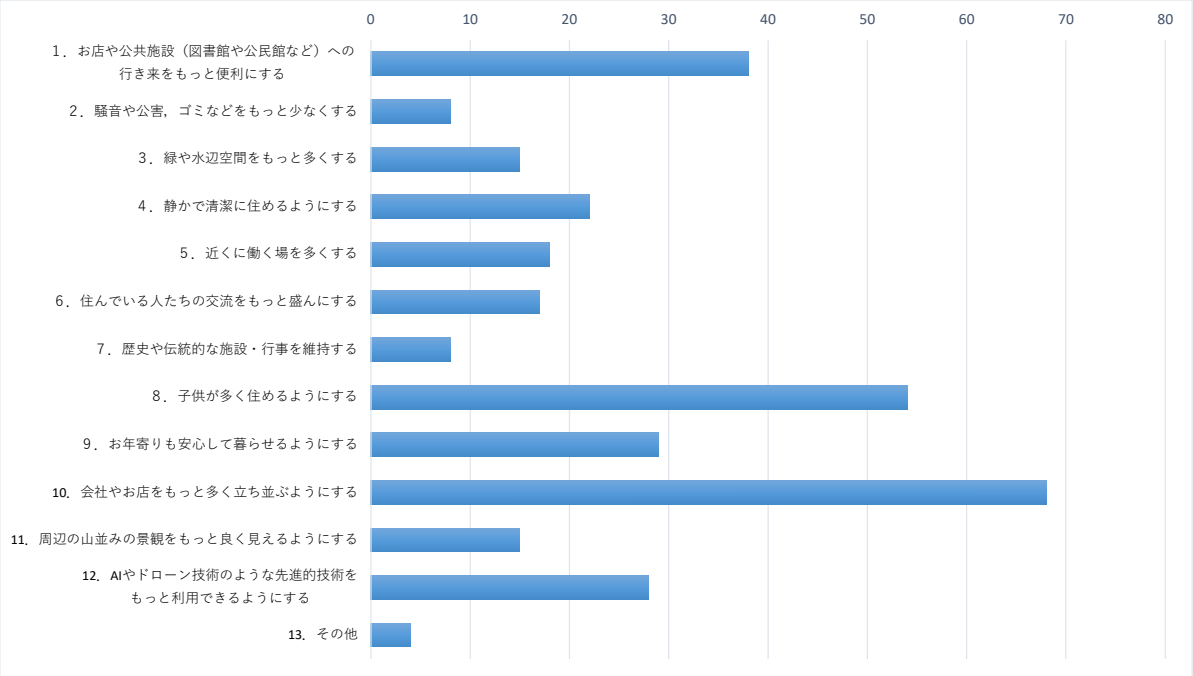
平成 13 年度に策定した地域別構想（松園地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



iii)中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（松園地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代である松園地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（松園地域の 110 人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「子どもが多く住めるようにする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公共施設の整備に関する意見（新たな施設の整備など）、防犯に関する意見（街灯の増設など）が多くありました。

ⅳ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（松園地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、松園地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔14 町内会・自治会のうち９団体（64%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●小鹿公園、四十四田ダムなど
●自然環境もよく、近隣の人間関係も比較的よい地域である。
●静かで緑が多い。

【課題】

●若い人にも魅力のある地域づくりが必要。商業施設が少ないなど、魅力が足りないことが、幼稚園や学校等子育てには恵まれている地域にもかかわらず若い人が居住しない理由ではないかと思う。
●高齢化が進み、管理が行き届かない住宅が目に付く。
●空き家が増え、活用されていない。

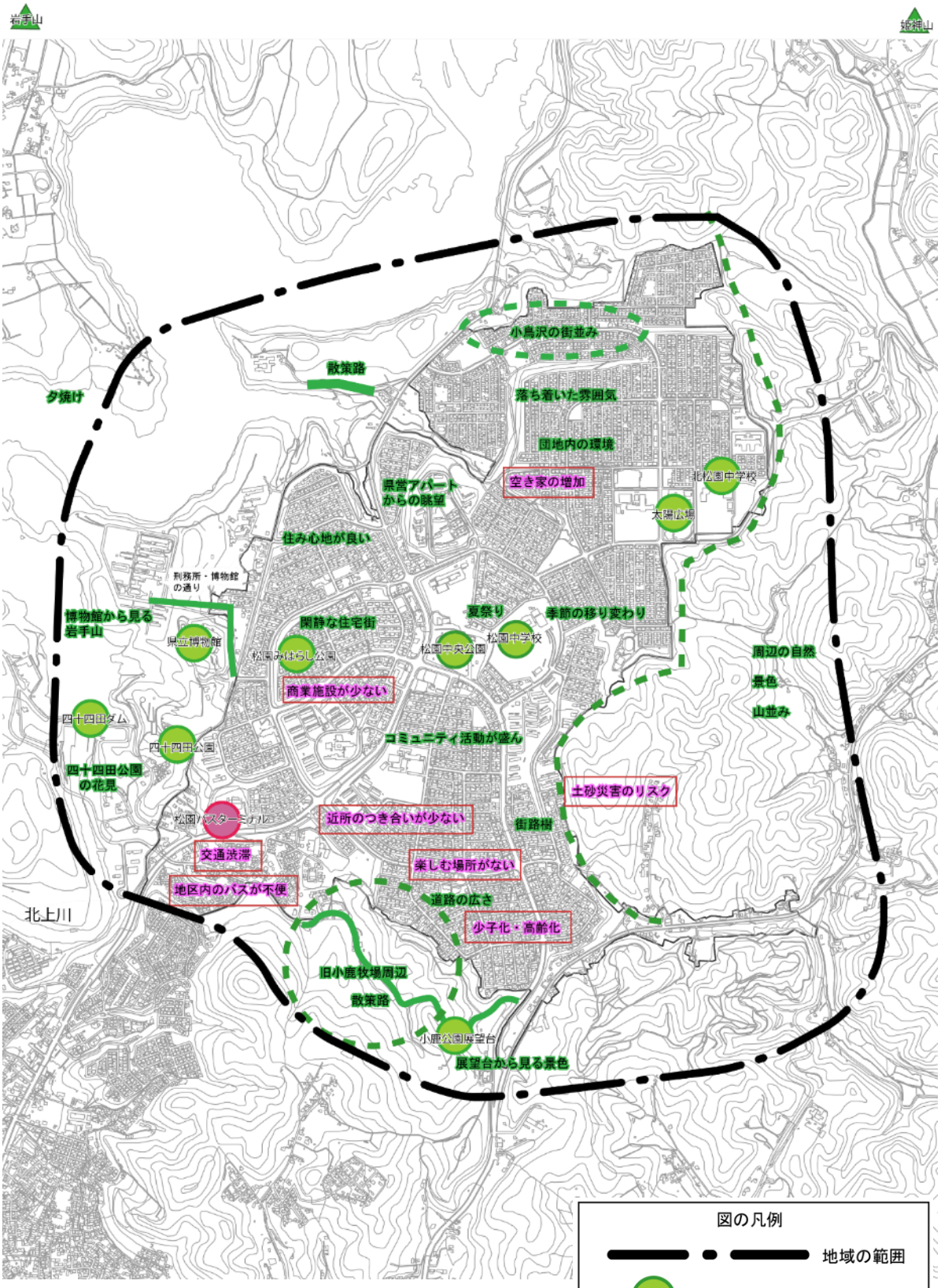
ⅴ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（松園地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、松園地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔14 町内会・自治会のうち６団体（43%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

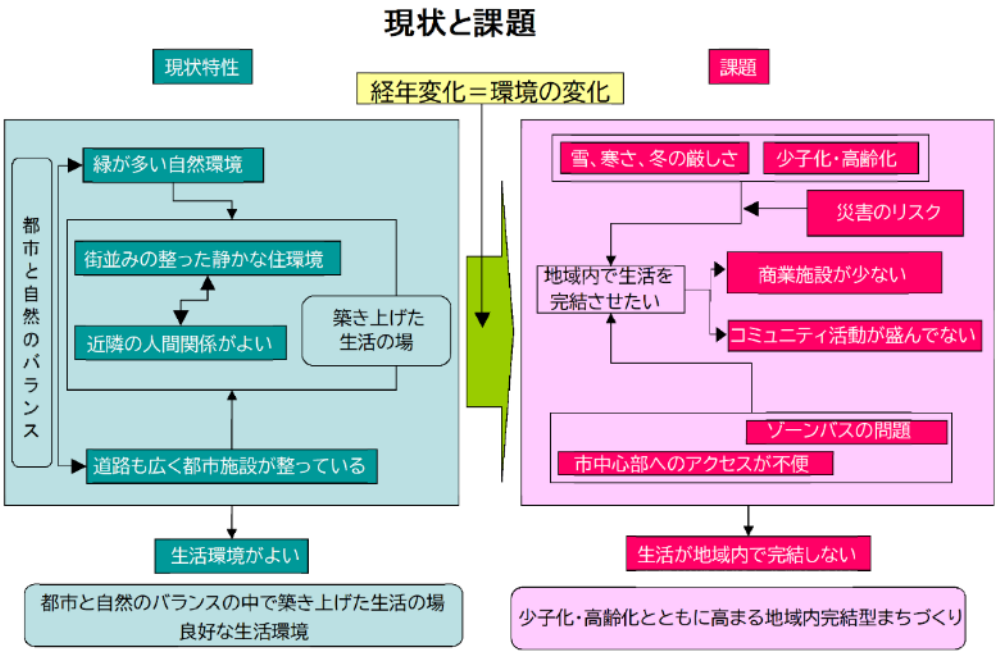
●「連携と交流を図る」といったソフト対策だけでは松園地域の衰退を止めることはできないと考える。住宅団地再生の「ハンズオン支援」を受け、ハードとソフト一体となった総合的な再生の方向性を示してほしい。

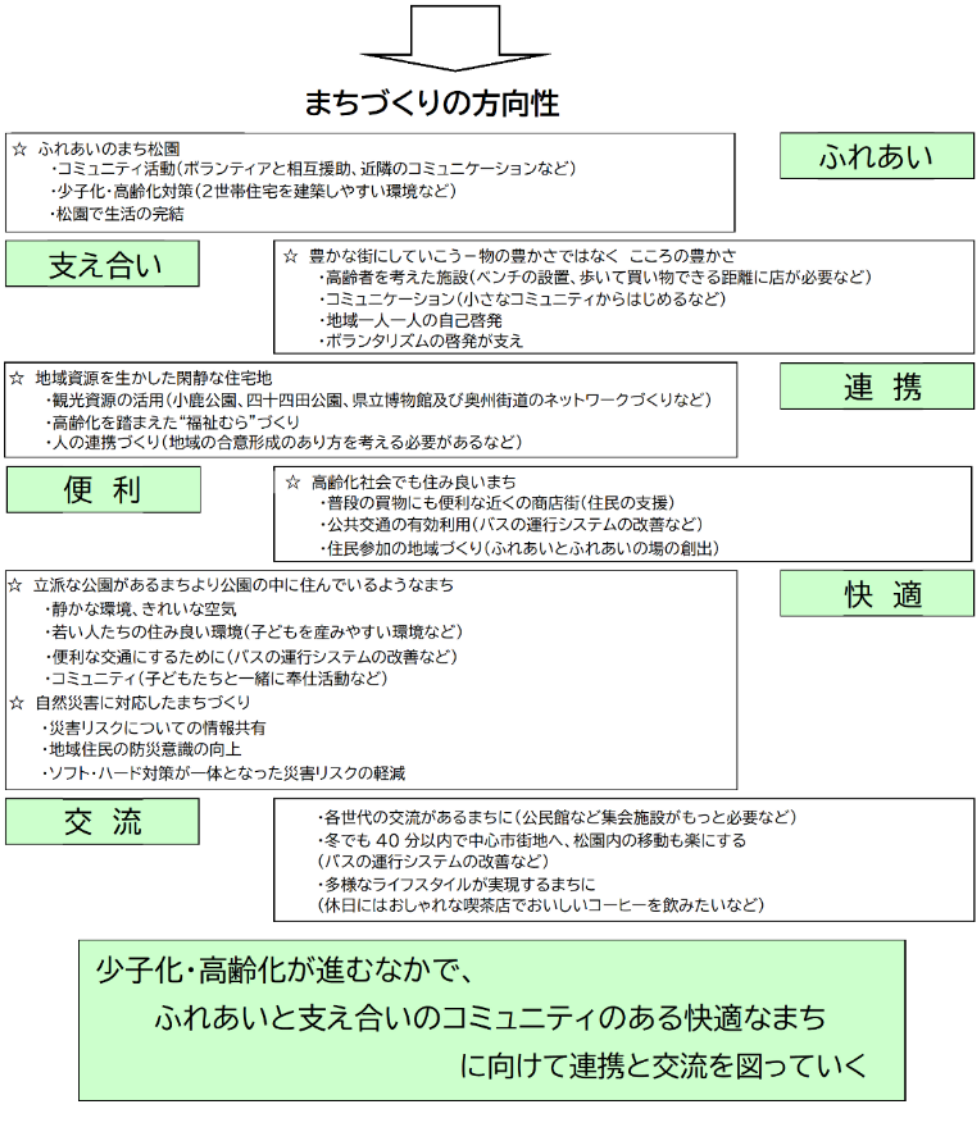
地域の資源・課題マップ


岩手山
姫神山
小鳥沢の街並み
散策路
夕焼け
落ち着いた雰囲気
団地内の環境
県営アパートからの眺望
空き家の増加
北松園中学校
太陽広場
住み心地が良い
利務所・博物館の通り
博物館から見る岩手山
閑静な住宅街
夏祭り
季節の移り変わり
県立博物館
松園みはらし公園
松園中央公園
松園中学校
周辺の自然
景色
山並み
商業施設が少ない
四十四田ダム
四十四田公園
コミュニティ活動が盛ん
四十四田公園の花見
土砂災害のリスク
松園バスターミナル
近所のつき合いが少ない
街路樹
交通渋滞
楽しむ場所がない
地区内のバスが不便
道路の広さ
北上川
少子化・高齢化
旧小鹿牧場周辺
散策路
小鹿公園展望台
展望台から見る景色
図の凡例
地域の範囲
地域の資源　場所を特定できるもの
地域の資源　場所を特定できないもの
地域の課題　場所を特定できるもの
地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成 13 年度に策定した地域別構想（松園地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。





(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『ふれあいと支え合いの
コミュニティある快適なまち』

②基本方針

ⅰ)子どもたちの声が聞こえ高齢者にやさしいまちづくり

松園地域は、主に山を切り開いて造成された戸建て中心の大規模住宅団地で、同世代の方々が同時期に入居したという特色があり、地域全体で、少子化・高齢化が進行しています。若い人たちが居住し、子どもたちで賑わうまちづくりを進め、これまで培われた強いコミュニティを基礎に、ボランタリズムの精神でお互いが支えあい、子どもたちや高齢者にやさしいまちづくりを推進します。

ⅱ)日常の暮らしが便利で快適な住宅地づくり

松園地域は、基盤整備が行われてから約 50 年を経過した地域もあり、年齢構成や家族構成の変化のほか、ライフスタイルの多様化などにより、使用しにくくなっている施設も見られるため、その更新に合わせたユニバーサルデザイン化や適切な施設配置等による地域コミュニティの核づくりを目指します。

また、地域の価値を高めるため、商業施設の配置や二世帯住宅を建築しやすい環境づくり、空き家の利活用などを進め、商業施設をはじめとした都市機能が集積しているエリアを松園地域の中心拠点とした住宅団地の再生を目指します。

中心市街地との結びつきは、市内でもバス本数の多い路線を有していることから、通勤通学や買い物などを中心にバスの利用促進を図ることとし、運行システムの改善などにより、公共交通の利便性の向上に努めます。

防災面では、地域の一部に土砂災害警戒区域などに含まれるエリアがあることから、災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

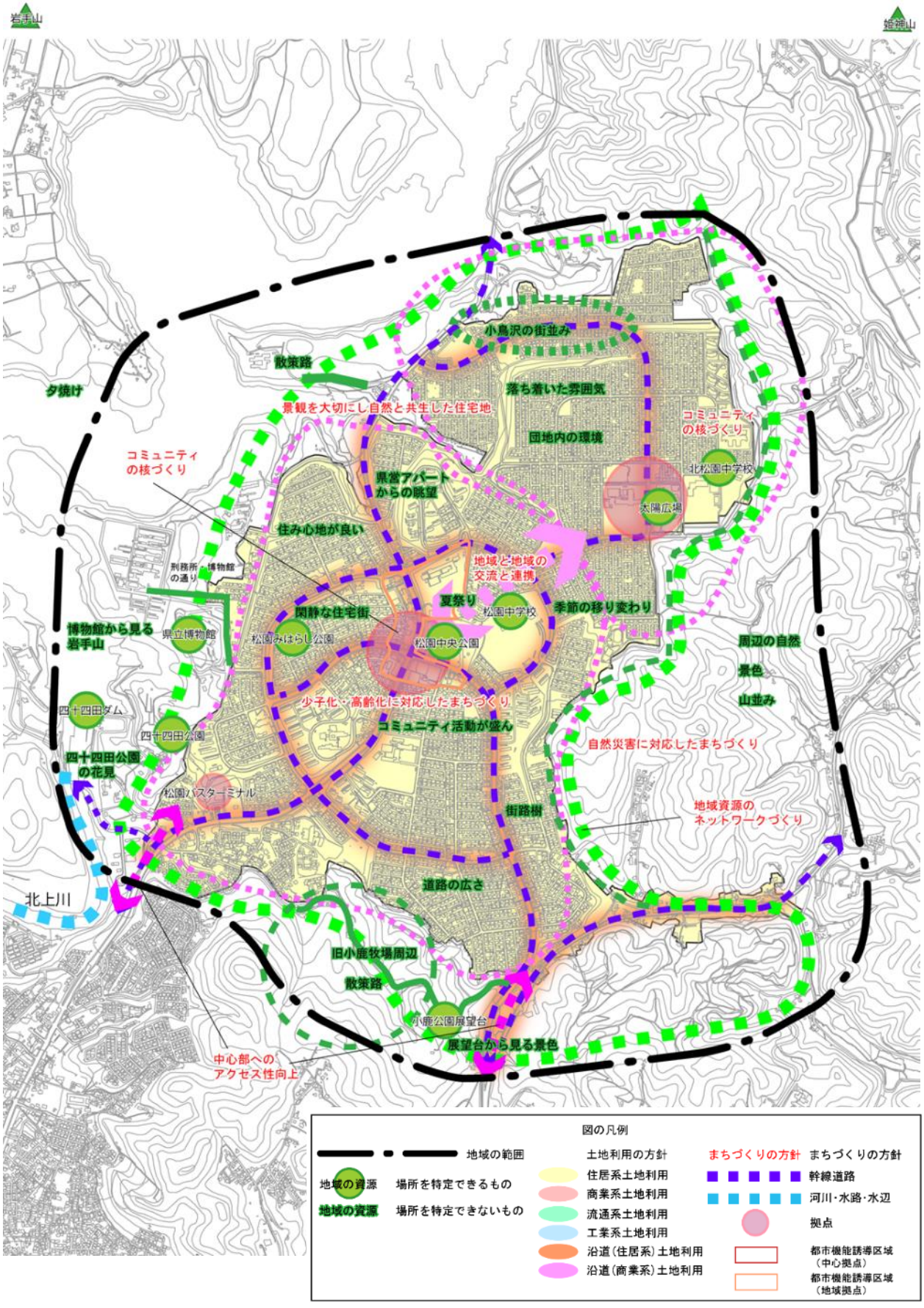
ⅲ)自然と共生した美しい景観をもつまちづくり

松園地域は、地域の中のみならず、地域を取り巻く周辺の自然環境に育まれており、散策などにも利用されるなど静かできれいなまちとなっています。

これからも地域整備にあたっては、地域内の景観のみならず、地域から見渡せる景観を大切にし、自然と共生した住宅地としての環境を整えます。

将来に向けて世代交代や経済状況の変化などから、宅地の細分化や建て替えによる景観の変化も予想されることから、まちづくりのルールなどにより地域の景観を守ることについても地域とともに検討を行います。

まちづくりの方針マップ



4)山岸･加賀野地域

山岸・加賀野地域の平成 14 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

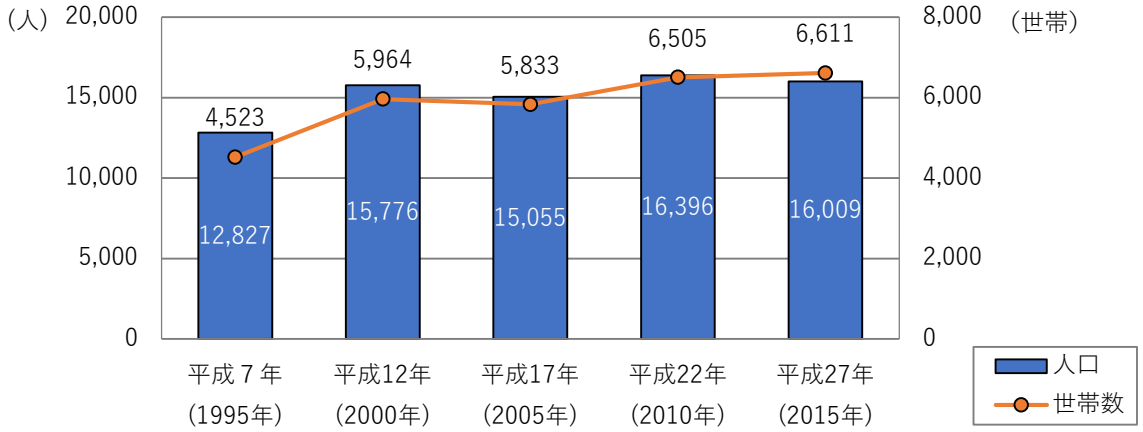
(1)地域の現況

①地域データ

ⅰ)人口･世帯数

山岸・加賀野地域の人口は概ね横ばい傾向、世帯数は増加傾向にあります。

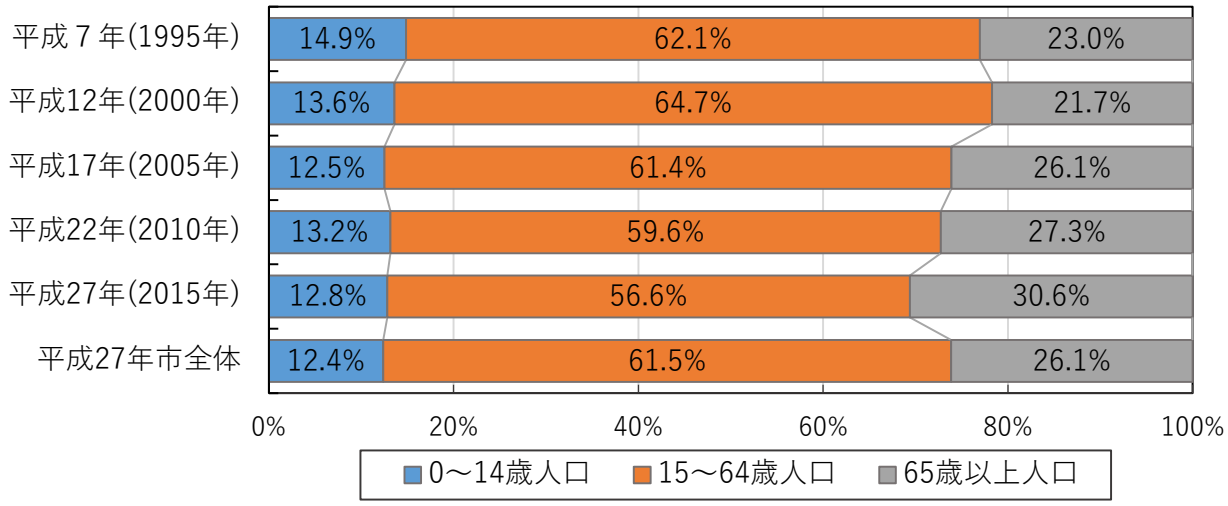
人口･世帯数の推移　資料:国勢調査



ⅱ)年齢階層別人口割合

山岸・加賀野地域は、高齢化の傾向にあり、市全体に比べ、65 歳以上人口の割合が高くなっています。

年齢階層の推移　資料:国勢調査

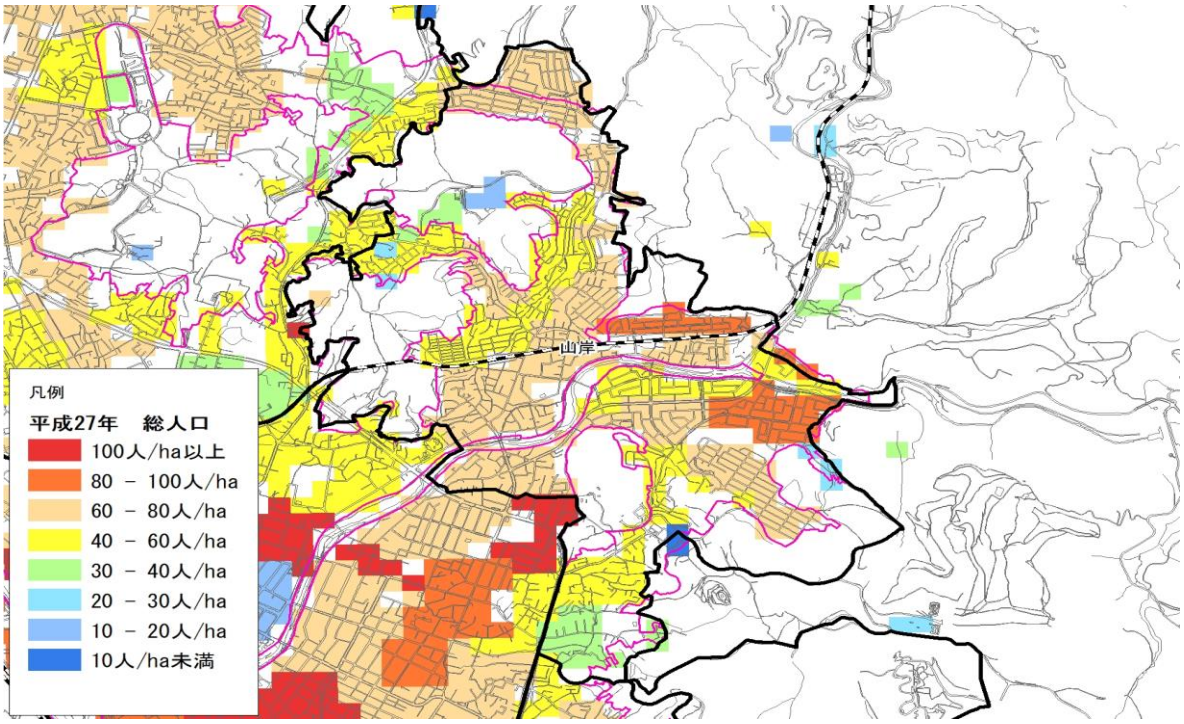


iii）人口の分布状況

地域の東側に 80 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられ、このエリアでは、将来的に人口の増加が見込まれますが、多くのエリアにおいては、将来的に人口の減少が見込まれます。

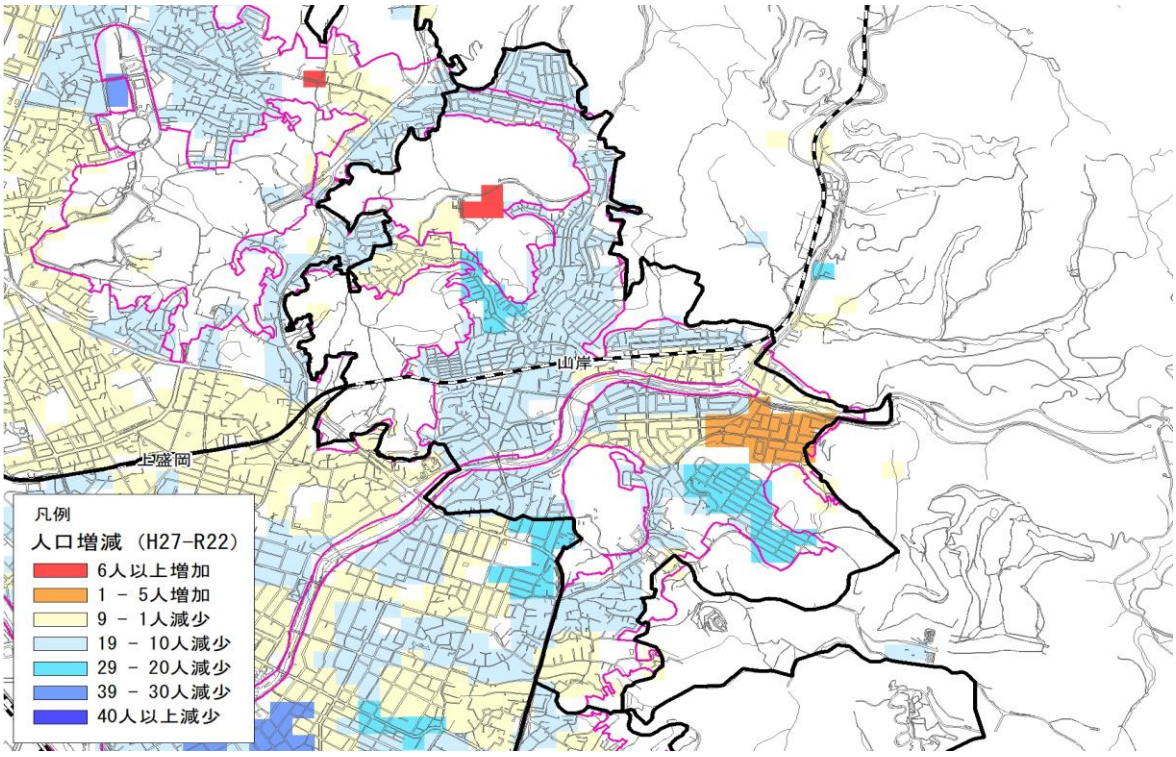
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲が山岸駅北側、地域南側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図　資料：平成 27 年国勢調査結果

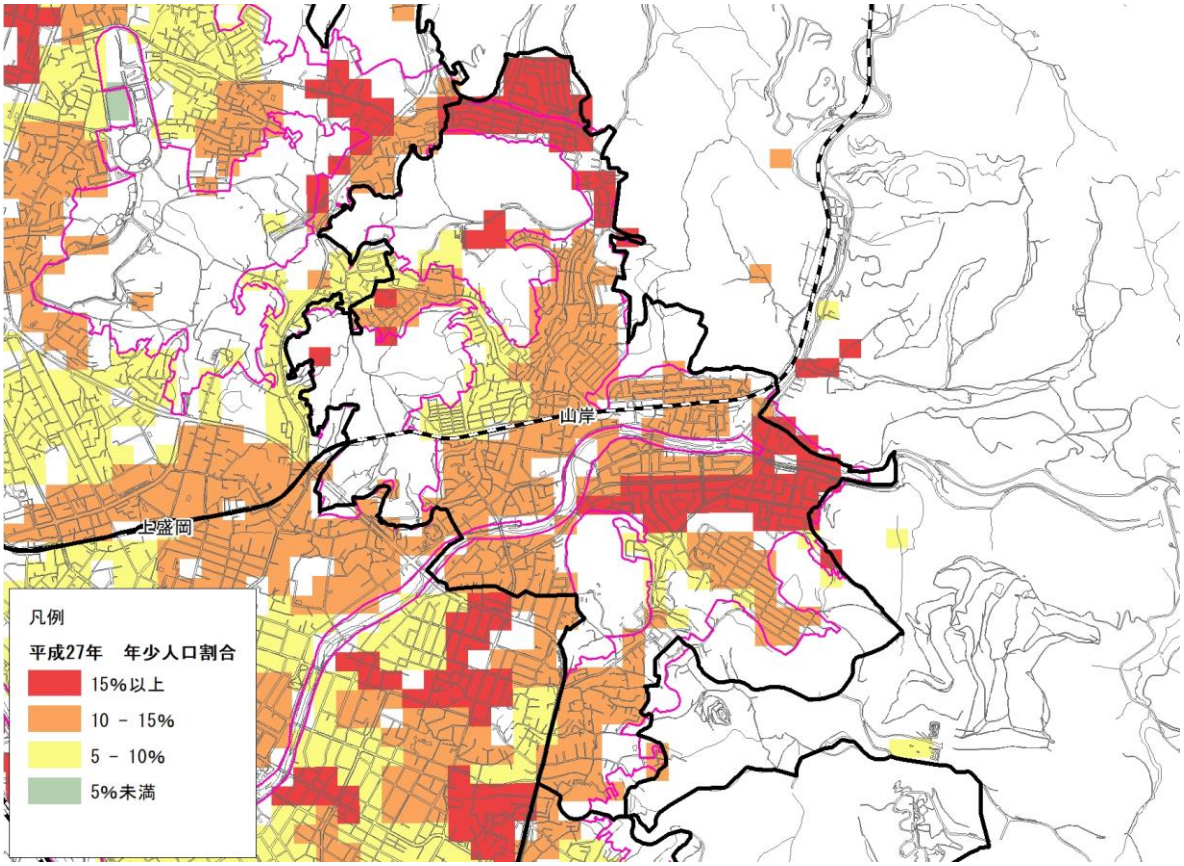


人口増減予測図（平成 27 年～令和 22 年）

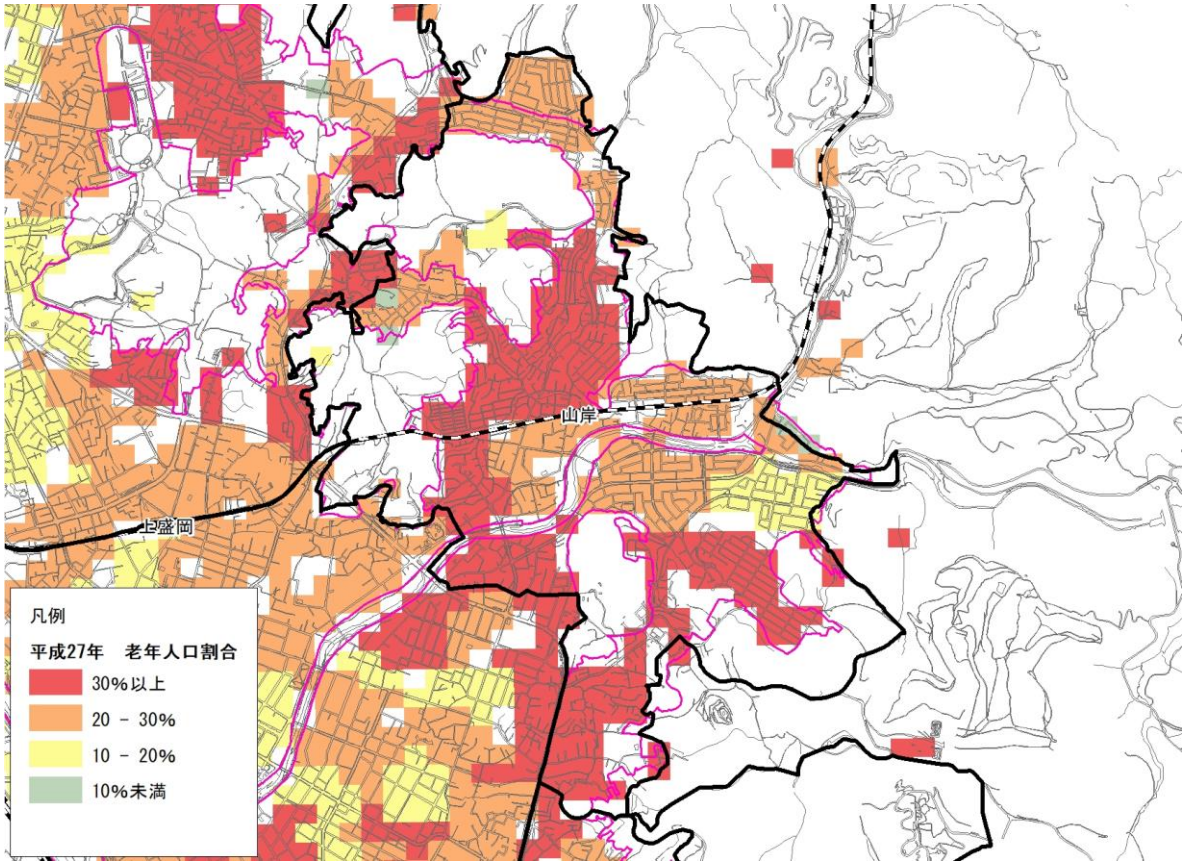
資料：平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



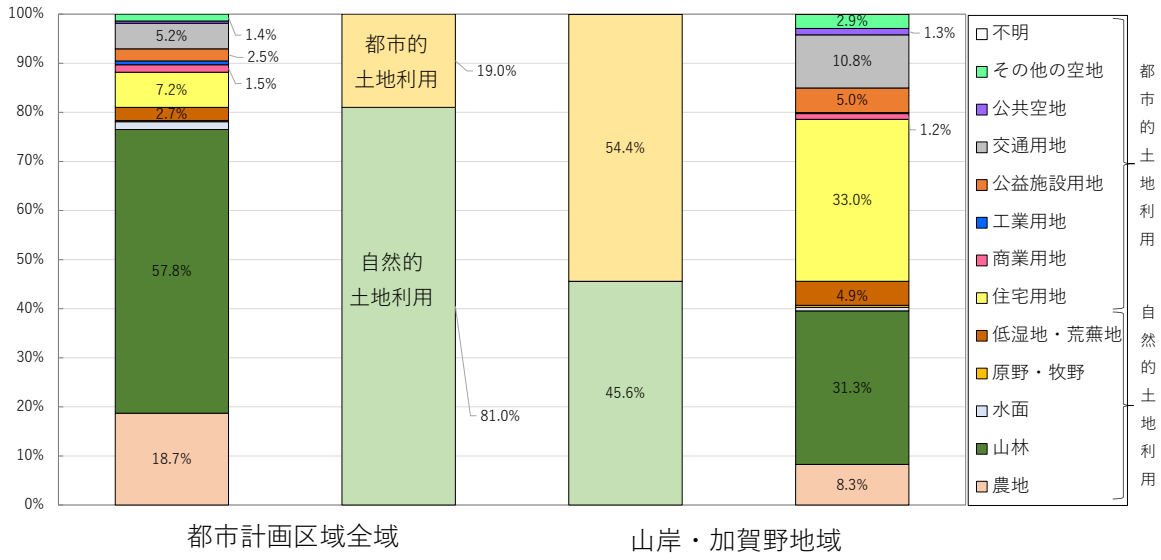
ⅳ)土地利用の状況

山岸・加賀野地域の土地利用は、都市的土地利用が約54%、自然的土地利用が約46%となっています。

都市的土地利用においては、住宅用地の割合が過半を占める一方、工業用地と商業用地の割合が低くなっています。

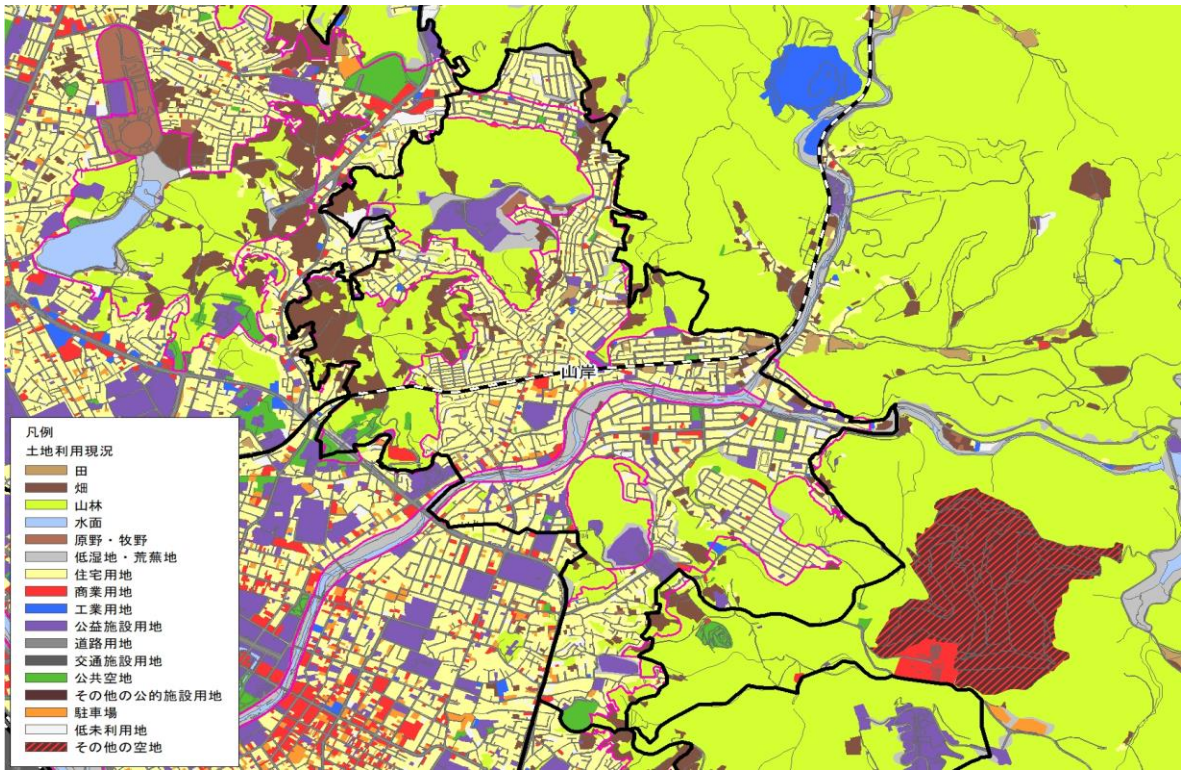
自然的土地利用については、周囲に広がる山林の占める割合が高く、農地の割合は低くなっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較　資料:平成27年都市計画基礎調査



（地域の土地利用の割合が1%未満のものは、表記を割愛しました。）

土地利用現況図　資料:平成27年都市計画基礎調査

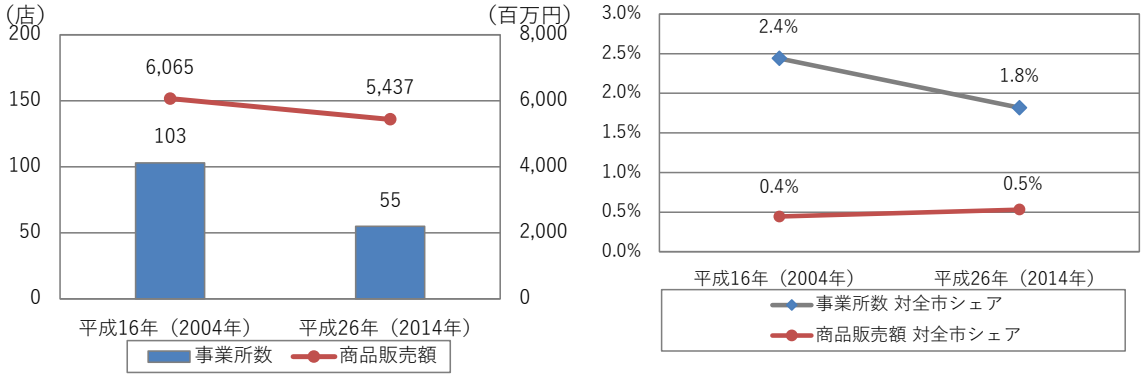


v）商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは 1.8%、商品販売額のシェアは 0.5%となっています。

産業関連指標と対全市シェア　資料:商業統計

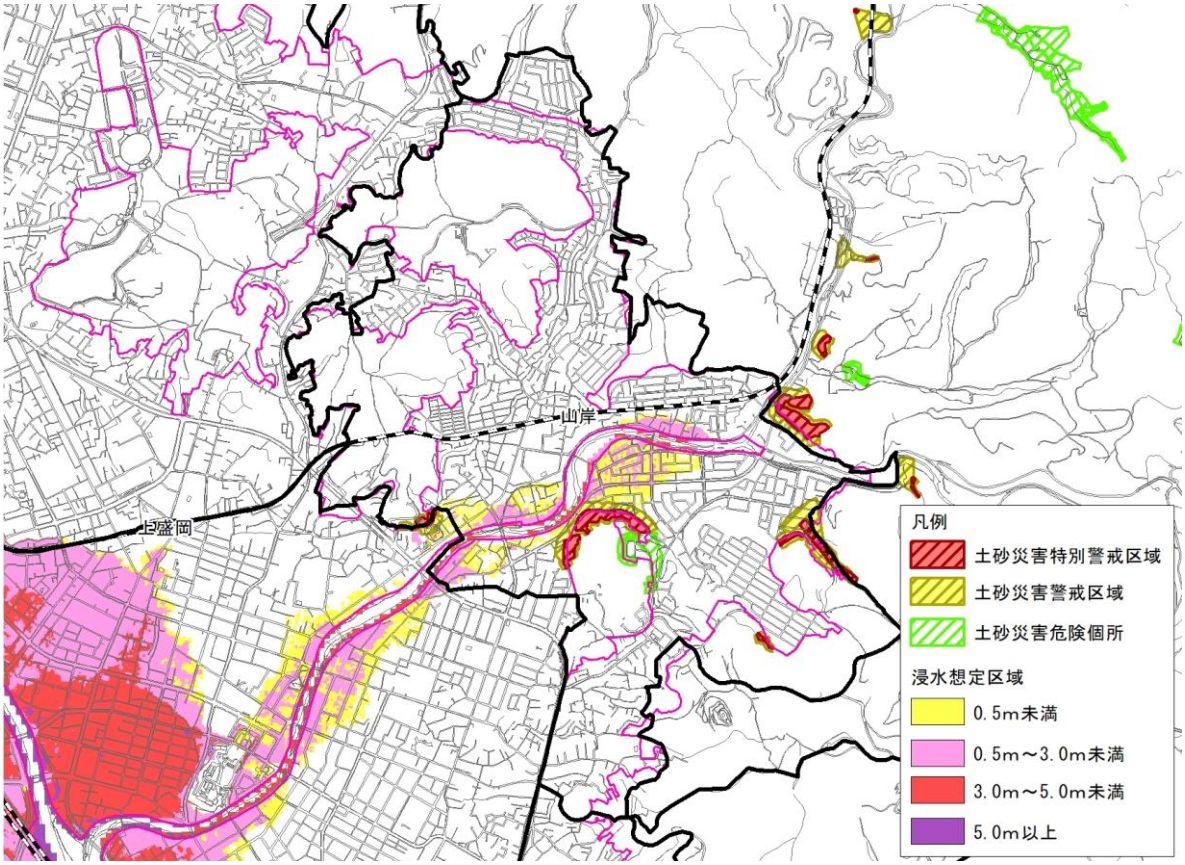


vi）災害リスクの分布状況

中津川沿いに洪水浸水想定区域が分布しており、一部には浸水深が 3.0m～5.0m未満の範囲もあります。

また、東部の急傾斜地などに、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所が分布しています。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料:国土交通省、岩手県



②市民意見

ｉ)地域の良いところ

平成 14 年度に策定した地域別構想（山岸・加賀野地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

（ ）は班員の主な居住地域

1･2 班（加賀野）
- ○古きよき時代の面影が残るまち
- ○川があって自然に恵まれたまち
- ○閑静でしかも中心地に近くて便利なまち

3 班（愛宕町）
- ○自然が素晴らしい
- ○歴史があり閑静なまち
- ○便利なところで隣近所の付き合いもある

4 班（山岸）
- ○昔からの地域コミュニティがしっかりしている
- ○自然が豊かで地域の伝統が残っている
- ○日常生活に必要な施設はそろっている

5 班（浅岸 東新庄）
- ○恵まれた自然，山と川
- ○歴史的な遺産
- ○落ち着いた住環境，良好なコミュニティ

中津川の清らかな水と丘に連なる豊かなみどり

誰もが愛している中津川
- ●サケがのぼり，カジカがいる川
- ●散歩が楽しい河川敷，原風景
- ●水鳥が遊ぶ水辺

地域をやさしく包み込む丘
- ●みどり豊かな山並み（岩山，愛宕山，妙泉寺山）
- ●ウグイスやカッコウ，ヒグラシの鳴き声
- ●丘をつなぐ散策路が楽しめる

恵まれた自然

古くから培われてきた歴史と文化が息づくまち

縄文時代から人々が暮らした地
- ●縄文遺跡
- ●歴史を感じさせる街並み，街道
- ●妙泉寺，永福寺，三ツ石神社，大日如来，岩谷稲荷神社などの社寺が多い
- ●盛岡の地名発祥の地「森が岡」

地域を豊かにする歴史と文化
- ●山岸伝統さんさ，ししおどり
- ●中央公民館という良い施設がある
- ●文化小路・文化橋

文化の風土

快適に暮らすことができる生活環境
- ●閑静で落ち着いた住宅地
- ●手入れが行きとどいた生け垣，屋敷林
- ●学校や公的施設，買物の場などがそろっている

人と人のつながりが，何よりの住み心地良さ
- ●となり近所の気心が知れた住民
- ●町内会や子ども会の活動が活発
- ●人間味がある明るいまち

地域の人々の心づかい

美しい自然に包まれ，伝統文化に彩られた住み心地のよいまち

ii)地域の課題

平成 14 年度に策定した地域別構想（山岸・加賀野地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

（　）は班員の主な居住地域

1･2 班（加賀野）
- ○都市計画道路の見直しが必要
- ○生活道路が不備，通学路が危険
- ○良好なまちの環境が損なわれてきている

３班（愛宕町）
- ○道路が狭く，袋小路がある。歩道がなくて危険
- ○公園がない
- ○バスの本数が少なく不便

４班（山岸）
- ○高齢化が進みコミュニティの維持に不安
- ○自転車道や中津川の良好な環境が保たれない
- ○幹線道路は渋滞，生活道路は狭く行き止まり
- ○病院，商店，集会所などが不足

５班（浅岸 東新庄）
- ○ミニ開発から環境破壊や道路交通問題
- ○地域コミュニティが変容しつつある
- ○病院，商店，集会所などが不足

素晴らしい自然が生かされていない
- ●自然と親しむ機会がない，子どもが川で遊ばない
- ●中津川の河川敷が荒れ，散策路が切れている
- ●愛宕山に集まるカラス公害

自然

道路や交通には問題が.....

道路の整備は不十分
- ●迷路のような道路 ←●丘陵地のミニ開発
- ●昔ながらの袋小路の道路
- ●歩道のない危険な通学路
- ●山岸の幹線道路や岩山の入口の交通渋滞
- ●バイパスの騒音

・バスサービスが行きとどかない
・除雪ができない

山岸駅が生かされていない

道路と交通

生活環境にも不足しているものがある
- ●公園が少ない
- ●病院，郵便局，商店，コミュニティ施設が不足
- ●防火用水がない

まちの環境

良好なまちの景観，印象が損なわれてきている
- ●まちの景観への配慮が足りない
- ●戸建て住宅が駐車場やアパートに変わりつつある
- ●宅地内の緑の保全が難しくなってきている
- ●老朽化し人が住まなくなった家がでてきた

変わりつつあるコミュニティの再構築が必要
- ●高齢者の一人暮らしが増えている
- ●移り住んで来る若い世代も多い → 従来の良好なコミュニティを維持することが難しい
- ●生活者のモラルの低下
- ●まちづくりへの関心の低下

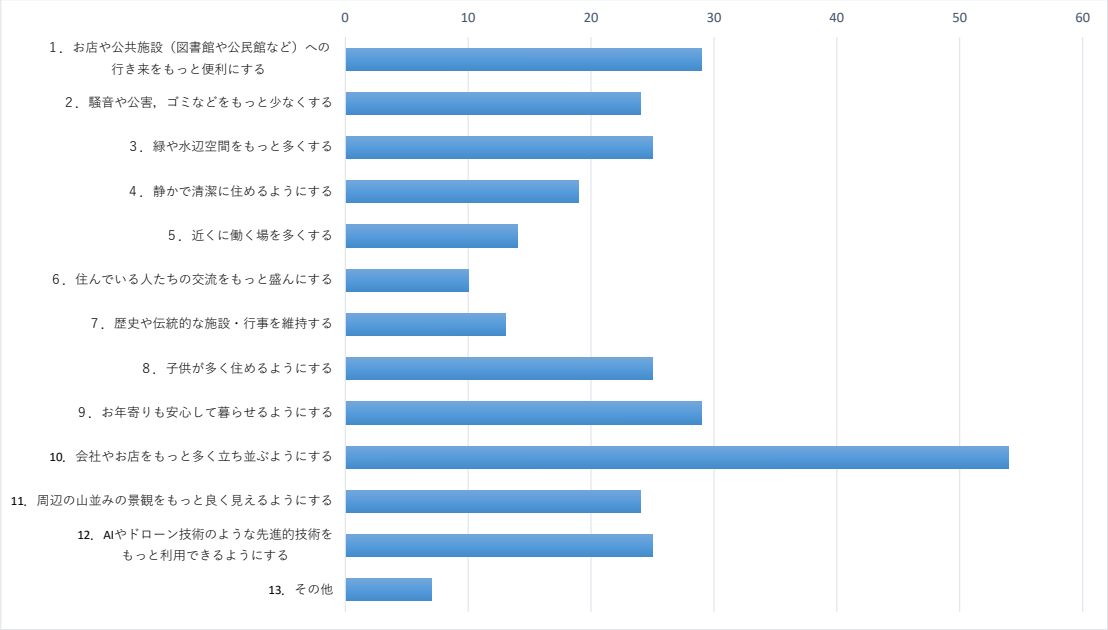
地域を担う人

自然や歴史を生かし，地域のみんなの手で住みよいまちづくり

iii）中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（山岸・加賀野地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代である山岸・加賀野地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（山岸・加賀野地域の 108 人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」、「緑や水辺空間をもっと多くする」、「子どもが多く住めるようにする」、「先進的技術をもっと利用できるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、道路整備に関する意見（道路の拡幅、舗装等の修繕など）、公園整備に関する意見（新たな公園の整備など）、環境保全等に関する意見（地域の清掃活動の実施など）が多くありました。

ⅳ)町内会･自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源･課題)

今回の地域別構想（山岸・加賀野地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、山岸・加賀野地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔18 町内会・自治会のうち８団体（44%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●自然が豊かで地域の伝統が残っている。恵まれた自然、山と川。
●四季を問わず中津川の散策路を利用する人が多く、また春から夏にかけては釣り人や子どもたちの水遊びの光景がみられ、中津川は市民生活に溶け込んでいる。

【課題】

●高齢化が進み、コミュニティ維持に不安がある。
●高齢者の一人暮らしが増えている。
●商店の減少、集会所の不足。
●老朽化した空き家が目立つようになり、防犯上、公衆衛生上問題がある。
●都市計画道路の整備が進まない。

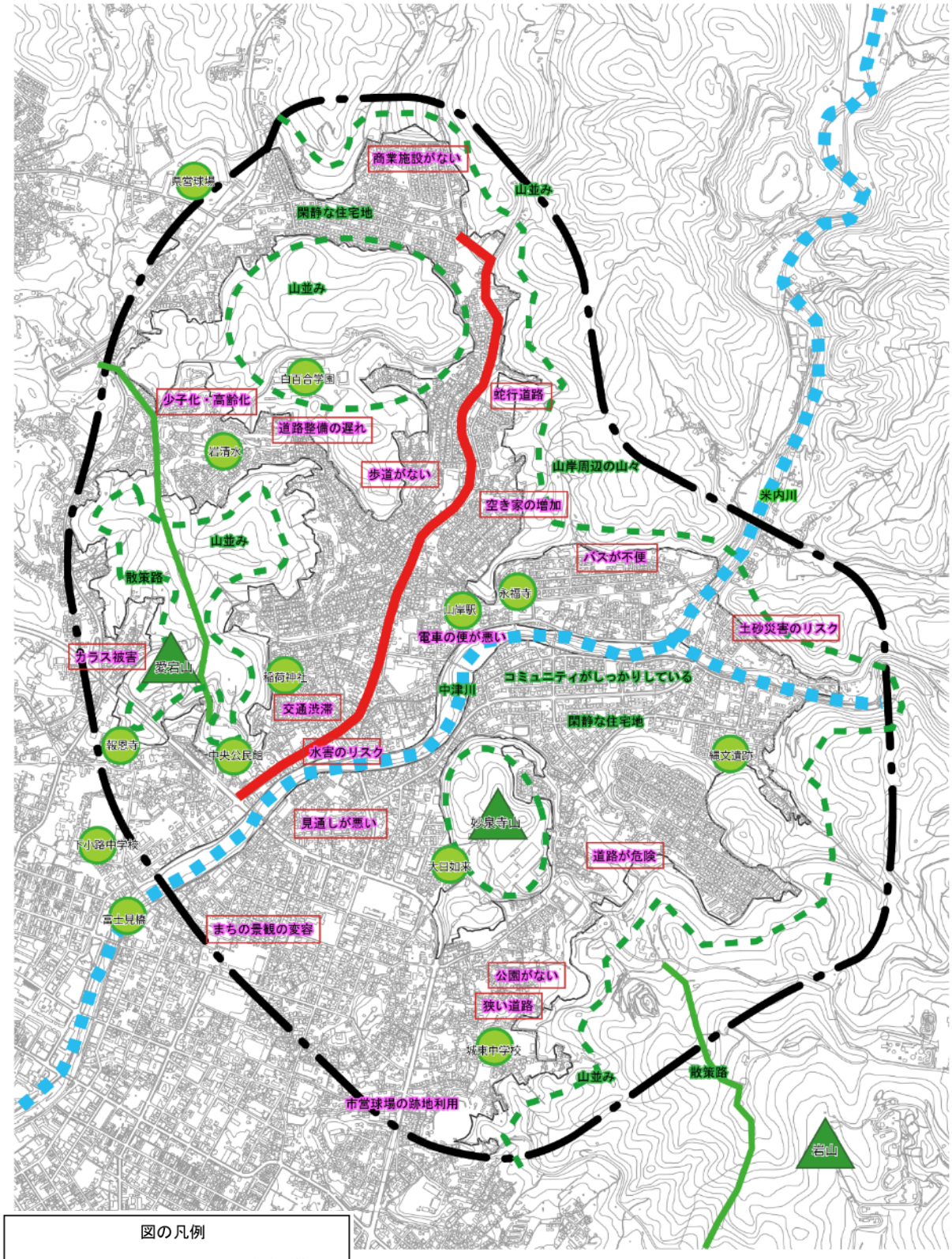
ⅴ)町内会･自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（山岸・加賀野地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、山岸・加賀野地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔18 町内会・自治会のうち８団体（44%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

●加賀野地域は良好な住宅街が形成されており、基本的なまちづくりの将来像はその方向で良い。
●自然災害を想定する必要がある。
●子どもから高齢者までの世代間交流が必要。年代が離れすぎて一体感をもった集会が難しい。

地域の資源・課題マップ



図の凡例

地域の範囲

地域の資源　場所を特定できるもの

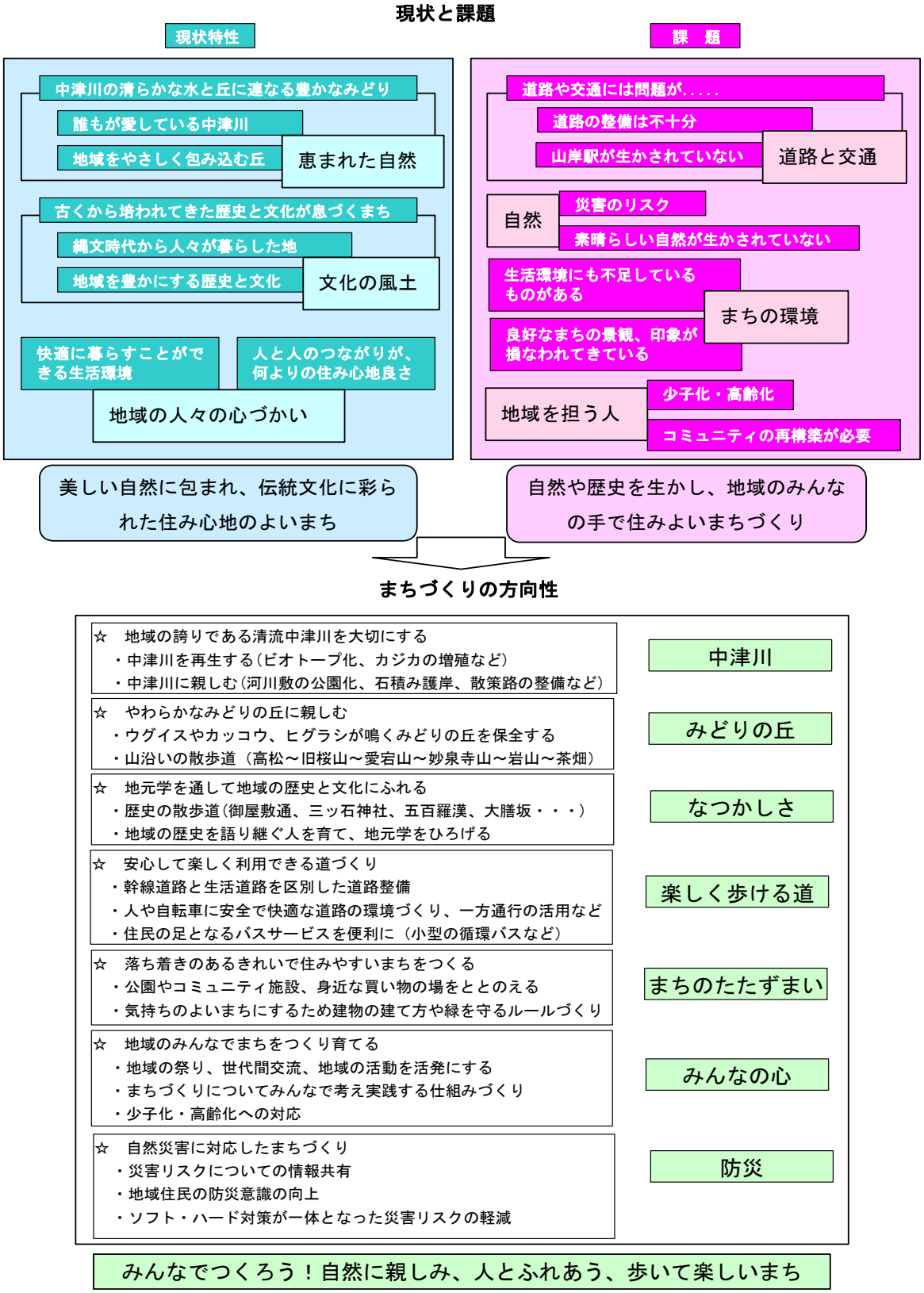
地域の資源　場所を特定できないもの

地域の課題　場所を特定できるもの

地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成14年度に策定した地域別構想（山岸・加賀野地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『みんなでつくろう！自然に親しみ、人とふれあう、歩いて楽しいまち』

②基本方針

ⅰ)中津川やみどりの丘に抱かれた美しいまちづくり

山岸・加賀野地域を流れる中津川は、美しい水辺の景色と豊かな自然の姿を保っており、地域の人々に深く愛されている川です。心地よい瀬音を響かせる清流には、サケやカジカが姿を見せ、白鳥が一冬を過ごします。地域の周囲には、愛宕山、妙泉寺山、岩山などのなだらかな丘が続き、やわらかなみどりの縁取りを形作っています。春にはウグイスやカッコウが、夏にはヒグラシの鳴き声が心和ませてくれます。

季節感豊かに地域をつつみ込むこれらの美しい自然は、かけがえのない財産であり、地域のシンボルとしていつまでも大切に守り続けていきます。中津川については、子どもたちが川遊びを楽しめるような安全な環境や、多様な生き物がくらすことができるビオトープづくりに取り組みます。周囲のみどりの丘については自然とのふれあいの場を整備します。

また、古くからの神社やお寺、歴史的な遺産なども掘り起こしながら、中津川沿いの水辺の道、愛宕山や妙泉寺山、岩山を巡る丘の道など、地域の魅力資源をつなぎあわせる回遊散策ルートづくりを推進します。

ⅱ)人にやさしい道づくりと暮らしを支えるまちづくり

山岸・加賀野地域は、城下町時代の面影が残る愛宕町や大正時代に整備された加賀野などの古くからのまちがあり、一方では三ツ割や山岸、東新庄など丘陵地に新しくつくられてきたまちがあります。どちらも現在の車社会に充分対応できるだけの道路基盤を備えていないため、交通に不便をきたしているのみならず、バスサービスや除雪が行き届かない状況です。歩道も未設置箇所が多く交通事故の危険があるほか、道幅が狭く消防車の進入が困難であるという課題があります。

バスや車を安全でスムーズに通すことができるよう、地域の骨格となる幹線道路を計画的に整備するとともに、住宅地内の道路は利用方法の工夫をし、また、幹線道路に付帯する歩道や歩行者自転車の専用道については、ユニバーサルデザイン化を図りながら、誰もが楽しく歩くことができるよう人にやさしいゆとりのある道づくりを推進していきます。

ＪＲ山田線の利用促進を図るため、鉄道事業者と協力しながら、公共交通としての利便性の向上に努めます。

また、暮らしやすいまちの環境を整えていくため、日常の買い物などに必要な生活利便施設について、地域の身近な場所へバランス良く立地できるようなまちづくりを推進します。住宅地については、生け垣などのみどりを育てるルールづくりなどにより、良好な景観をかもしだす閑静な住宅地の環境の構築を図ります。

防災面では、地域を流れる中津川沿いが、洪水浸水想定区域に、また、地域東側の急傾斜地などが土砂災害警戒区域などに含まれています。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災

意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

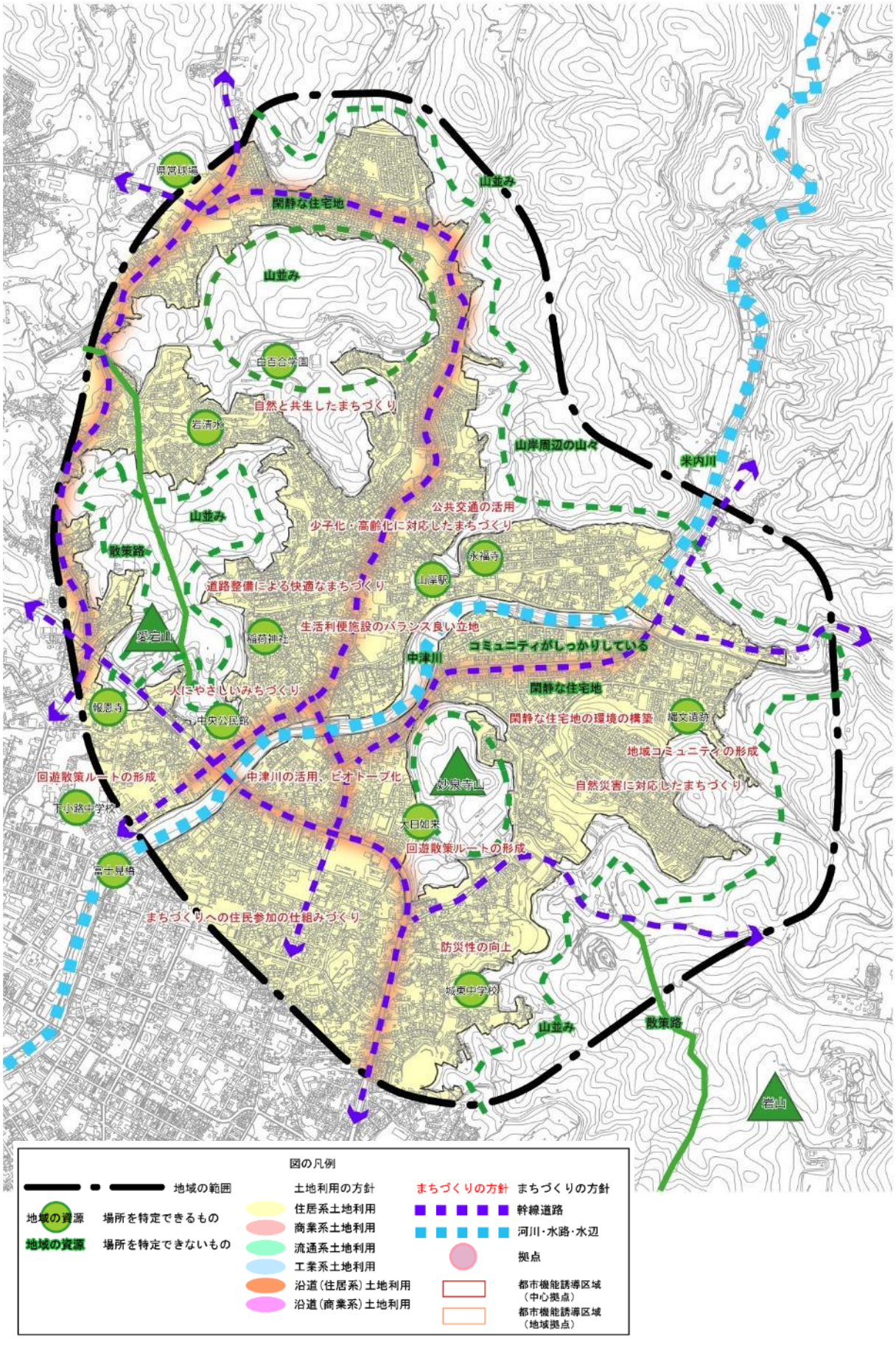
iii)子どもからお年寄りまでみんなの心が通いあうまちづくり

山岸・加賀野地域は、住民の連帯感が強く地域内の活動が活発に行われてきましたが、少子化・高齢化の進行や高齢者の一人暮らしの増加、空き家の増加やまちづくりへの関心の低下など、これまでのような地域コミュニティをそのままに維持することが難しくなり始めています。

これからも、誰もが参加できる地域内でのイベントや世代間交流を通してコミュニティの絆を深め、みんなで支え合い楽しく暮らせる地域づくりを推進します。また、地域でともに生活していくための暮らしのマナーを守るよう住民意識を育てていくとともに、より良いまちづくりに向けて地域住民みんなで考え実践していくことができる仕組みの構築を図ります。

あわせて、高齢者をはじめ住民誰もが健康に暮らせるよう、人々がふれあえる公民館などのコミュニティ施設の有効活用などについて取組を推進します。

まちづくりの方針マップ



５）中野地域

中野地域の平成 16 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

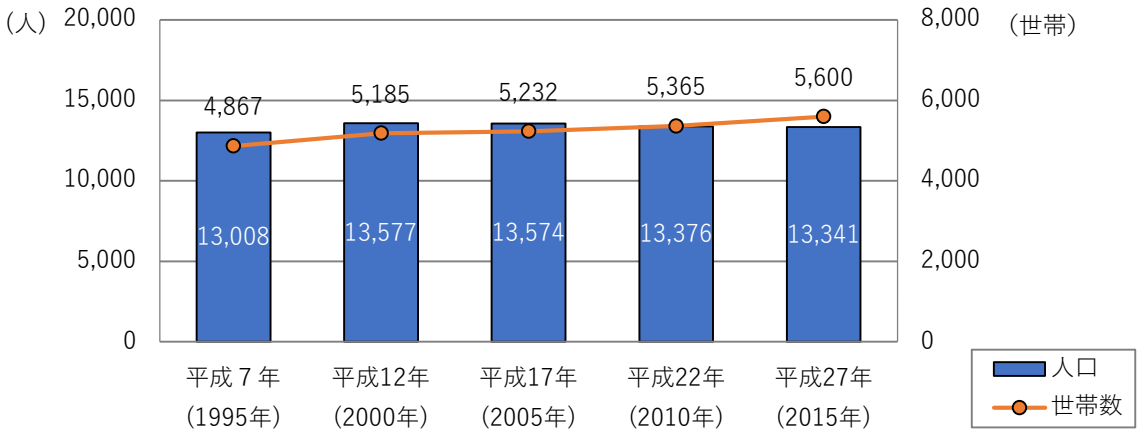
（１）地域の現況

①地域データ

ｉ）人口･世帯数

中野地域の人口は概ね横ばい傾向、世帯数は増加傾向にあります。

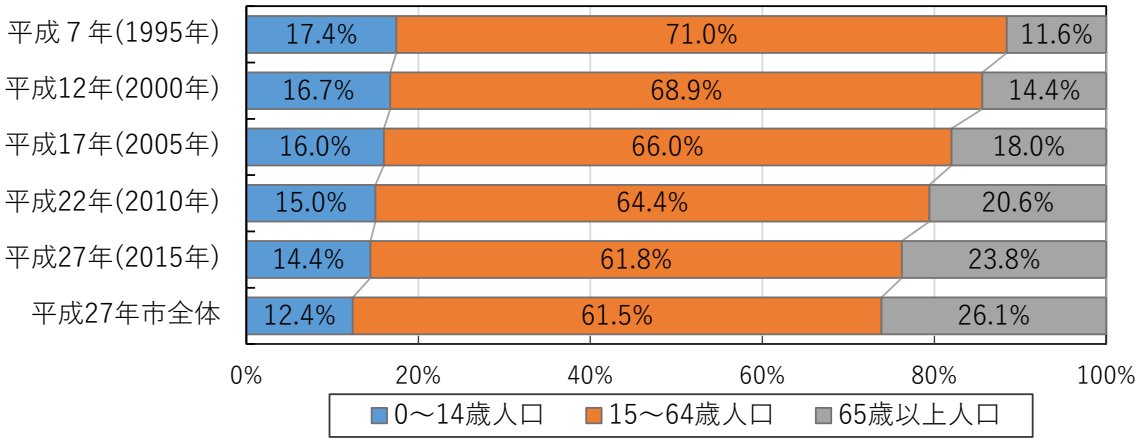
人口･世帯数の推移　資料：国勢調査



ⅱ）年齢階層別人口割合

中野地域は、少子化・高齢化の傾向にあり、市全体に比べて、0～14 歳人口の割合がやや高くなっています。

年齢階層の推移　資料：国勢調査

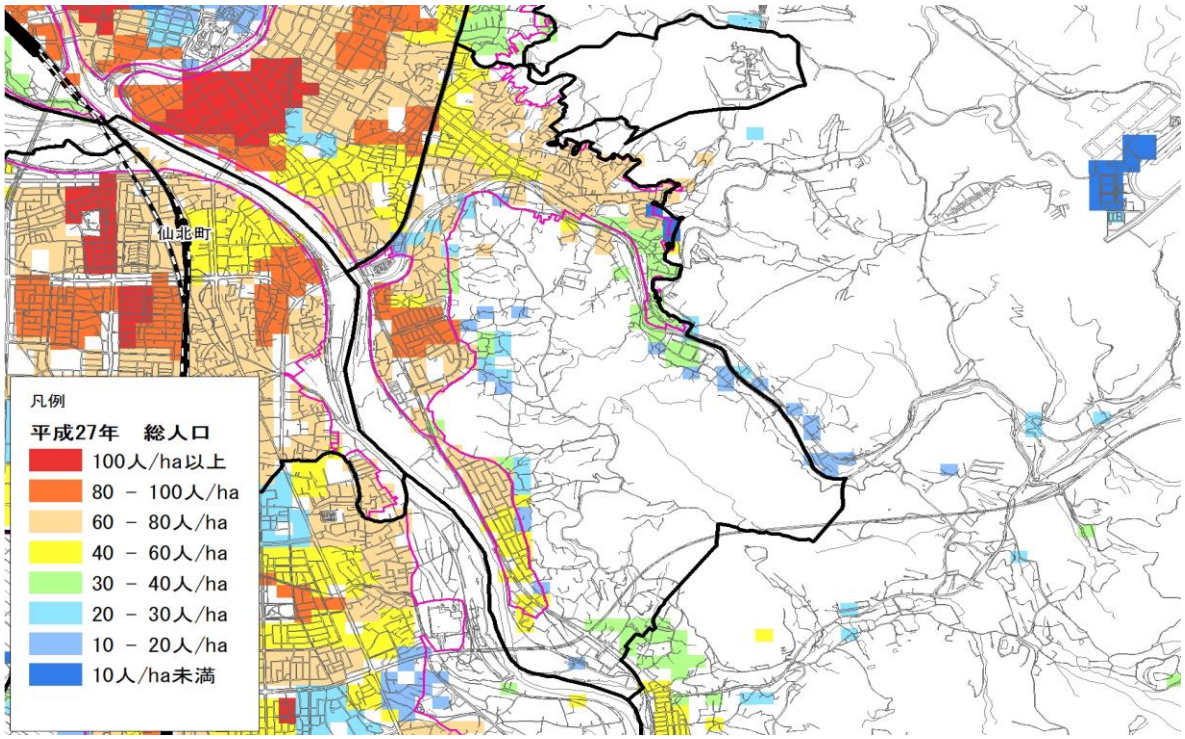


iii）人口の分布状況

東安庭など、80 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられ、このエリアでは将来的に人口の増加が見込まれます。

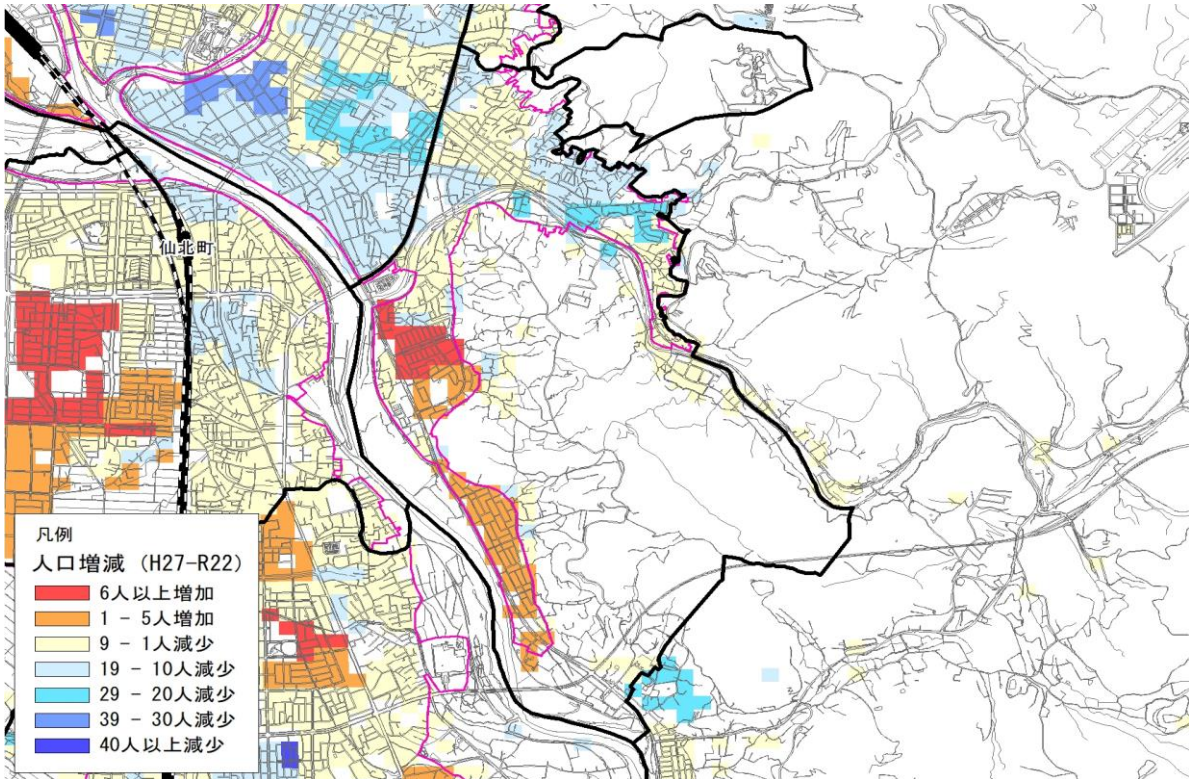
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲が地域の東側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図　資料:平成 27 年国勢調査結果

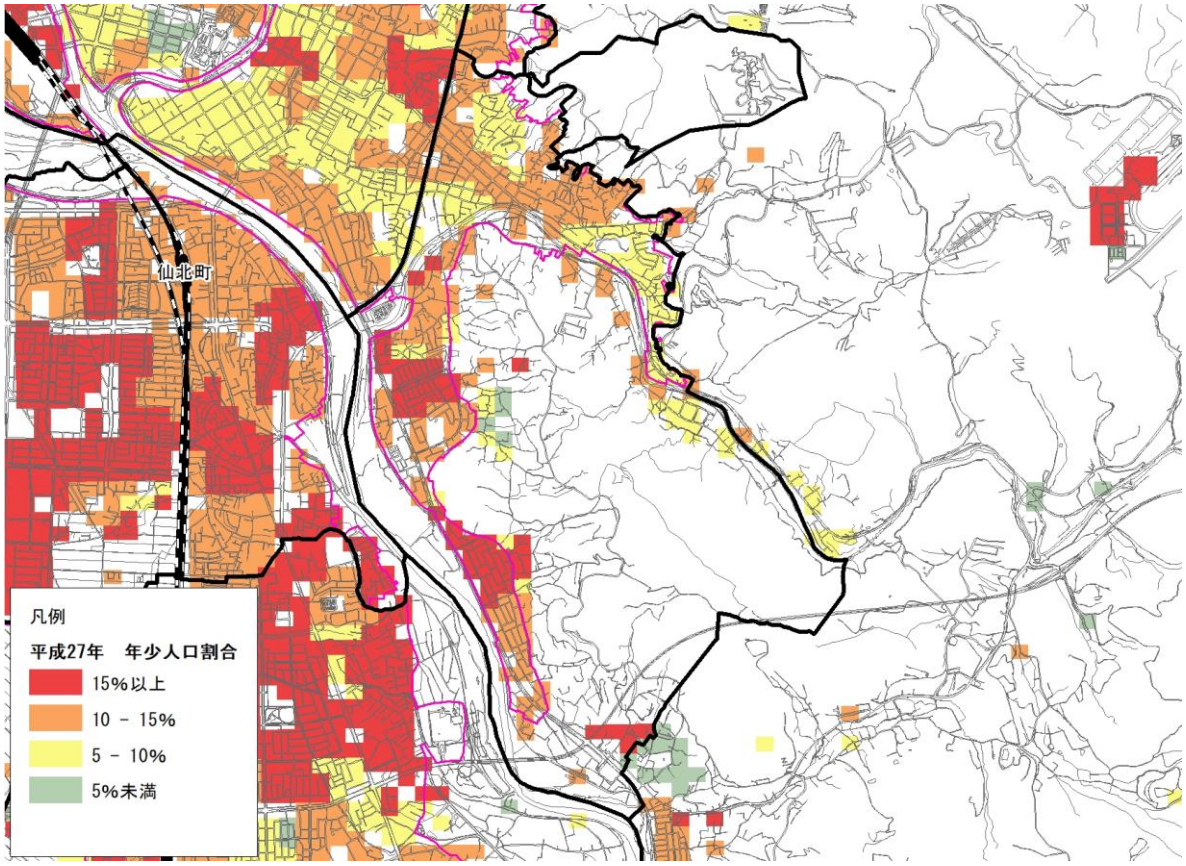


人口増減予測図(平成 27 年～令和 22 年)

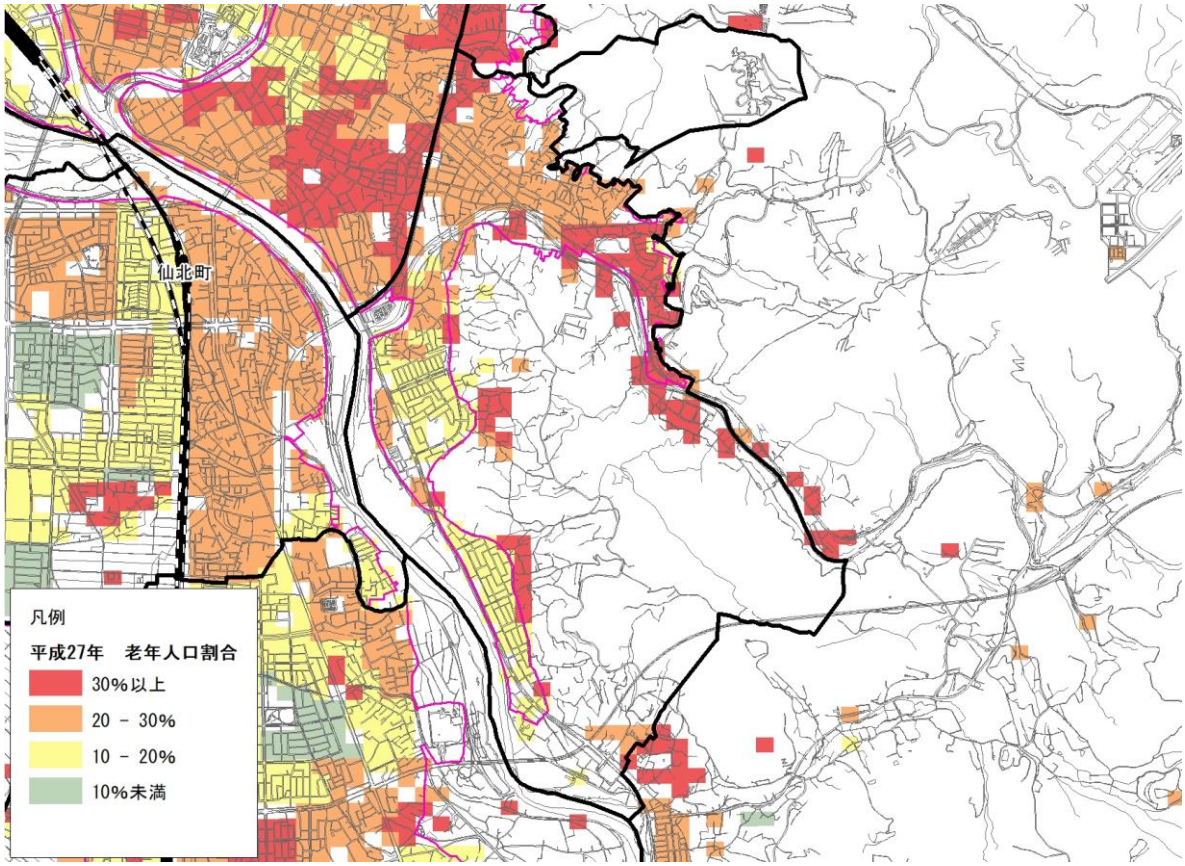
資料:平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果

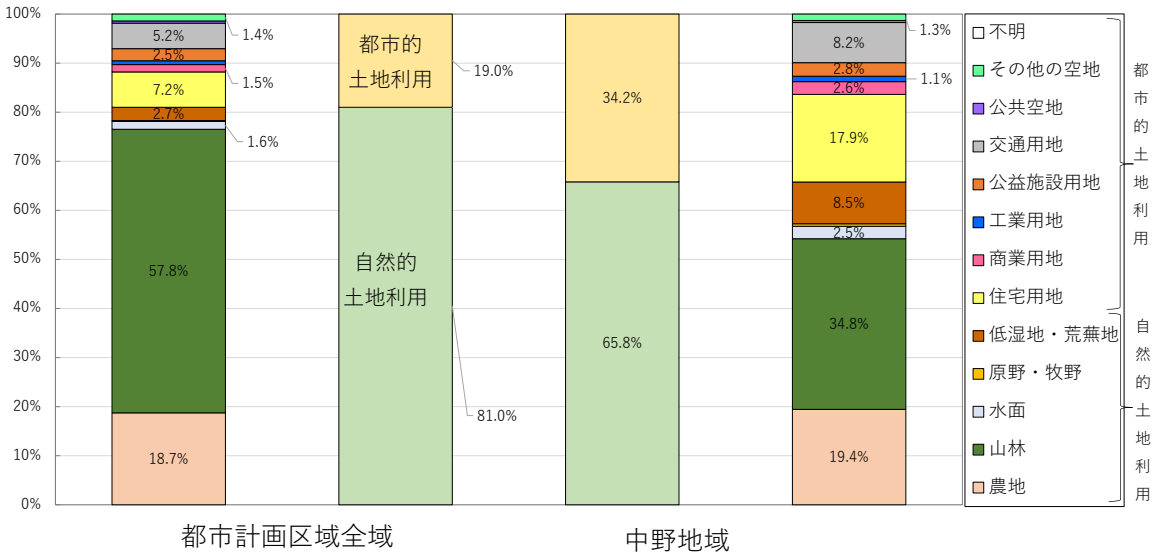


ⅳ)土地利用の状況

中野地域の土地利用は、自然的土地利用の割合が約 66%と高く、その多くが山林や農地であり、果樹園が広がる緑ゆたかな環境が地域の特色となっています。

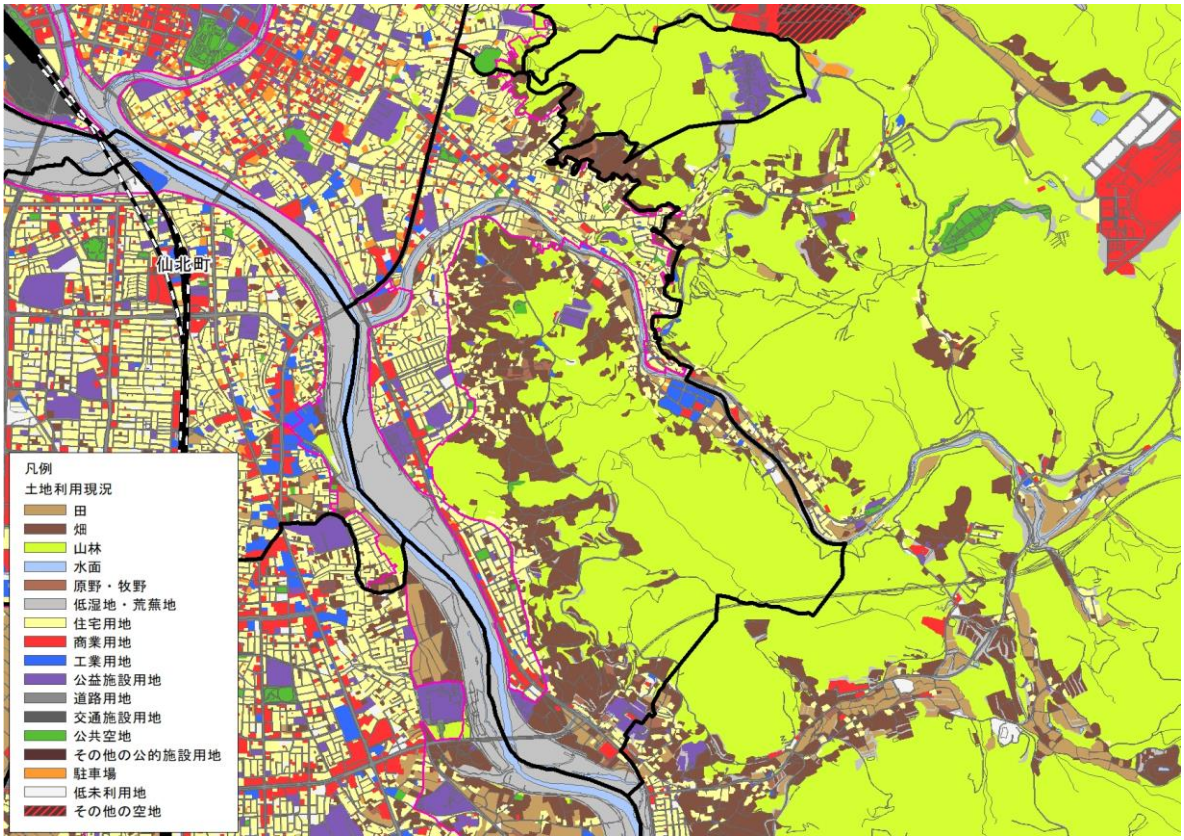
都市的土地利用においては、住宅用地が中心となっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



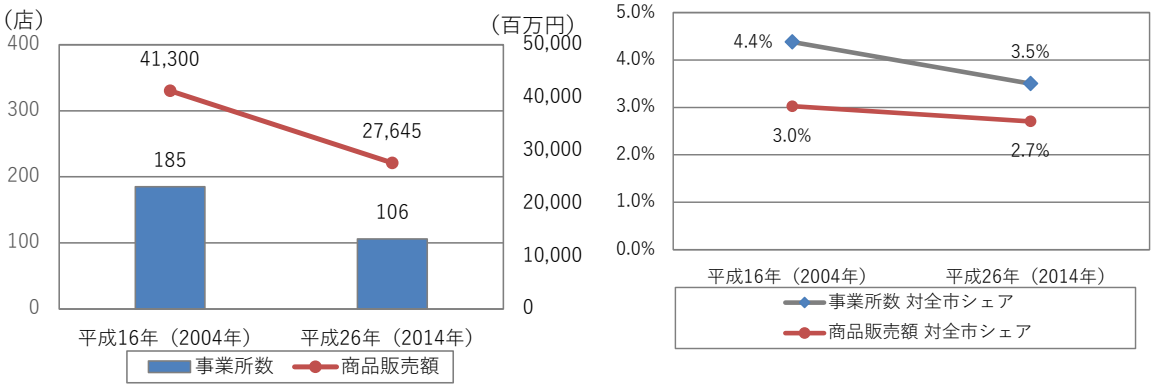
（地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。）

土地利用現況図　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



v）商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。
平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは約４％、商品販売額の対全市シェアは約３％となっています。

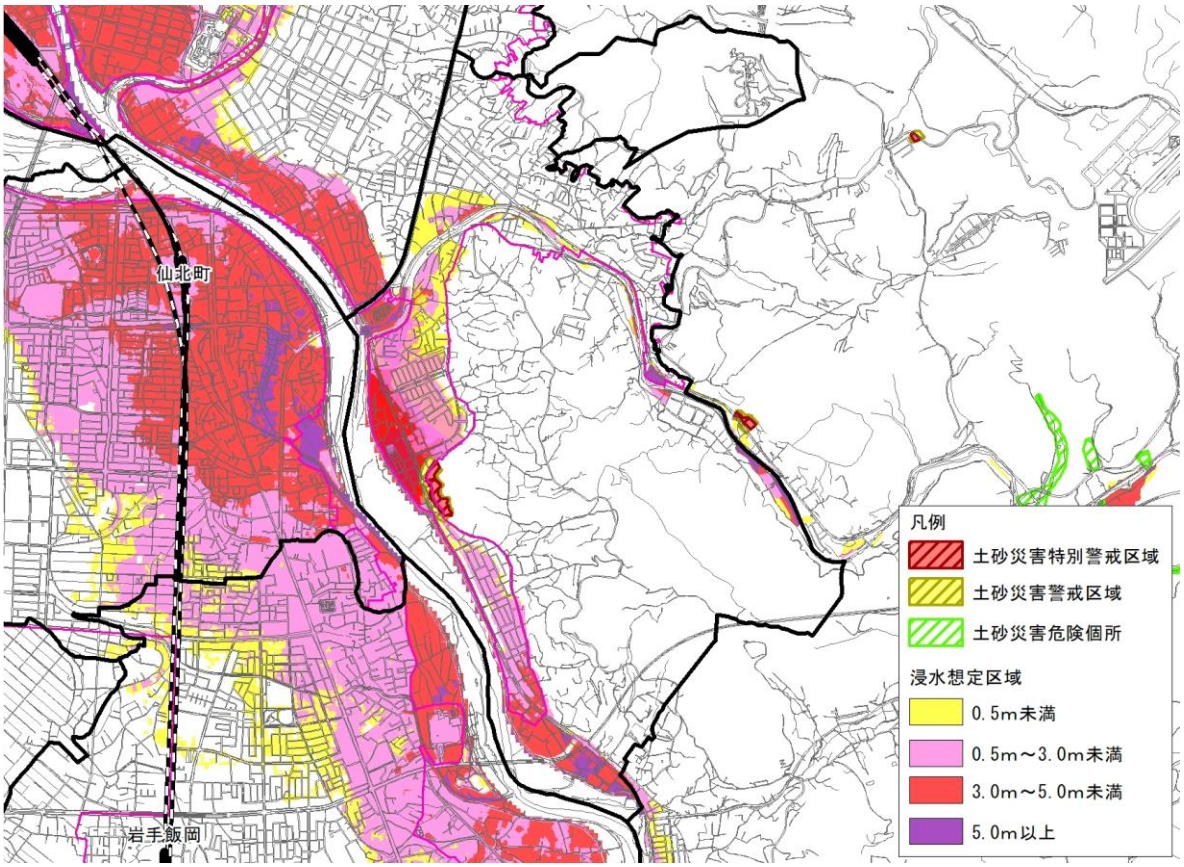


vi）災害リスクの分布状況

北上川沿いや簗川沿いが洪水浸水想定区域となっており、浸水深が 3.0m～5.0m未満の範囲が広く分布しているほか、一部には浸水深が5.0m以上の範囲があります。

また、傾斜地の一部に土砂災害特別警戒区域などが分布しています。

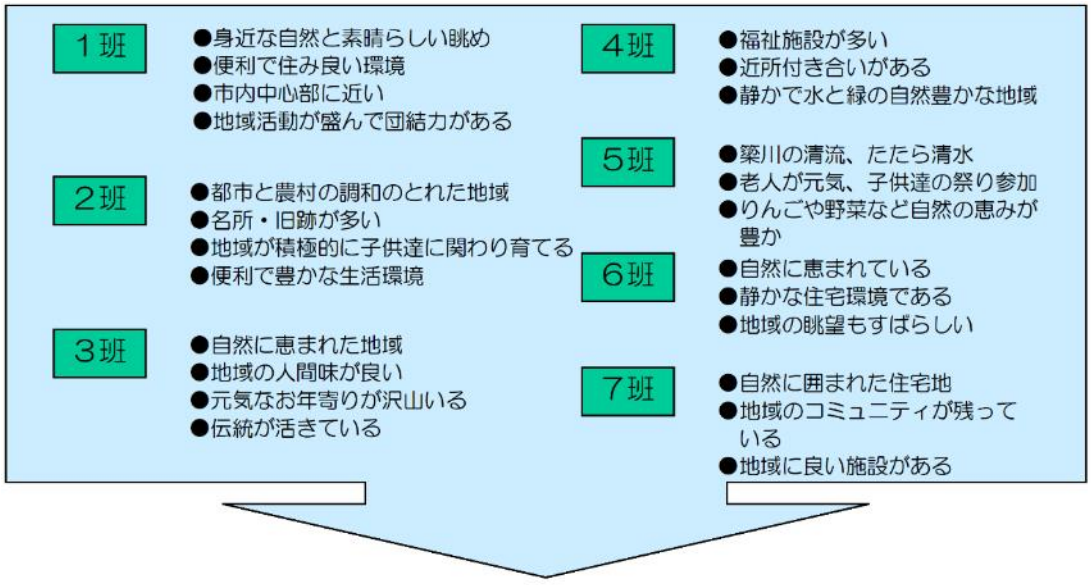
洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料：国土交通省、岩手県

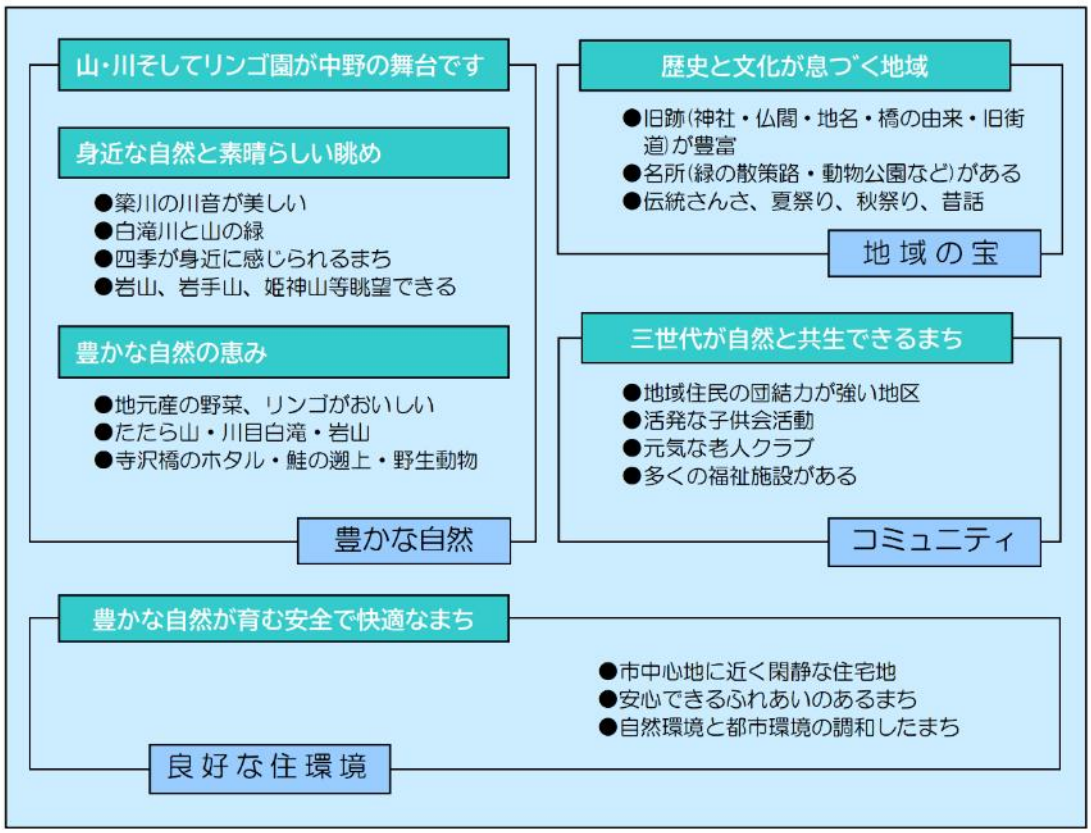


②市民意見

ｉ)地域の良いところ

平成 16 年度に策定した地域別構想（中野地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

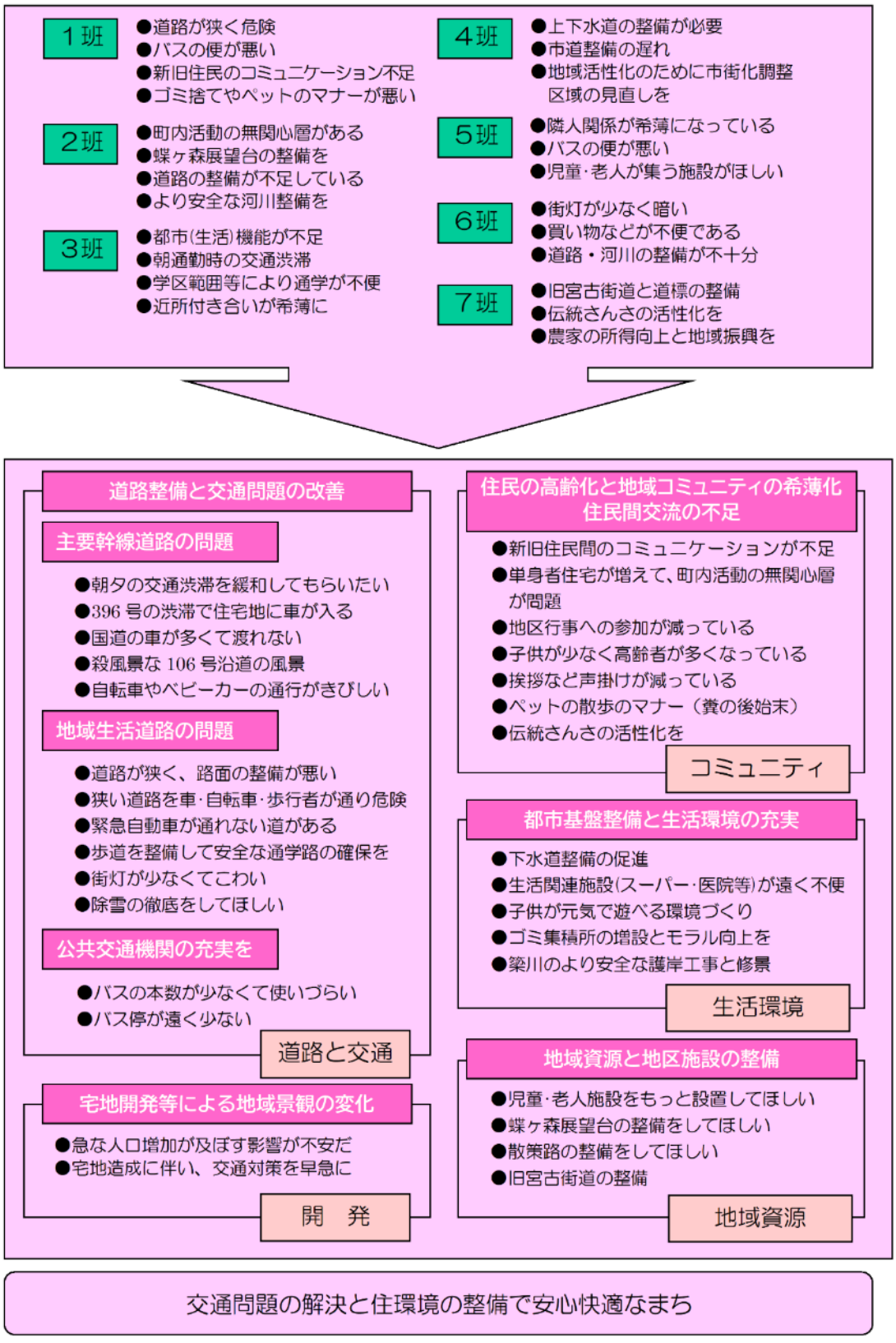




自然と調和し、地域コミュニティの充実した住み良いまち

ii)地域の課題

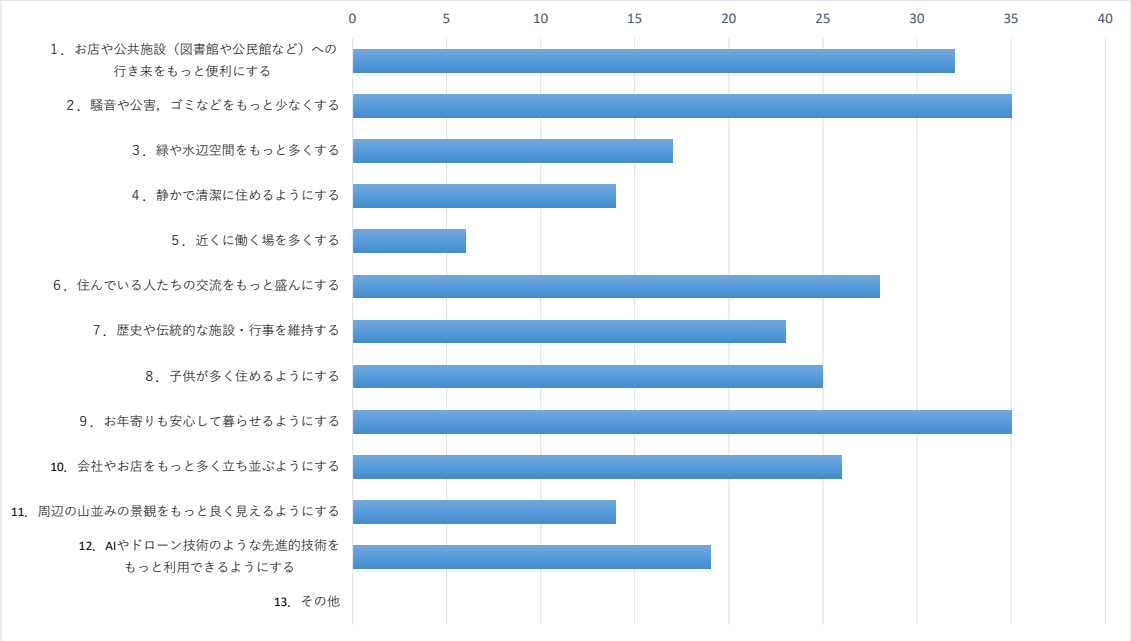
平成 16 年度に策定した地域別構想（中野地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



iii）中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（中野地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代である中野地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（中野地域の 102 人による複数回答を集計）

「騒音やゴミをもっと少なくする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「住んでいる人たちの交流をもっと盛んにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、道路整備に関する意見（舗装等の修繕、道路の拡幅など）、公園整備に関する意見（新たな公園の整備など）、お祭り・イベントの開催に関する意見（イベントの維持など）、環境保全等に関する意見（ゴミ拾いなど）が多くありました。

ⅳ）町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見（1回目：資源・課題）

今回の地域別構想（中野地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、中野地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔19 町内会・自治会のうち５団体（26%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●簗川の川音が美しい。
●岩山、岩手山、たたら山などが眺望できる。
●市中心に近く閑静な住宅地である。
●鮭の遡上。

【課題】

●狭い道路を車、自転車、歩行者が通行し、危険である。
●バスの本数が少なくて不便である。
●子どもが少なくなり、高齢者が多くなっている。独居生活者が増加している。

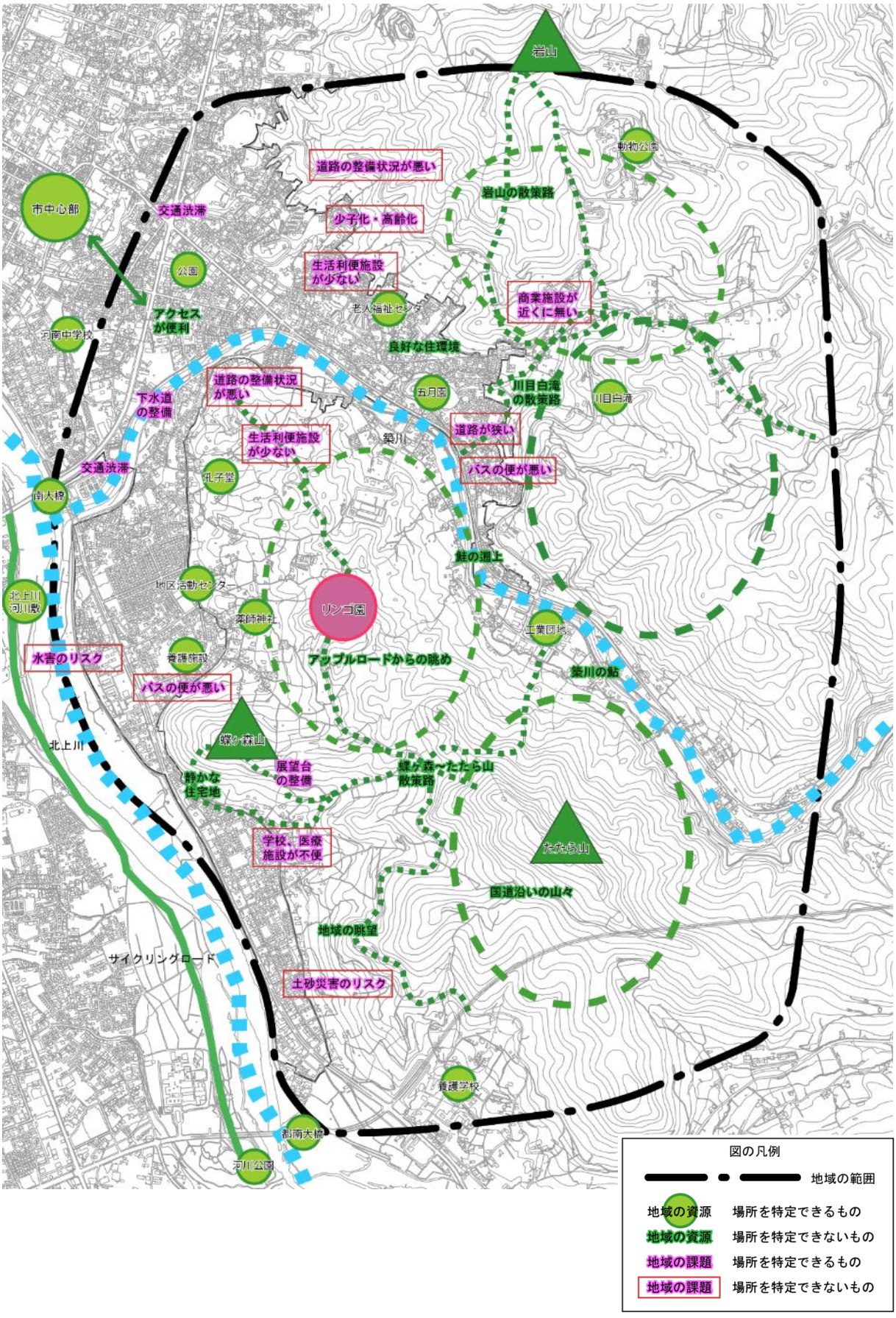
ⅴ）町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見（2回目：まちづくりの方向性と基本方針）

今回の地域別構想（中野地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、中野地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔19 町内会・自治会のうち８団体（42%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

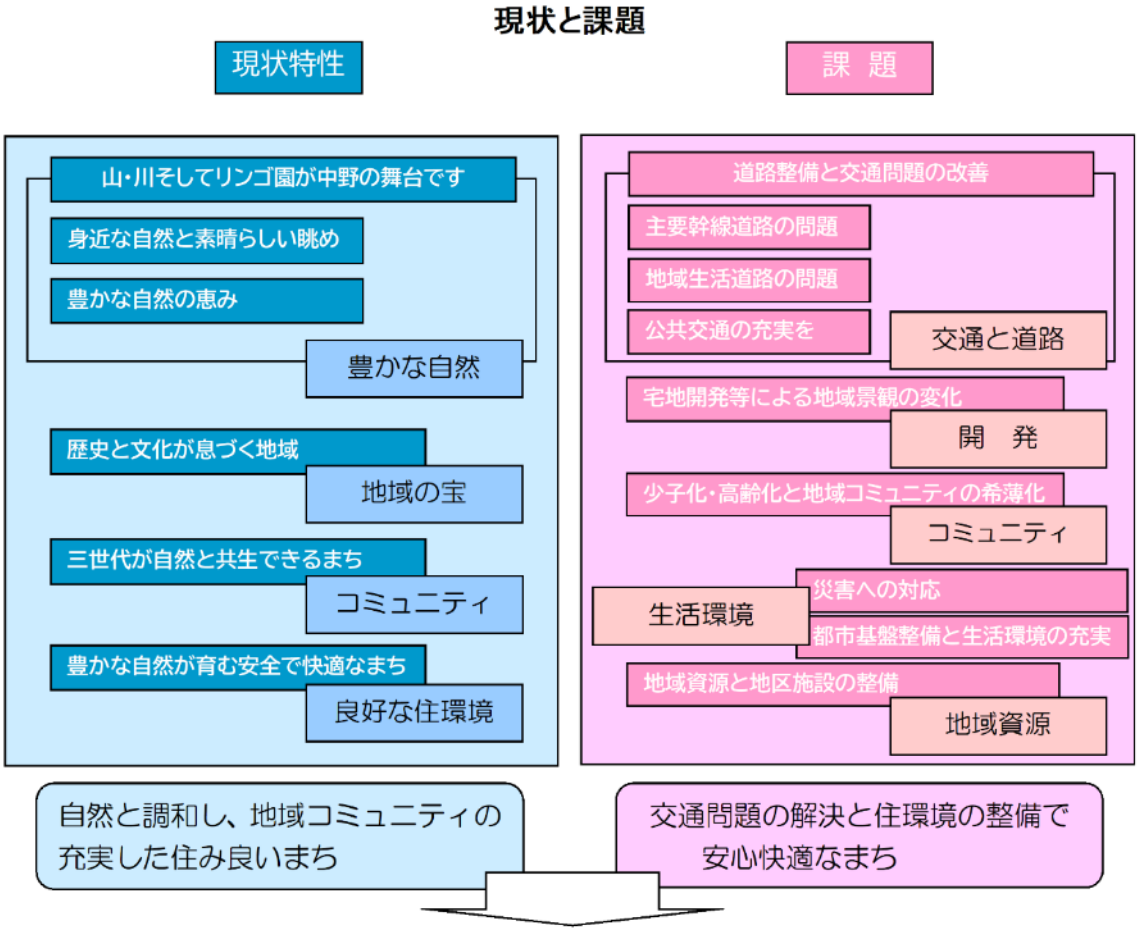
●朝の通勤時間帯に国道 396 号の代わりに東安庭～見石～片岡橋を通る市道を通行する車両が多く、通学する児童にとって危険な状態である。その安全性の確保が必要である。
●災害リスクの重大さを理解していない住民が多いので、周知徹底が必要である。また、避難場所として適当な場所がないのは問題である。

地域の資源・課題マップ


岩山
動物公園
道路の整備状況が悪い
岩山の散策路
市中心部
交通渋滞
少子化・高齢化
公園
生活利便施設が少ない
老人福祉センター
商業施設が近くに無い
アクセスが便利
河南中学校
良好な住環境
道路の整備状況が悪い
五月園
川目白滝の散策路
川目白滝
下水道の整備
道路が狭い
生活利便施設が少ない
築川
交通渋滞
バスの便が悪い
孔子堂
南大橋
鮭の遡上
地区活動センター
北上川河川敷
薬師神社
リンゴ園
工業団地
水害のリスク
アップルロードからの眺め
築川の鮎
バスの便が悪い
蝶ヶ森山
北上川
展望台の整備
蝶ヶ森～たたら山散策路
静かな住宅地
学校、医療施設が不便
たたら山
国道沿いの山々
地域の眺望
サイクリングロード
土砂災害のリスク
都南大橋
河川公園
図の凡例
地域の範囲
地域の資源　場所を特定できるもの
地域の資源　場所を特定できないもの
地域の課題　場所を特定できるもの
地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成 16 年度に策定した地域別構想（中野地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『恵まれた自然を愛する、癒しと福祉の里づくり』

②基本方針

ⅰ)豊かな自然景観を地域のシンボルとした癒しの里づくり

中野地域は、北上川とその支流である簗川が流れ、岩山・蝶ヶ森山・たたら山など地域の山々と丘陵地に広がるリンゴ園が相まって、四季折々の自然豊かな景観を呈しています。国道沿線を中心に住宅地が展開し、地域においては、この身近な自然環境への愛着が強く、これらの資源が地域のシンボルとなっています。

身近な山々に通じる自然散策路の整備を進め、より自然に親しむことができるような地域資源の活用を図ります。また、簗川や川目白滝の美しい清流を保全し、農業と住環境の調和を図りながら、緑の山並みと清流に抱かれたまちを維持する“癒しの里づくり”を推進します。

ⅱ)安心安全で快適な生活環境をめざすまちづくり

土地区画整理事業などで整備された地区を除いては、地区内における生活道路の整備が不十分なところがあります。地域の協力のもと、円滑な交通と安全な歩行空間の確保とともに、街灯の増設による暮らしの安全確保など、生活環境整備に取組んでいきます。

中野地域と中心市街地を結ぶ公共交通としてバスの利便性の向上を図り、中心市街地へのアクセス性を高めるとともに、幹線道路の渋滞緩和に努めます。

地域の活性化と自然環境の保全との調和を図りながら、商業施設や医療施設など生活利便施設の立地促進と、簗川の安全な護岸対策の推進及び優れた景観の維持に努めることにより、恵まれた自然と共生する安心安全な快適生活ゾーンの実現を目指します。

防災面では、地域を流れる北上川及び簗川沿いが洪水浸水想定区域に、また、傾斜地の一部が土砂災害警戒区域などに含まれています。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

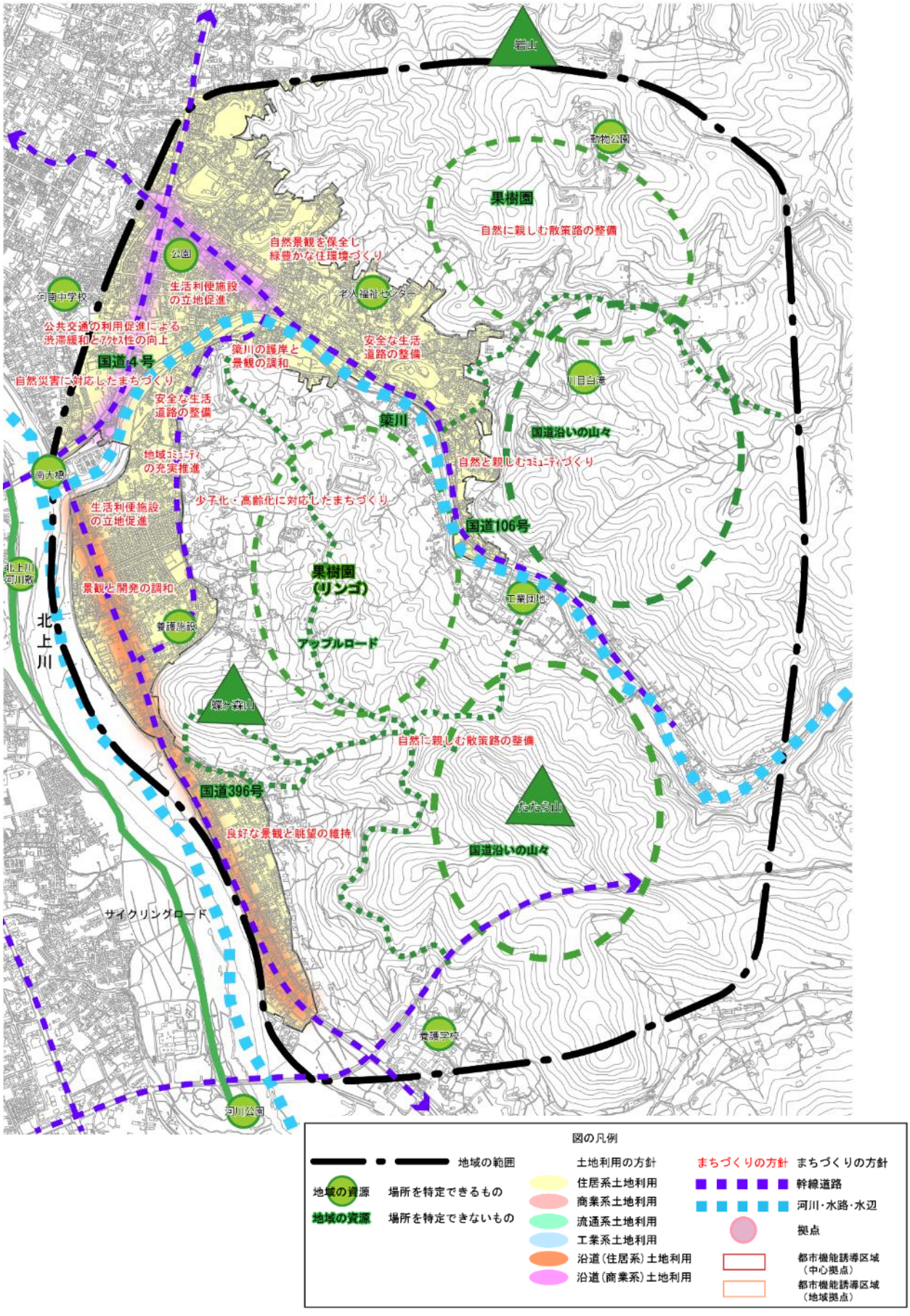
ⅲ)住民のふれあいを大切にする福祉の里づくり

中野地域は、藩政時代から沿岸や遠野方面への交通の要衝で、代々受け継がれる地区の祭りや伝統さんさがあり、昔話も存在する歴史的な文化を有しています。そのような歴史的背景と住民の団結力があるコミュニティの豊かな地域です。

近年、少子化・高齢化の進行や高齢者の一人暮らしの増加、戸建住宅とアパートやマンションの混在など、地域内におけるコミュニティの希薄化が指摘されており、町内会などの地区行事への積極的な参加の呼びかけや、地域内に多く立地する福祉施設と地域の方々が連携した活動を行うことにより、健康な高

齢者と元気な子どもを交えた三世代で築くまちとして、住民のふれあいを大切にした人情豊かな“福祉の里づくり”を推進します。

まちづくりの方針マップ



6)青山地域

青山地域の平成 14 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

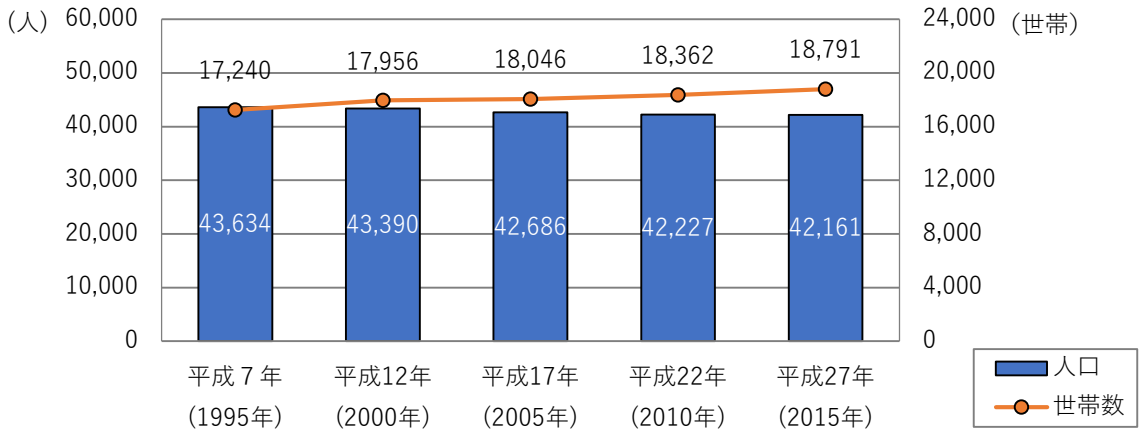
(1)地域の現状

①地域データ

ⅰ)人口･世帯数

青山地域の人口は微減傾向、世帯数は微増傾向にあります。

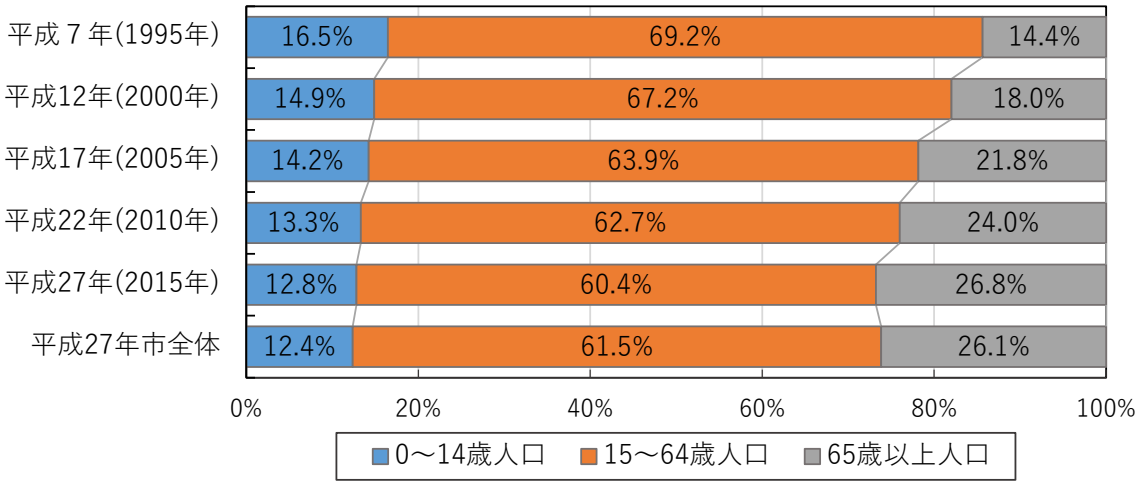
人口･世帯数の推移　資料:国勢調査



ⅱ)年齢階層別人口割合

青山地域は、高齢化の傾向にあり、市全体に比べて 65 歳以上人口の割合がやや高くなっています。

年齢階層の推移　資料:国勢調査

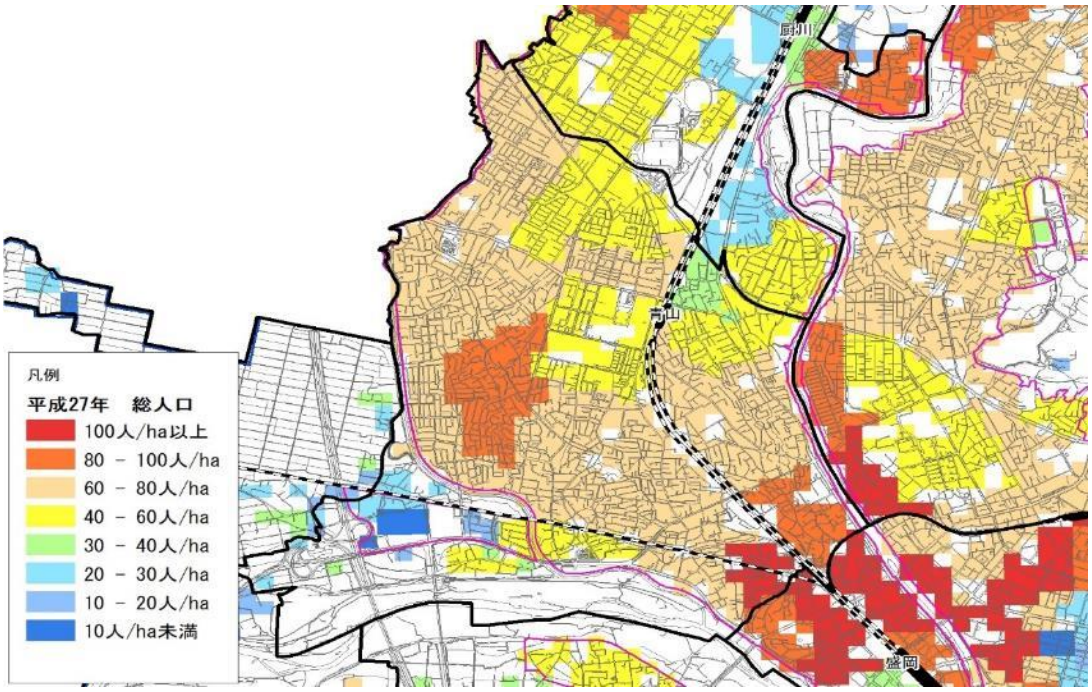


iii）人口の分布状況

長橋町など、新しく開発された一部のエリアが将来的に人口の増加が見込まれますが、多くのエリアにおいて人口の減少が見込まれます。

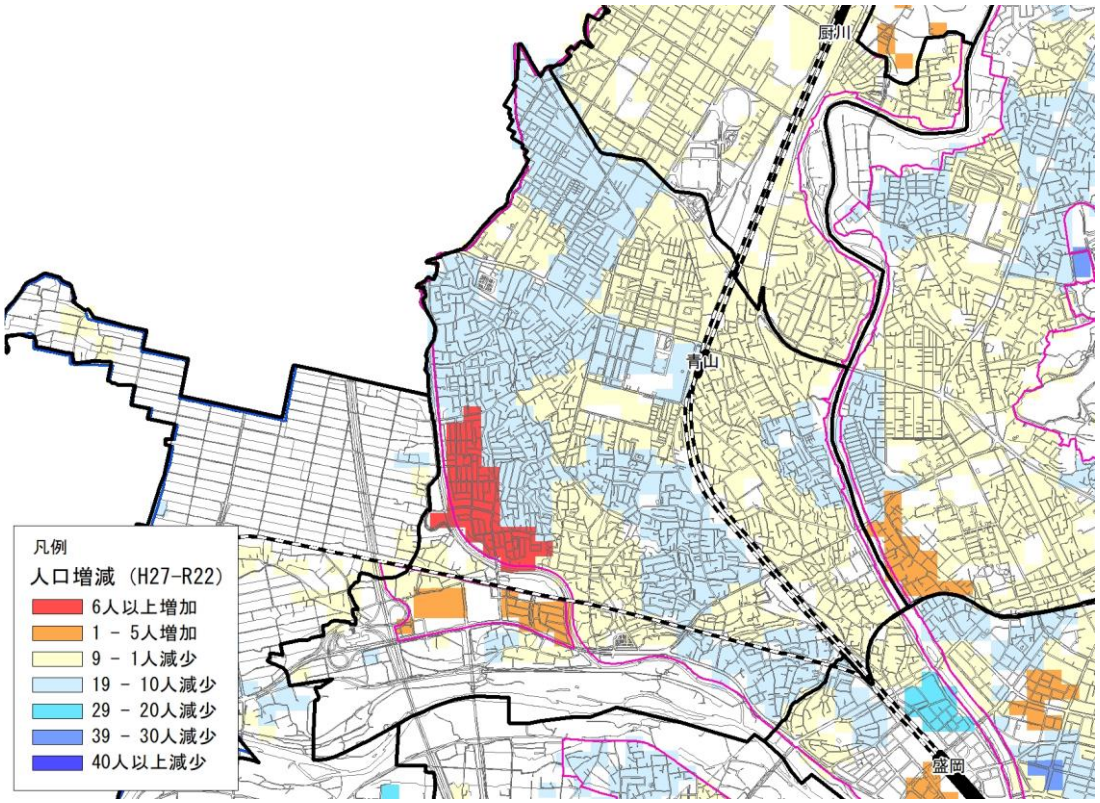
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲が地域の北側に分布しています。

100mメッシュ総人口分布図　資料：平成 27 年国勢調査結果

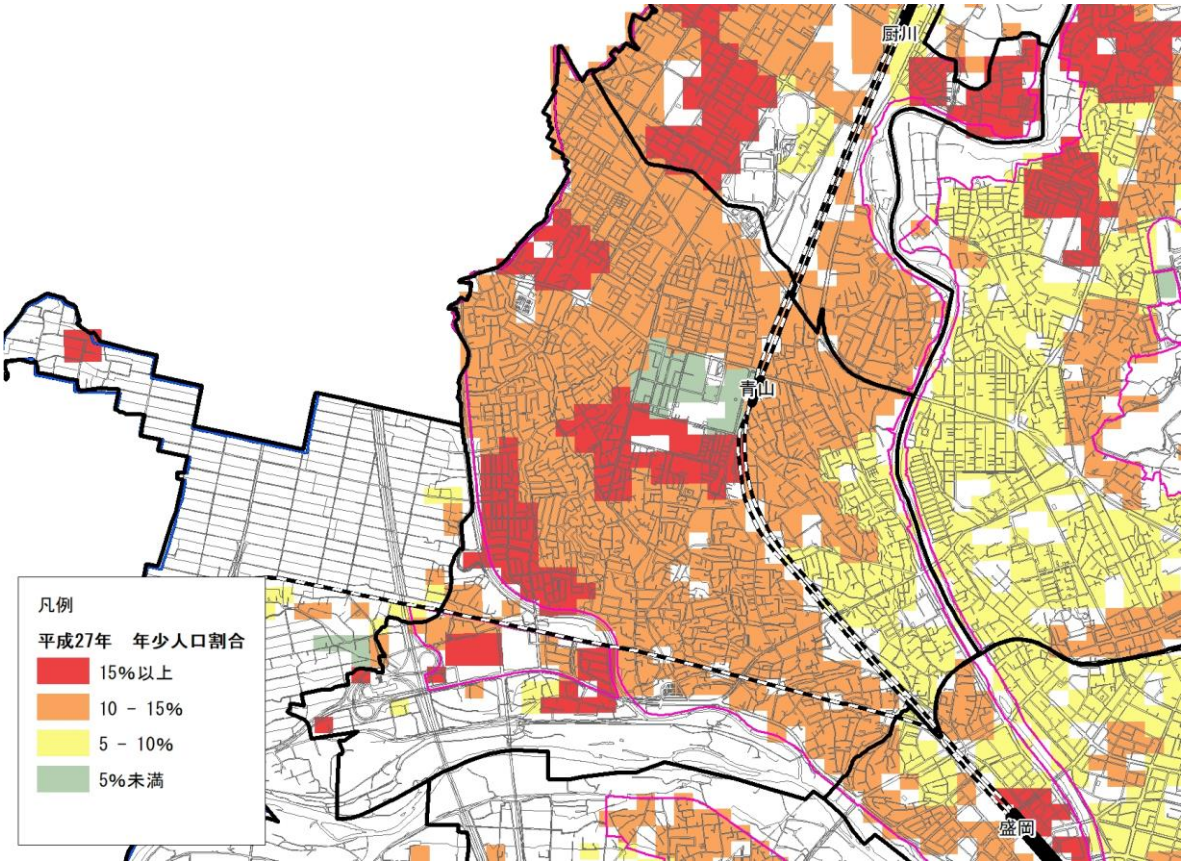


人口増減予測図（平成 27 年～令和 22 年）

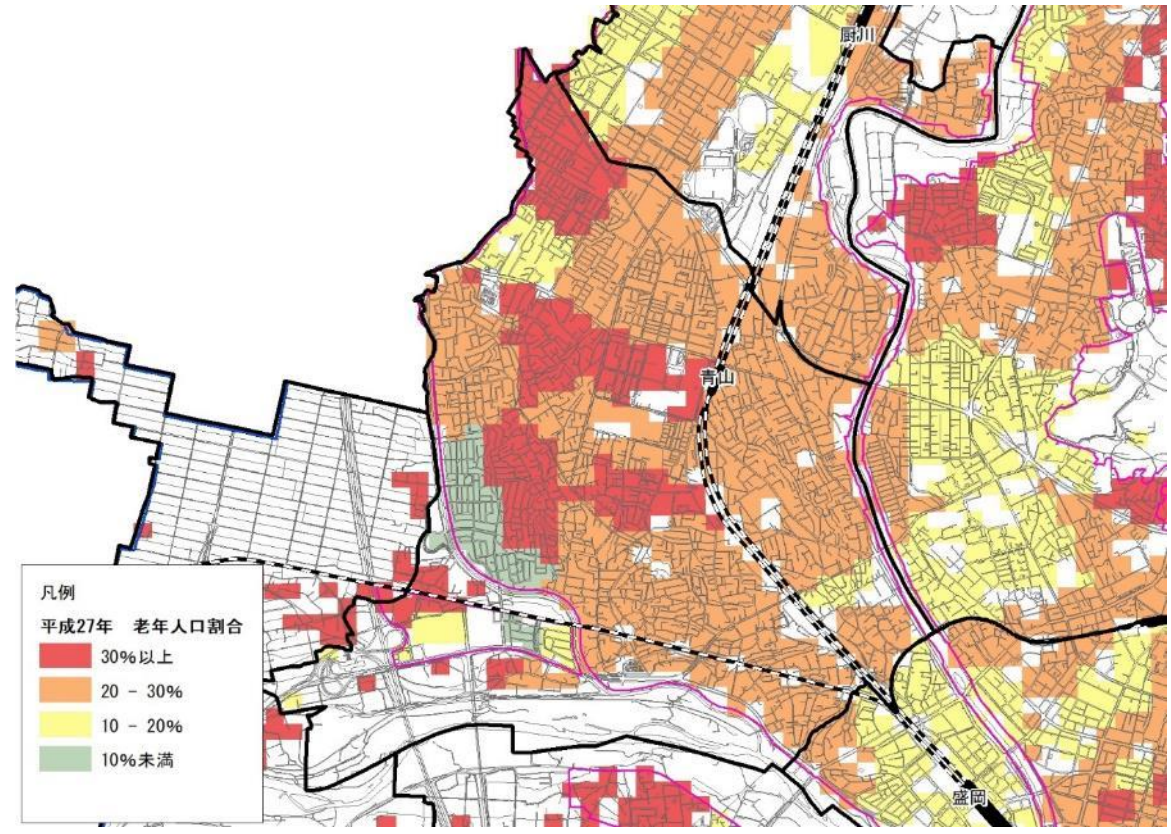
資料：平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



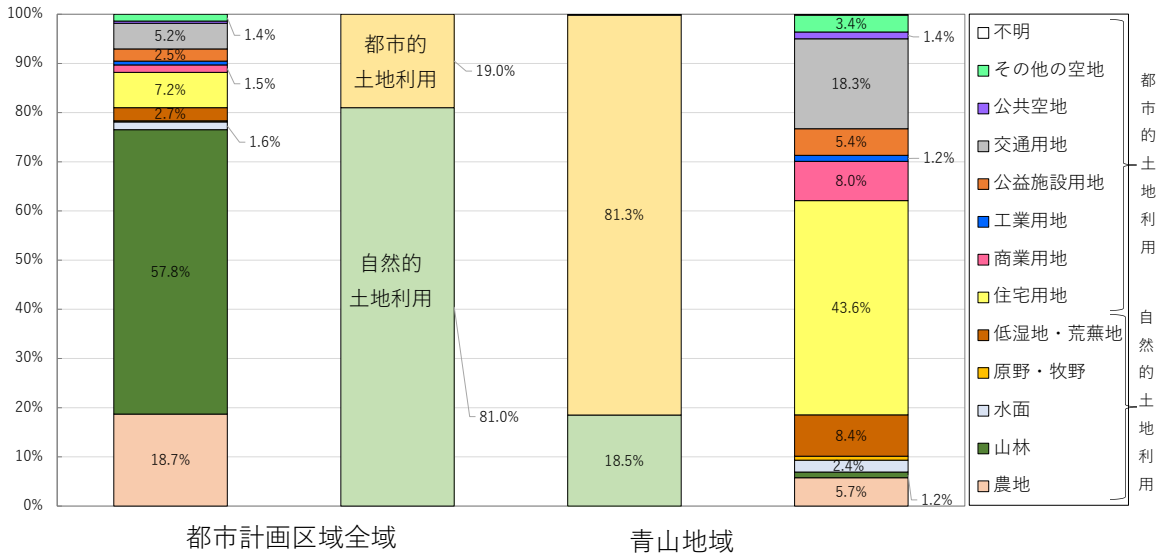
100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



iv）土地利用の状況

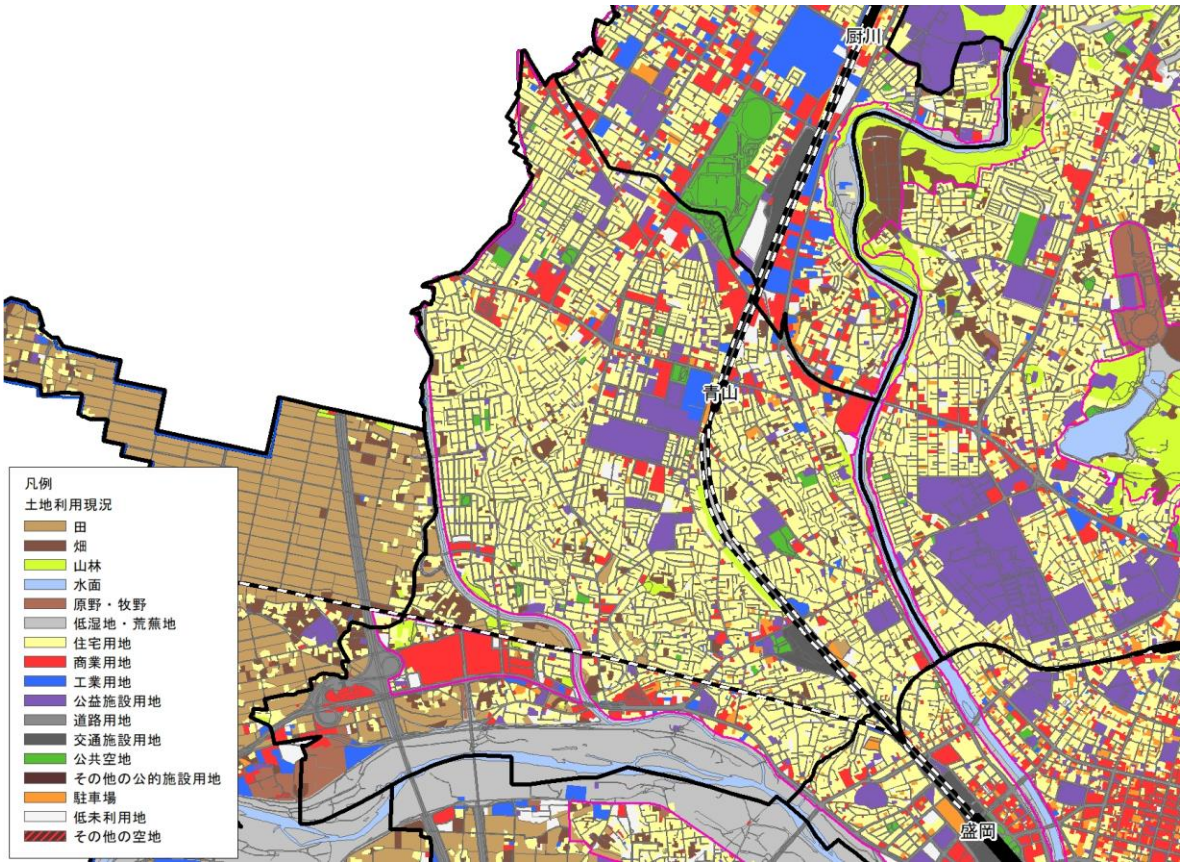
青山地域の土地利用は、都市的土地利用が約 81%となっており、都市化の進んだ地域です。都市的土地利用においては、過半を住宅用地が占めており、次いで、交通施設用地や商業用地が多くなっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



（地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。）

土地利用現況図　資料:平成 27 年都市計画基礎調査

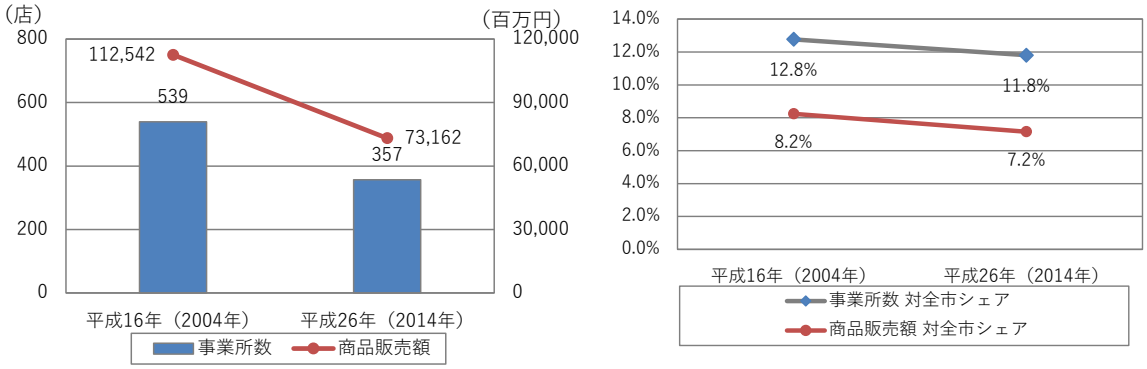


v）商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは約 12%、商品販売額の対全市シェアは約７％となっています。

産業関連指標と対全市シェア　資料：商業統計

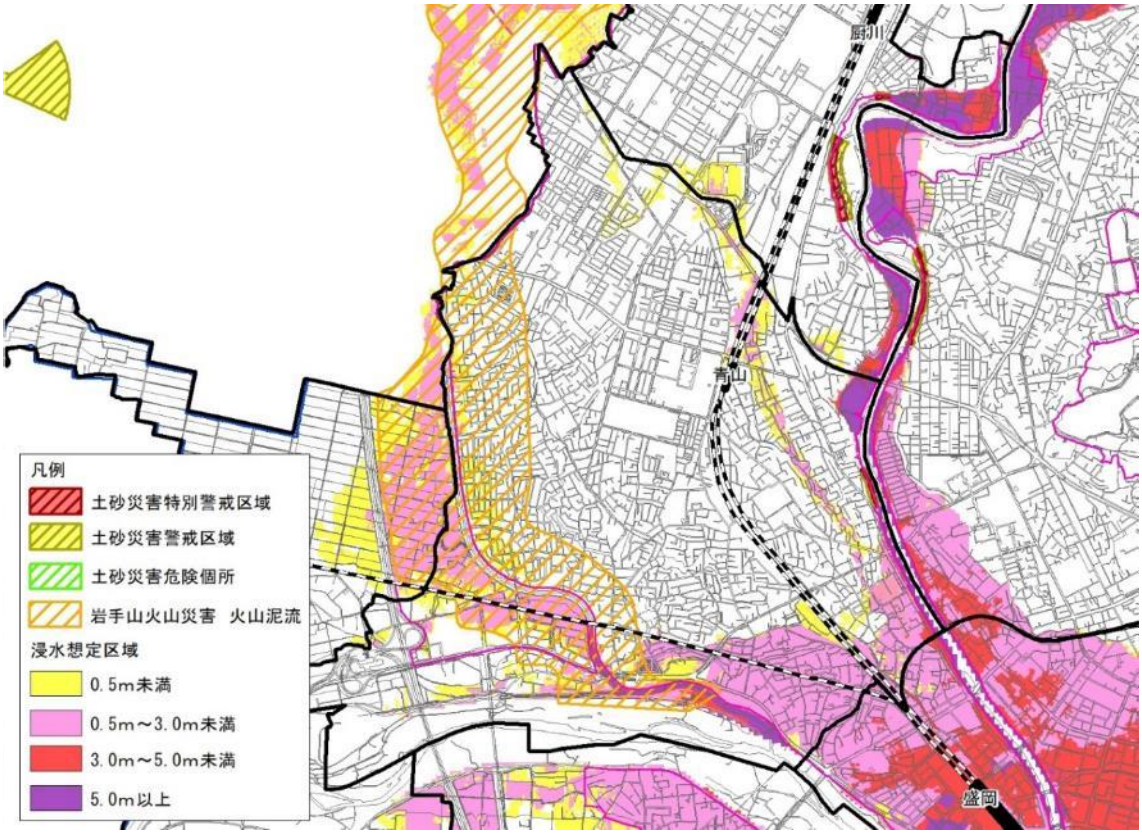


vi）災害リスクの分布状況

北上川、雫石川、諸葛川及び木賊川沿いに洪水浸水想定区域が広く分布しており、浸水深が 5.0m以上の範囲もあります。

また、北上川沿いに土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が分布しているほか、地域の西側に火山泥流が流れ下る危険性のある範囲が分布しています。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料：国土交通省、岩手県



②市民意見

ｉ)地域の良いところ

平成 14 年度に策定した地域別構想（青山地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

（　）は班員の主な居住地域

１班（西青山）
- ○買物と公共施設利用が便利
- ○町内会活動が活発
- ○「青山」という地名が良い

２班（月が丘）
- ○岩手山を美しく望める景観が良い
- ○施設や街路の緑が豊か
- ○町内会活動が活発

３班（青山）
- ○公園・街路樹などの緑が多い
- ○中心部への交通や買物が便利
- ○地域のふれあいがある

４班（稲荷町，上厨川）
- ○歴史のロマンや懐かしい雰囲気が感じられる
- ○川や田園風景が良い
- ○静かな住環境が整っている

５班（前九年，新田町）
- ○館坂や夕顔瀬は幹線道路沿いにあり交通の便が良い
- ○川や公園など散策できる空間がある
- ○歴史・史跡のある町

６班（大新町，中堤町）
- ○行政施設，医療施設，運動施設が充実している
- ○住宅，商業施設，工場等が適度に集積している
- ○自然環境が守られている

身近な緑とそれを含めた景観が大切な資源

緑の多い潤いのあるまち
- ●運動公園
- ●県営体育館前の公園
- ●国立病院前の桜並木
- ●月が丘の街路樹
- ●みたけ緑道
- ●前九年公園

山並みや清流の景観が良いまち
- ●諸葛川から見る岩手山
- ●田園風景（高速道路沿い）
- ●清流雫石川
- ●高層の建物が少ない

歴史が感じられるまち
- ●遺跡や地名に歴史のロマンを感じる
- ●安倍館，旧秋田街道，貞任橋，宗任橋など歴史の面影を残している
- ●神社や観音様が大切にされている
- ●地名「青山」は響きが良い

住宅地としての快適環境が整っている

住みよい住宅地域
- ●静かで住宅地に適している
- ●地域の生活リズムが調和している静かな住宅地
- ●川沿いや公園など散策できる空間が多い
- ●各種施設が充実し，地域内で生活が完結できる
- ●商店街やスーパー，大型店があり買物に便利
- ●中心部へのバス交通の便が良い

地域コミュニティが元気なまち
- ●町内会や子ども会活動が活発
- ●地域を愛している人が多い
- ●住民の連帯意識が強い
- ●元気な高齢者が多い
- ●小学校や公営住宅周辺で元気な子供の声がする
- ●果樹園や農地などで住民どうしの触れ合いがある

歴史のロマンや心を潤す緑に囲まれ，快適環境の整った住宅地

ii)地域の課題

平成 14 年度に策定した地域別構想（青山地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

（ ）は班員の主な居住地域

1班（西青山）
- ○居住者の高齢化
- ○公共施設の老朽化と一部施設の不足
- ○商店街の賑わい低下

2班（月が丘）
- ○危険な道路･渋滞の解消
- ○各種公共施設の配置に偏りがある
- ○公共交通利便性の地域格差

3班（青山）
- ○地域コミュニティの希薄化
- ○地区活動ｾﾝﾀｰ等が混り合っていて使いづらい
- ○大型店の進出による商店街の停滞

4班（稲荷町，上厨川）
- ○幹線道路へのアクセスが悪い（渋滞）
- ○狭くて迷路のような道路
- ○川への不法投棄が多い

5班（前九年，新田町）
- ○特定交差点の渋滞が深刻
- ○商店街がさびれてきた
- ○地下道や踏切が多く危険な道路

6班（大新町，中堤町）
- ○道路整備と渋滞の解消が必要
- ○公共交通の地域格差
- ○人間関係の希薄化

交通施設の改良が必要

渋滞
- ●朝夕の渋滞がはげしい
（館坂交差点，上堂交差点，馬頭踏切交差点等が原因）
- ●週末の渋滞がはげしい

道路の構造･ネットワーク
- ●道路幅員が狭く危険
- ●歩道が狭く段差が多い
- ●迷路のような道路
- ●幹線道路までのアクセスが悪い
- ●高齢者が利用しにくい新田町や夕顔瀬の地下道

大型店の進出
- ●既存商店街の活力低下
- ●商店街の空き店舗増加
- ●量販店の影響を受けて地元のスーパーが閉店したが車を使えない高齢者には不便

既存商店街の低迷

公共交通機関が不十分

バス
- ●地域内のバス利便性に格差がある
- ●中心部とのアクセスは良いが市内他地域へのアクセスが悪い

新駅
- ●青山駅の新設と，駅を中心とした循環バスを希望

公共施設の問題
- ●施設の老朽化が進んでいる（公営住宅含む）
- ●不足している施設がある
（コミュニティ施設や公民館は利用率が高すぎて使いたいときに使えない場合がある）
- ●施設が一定地域に偏っている
- ●各施設の駐車場が不十分

少子高齢化の進行
- ●地域の若者や子供が少なく元気がない
- ●一人暮らしの高齢者が多い
- ●老人福祉施設や介護施設が不足している

地域コミュニティの希薄化
- ●高齢者と若者の世代間交流が進まない
- ●古くからの居住者と新しい居住者とのコミュニティ形成が困難
- ●町内会活動や清掃活動の負担が増加

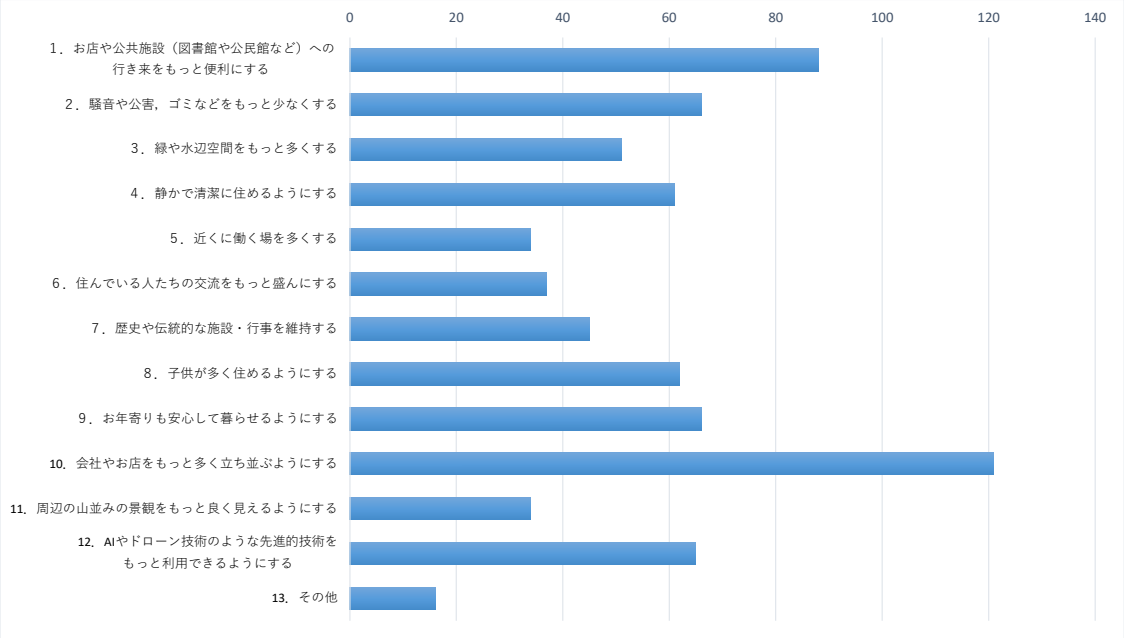
- ●集合住宅の多い地域では子供が多いがコミュニティのつながりが弱い
- ●一戸建ての多い地域では子供が少ないがコミュニティのつながりが強い

地域のみんなが使いやすい身近な道路と公共交通
地域コミュニティと地元商店街が元気なまちづくり

iii）中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（青山地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代である青山地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（青山地域の 275 人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「騒音やゴミなどをもっと少なくする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公共施設の整備に関する意見（新たな施設の整備など）、道路整備に関する意見（道路の拡幅、舗装等の修繕など）が多くありました。

ⅳ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（青山地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、青山地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔26 町内会・自治会のうち 17 団体（65%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●活動センター、警察署、消防署、小学校、中学校が近く、交通や買い物が便利で治安もよく、暮らしやすい。
●ＩＧＲ青山駅や盛岡インターチェンジにも近くバスの便もよく住みやすい地域。
●歴史、風土が語る自然豊かな地域。
●諸葛川から見る岩手山。

【課題】

●自治会、町内会組織の高齢化が進み、担い手不足で負担が大きくなっている。
●大型商業施設が進出したため、昔からの商店は姿を消した。
●道幅の狭いところが多く事故が心配である。
●旧少年刑務所跡地が今は前九年公園となっており町民の憩いの場、活動の場となっている。
●岩手山の噴火に対する対策が必要である。
●空き家対策、少子化・高齢化対策が急務である。

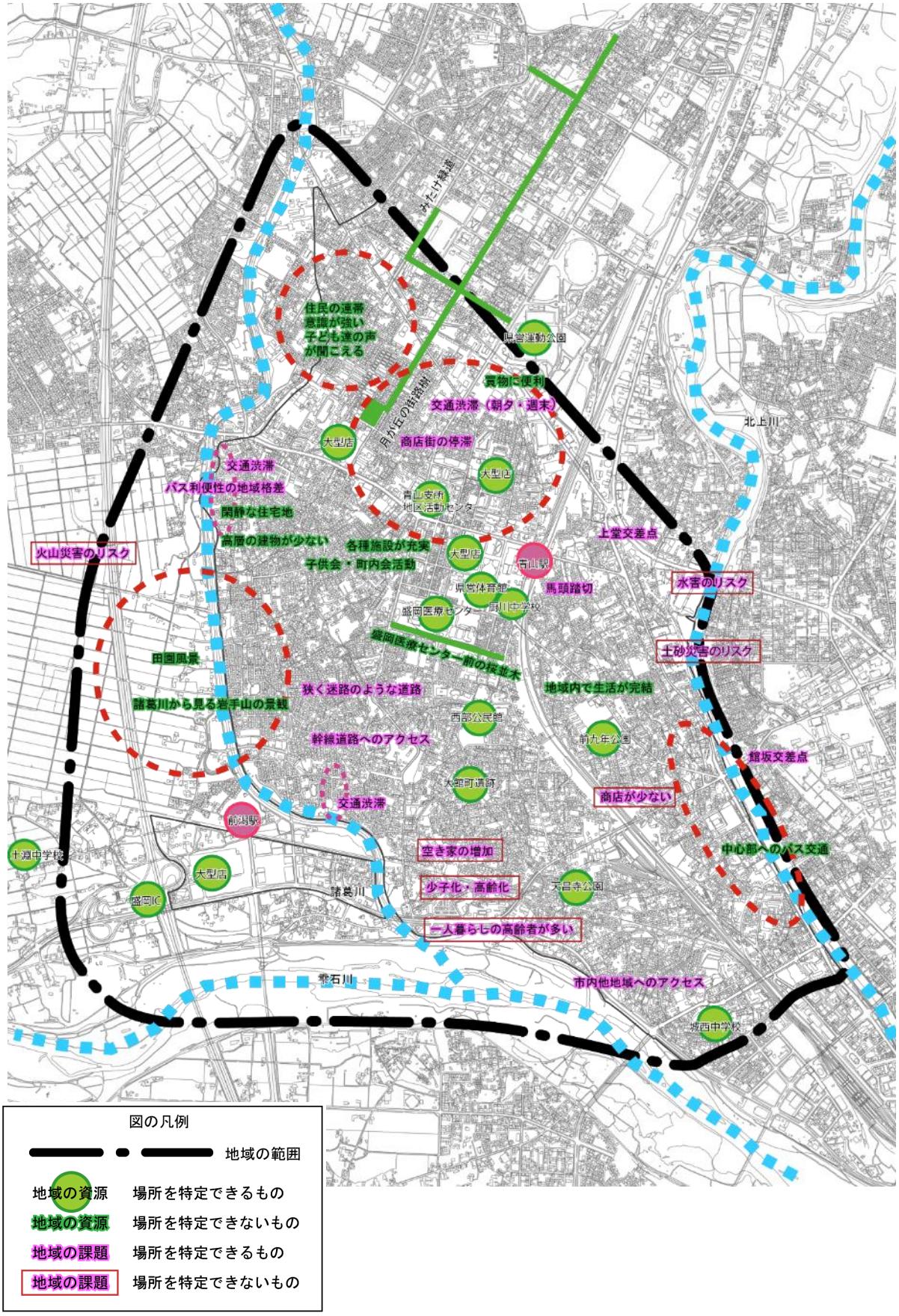
ⅴ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（青山地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、青山地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔26 町内会・自治会のうち 16 団体（62%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

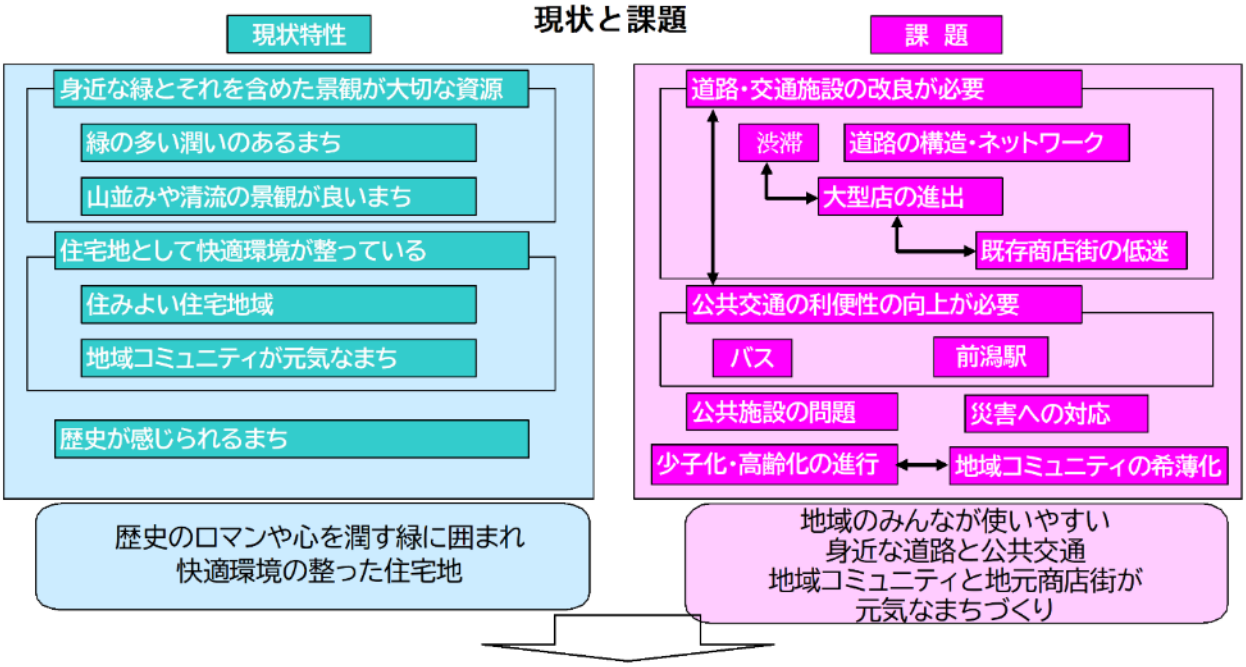
●地域に暮らしている住民が明るく、住んでよかったと思える場所になってほしい。
●青山地域の自然を活かしたまちづくりを基本とすべき。利便性のみのまちづくりであってはならない。
●世代間交流が普通にできるまちづくり。
●ＪＲ田沢湖線に前潟駅が作られることも大事な要素なので方針のどこかに盛り込んでも良いと思う。
●子育てしやすい環境のまちづくり。

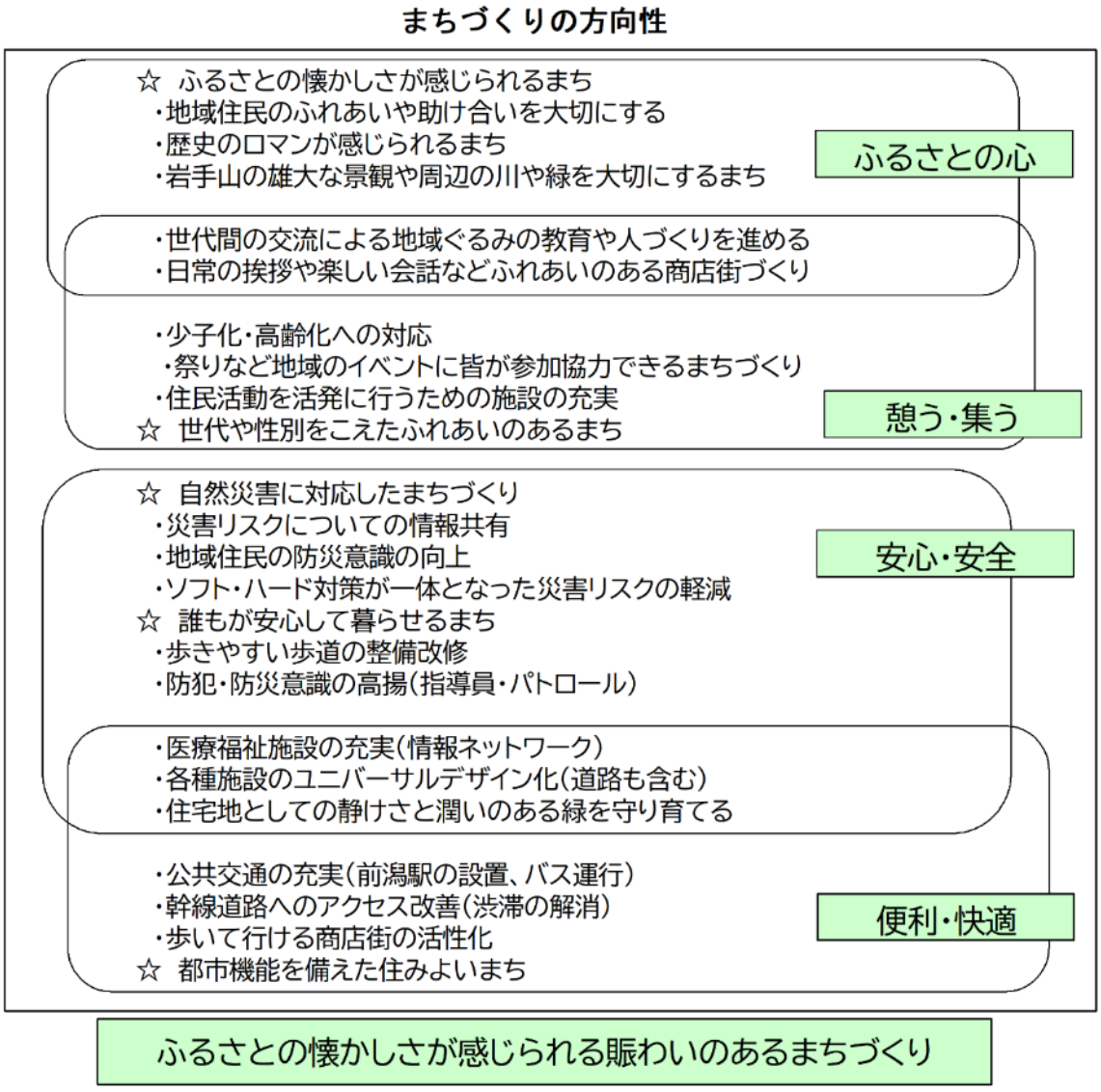
地域の資源・課題マップ


住民の連帯意識が強い
子ども達の声が聞こえる
県営運動公園
買物に便利
交通渋滞（朝夕・週末）
月が丘の街路樹
みたけ緑道
北上川
大型店
商店街の停滞
交通渋滞
バス利便性の地域格差
閑静な住宅地
大型店
青山支所
地区活動センター
高層の建物が少ない
各種施設が充実
子供会・町内会活動
火山災害のリスク
大型店
青山駅
上堂交差点
県営体育館
馬頭踏切
水害のリスク
盛岡医療センター
厨川中学校
盛岡医療センター前の桜並木
土砂災害のリスク
田園風景
狭く迷路のような道路
地域内で生活が完結
諸葛川から見る岩手山の景観
西部公民館
前九年公園
幹線道路へのアクセス
館坂交差点
大型町道跡
商店が少ない
交通渋滞
前潟駅
中心部へのバス交通
十淵中学校
空き家の増加
大型店
盛岡IC
諸葛川
少子化・高齢化
大昌寺公園
一人暮らしの高齢者が多い
雫石川
市内他地域へのアクセス
城西中学校
図の凡例
地域の範囲
地域の資源　場所を特定できるもの
地域の資源　場所を特定できないもの
地域の課題　場所を特定できるもの
地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成14年度に策定した地域別構想（青山地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。





(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

**『ふるさとの懐かしさが感じられる
賑わいのあるまちづくり』**

②基本方針

ⅰ)次の世代につなぎたい快適な住環境づくり

青山地域は、公園や街路樹など心を潤す緑が多く、また岩手山、諸葛川、田園などの風景とともに地域の人々にとって大切な心のよりどころになっています。地域の大切な資源であるこれらの緑をみんなで守り育てるとともに、建物の高さを岩手山の眺めに配慮するなど、住環境を意識した、次世代にも住みよい、ふるさとを感じられるまちづくりを推進します。

防災面では、地域を流れる北上川、雫石川、諸葛川及び木賊川沿いに、洪水浸水想定区域などに含まれるエリアが多くあります。さらに、北上川沿いには、土砂災害警戒区域に含まれているエリアが、諸葛川沿いには、岩手山の火山噴火による火山泥流が想定されるエリアがあります。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

また、地域内のパトロールや指導員などをみんなで分担しながら、防犯の意識を高め、安全なまちづくりを推進します。

さらに、地域内の国道 46 号や県道などの幹線沿道は、商業施設や医療施設、体育館などの施設が充実しており、特に、ＩＧＲ青山駅から既存商店街までのエリアは地域の中心となる拠点となっているほか、大規模商業施設のある前潟駅前エリアは地域の商業拠点として、地域内で日常生活を送ることができる便利な住環境となっています。また、幹線道路から離れた地域では、静かな住宅地が広がっており、この閑静な住環境を維持しながらも身近な店舗の立地を図るなど、より便利なまちづくりを推進します。

上厨川地区土地区画整理事業の跡地は、国道 46 号や東北自動車道盛岡インターチェンジなど交通の要衝に隣接する立地特性を活かした土地利用の誘導や廃棄物エネルギーの利活用などにより、地域振興を推進します。

ⅱ)活気とふれあいのあるコミュニティづくり

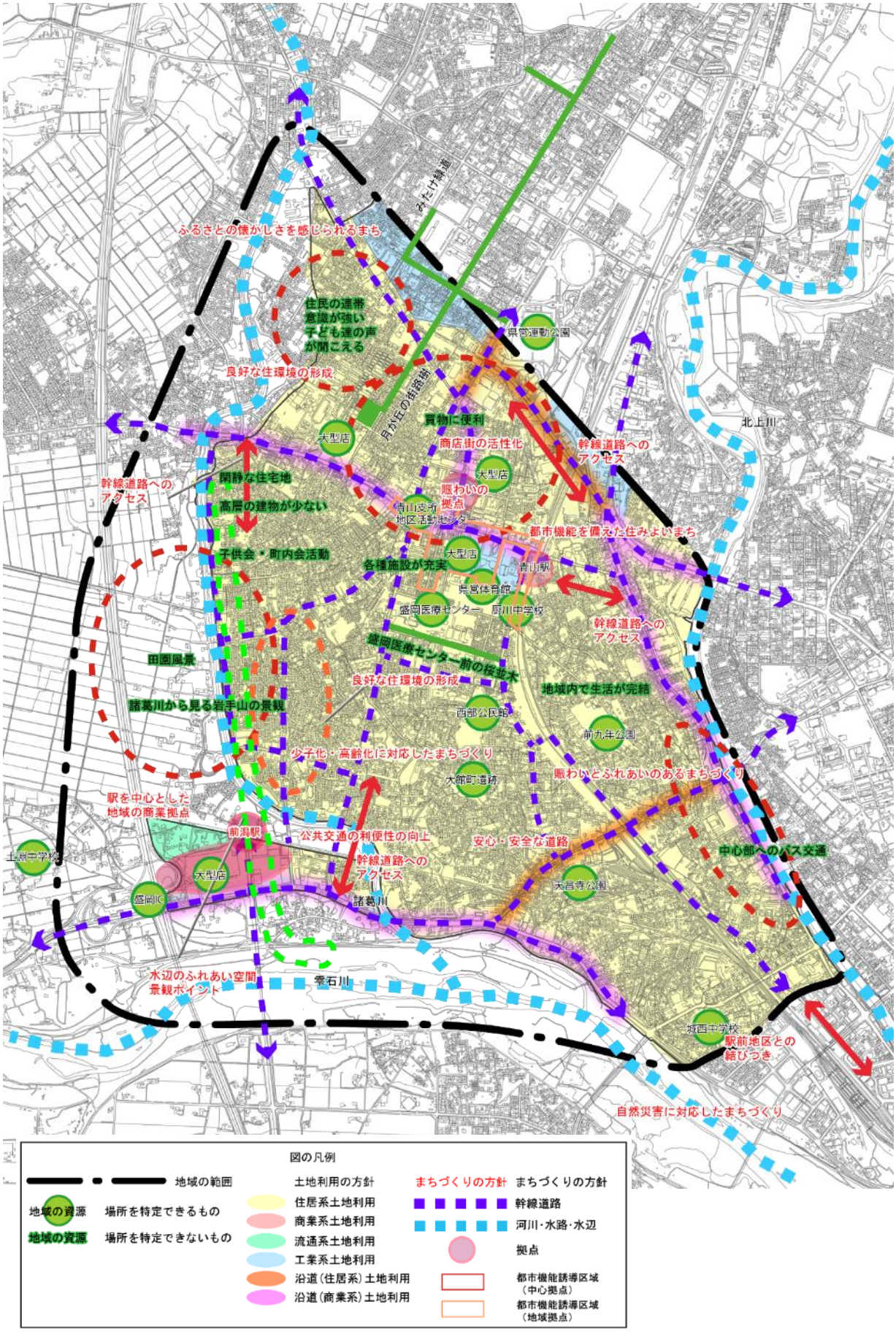
青山地域では、大型店進出などの影響から交通渋滞が発生しているほか、ふれあいの空間であった商店街の賑わいが低下するなどの課題がみられようになってきました。また、近年の少子化・高齢化の進行や空き家の増加などにより、地域活動を支えるコミュニティの衰退も懸念されています。このような状況に対して、地元商店街を明るい挨拶や会話のあるふれあいの空間として、みんなで盛り上げるとともに、大型店については、商店街との共存や渋滞の解消を図りながら、周辺地域を含めた賑わいの核としての利便性を向上させ、それぞれの機能を高めることにより、地域全体の活性化を図っていきます。さらに、地域コミュニティについては、活動センターなどの公共施設が世代間や地域間の交流を生むふれあいの場として、より一層の活用が図られるよう、使い方を工夫するとともに、地域の歴史や資源の再発見、イベントの開催などを通

じて、自発的な住民活動を広げることにより、賑わいとふれあいあるまちづくりを推進します。

ⅲ)安全安心で使いやすい交通施設の充実

青山地域は、幹線道路や住宅地の主要な道路が整備される前に宅地化が進行したため、歩道と道路の段差が大きい危険な箇所があるほか、道幅が狭い道路や、入り組んだ迷路のような道路など、幹線道路へのアクセスが危険で困難な地区もあります。また、五差路などの複雑な交差点があり、朝夕の渋滞の原因となっています。これらの解消を図るため、青山地域と中心市街地を結ぶ幹線道路の整備、住宅地内の狭い道路の拡幅、歩道や踏切、地下道のユニバーサルデザイン化などを、地域の協力のもと、進めるとともに、道路内に設置されている電柱の宅地内への移設や一方通行の活用など、現在の道路幅員内での安全性の向上を工夫していきます。また、高齢者など交通弱者も含めた地域の誰もが使いやすいバスのルートの設定や、交通結節機能を担う前潟駅の設置により公共交通の利便性の向上を図るとともに、住宅地における騒音対策などを総合的に地域で話し合いながら、誰にでも優しい安全安心な交通環境の構築を目指します。

まちづくりの方針マップ



7)みたけ・厨川地域

みたけ・厨川地域の平成 15 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

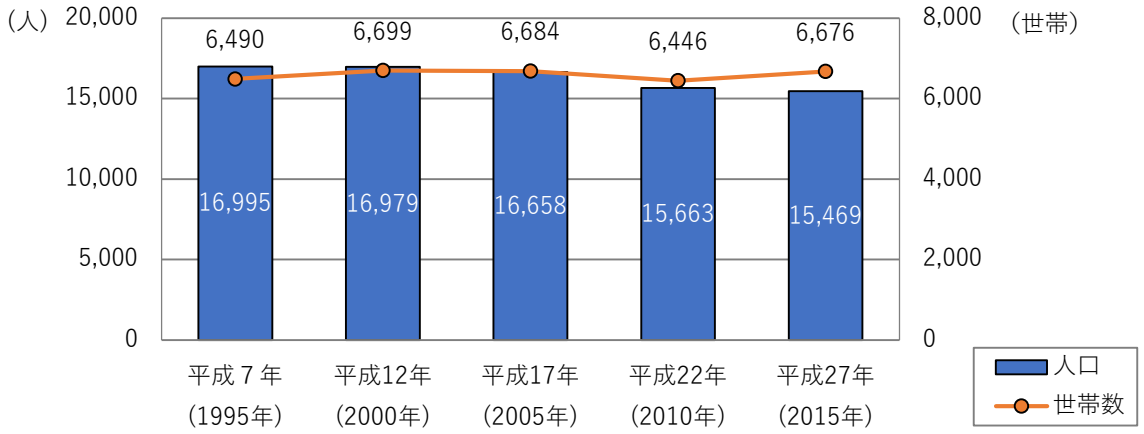
(1)地域の現状

①地域データ

ⅰ)人口・世帯数

みたけ・厨川地域の人口は微減傾向、世帯数は横ばい傾向にあります。

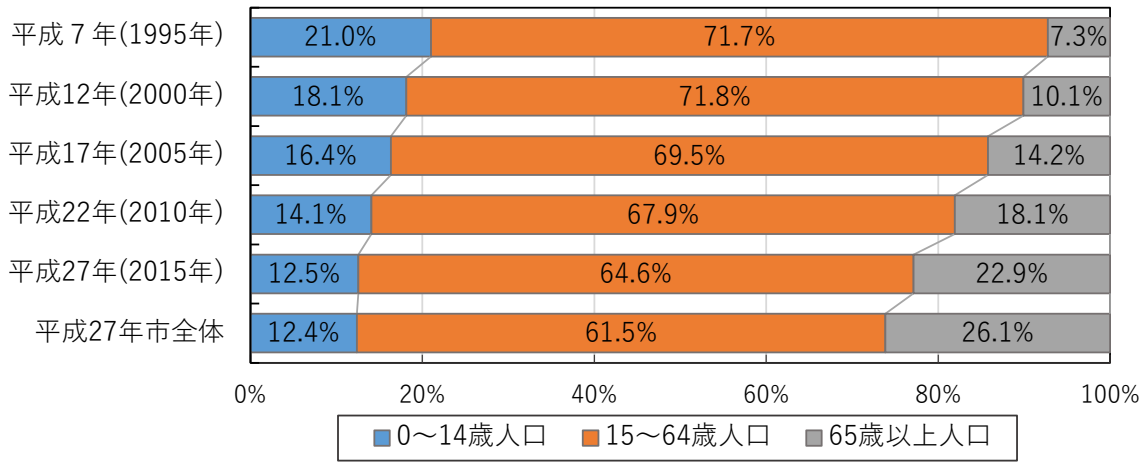
人口・世帯数の推移　資料:国勢調査



ⅱ)年齢階層別人口割合

みたけ・厨川地域は少子化・高齢化の傾向にありますが、市全体に比べて 65 歳以上人口の割合は低くなっています。

年齢階層の推移　資料:国勢調査

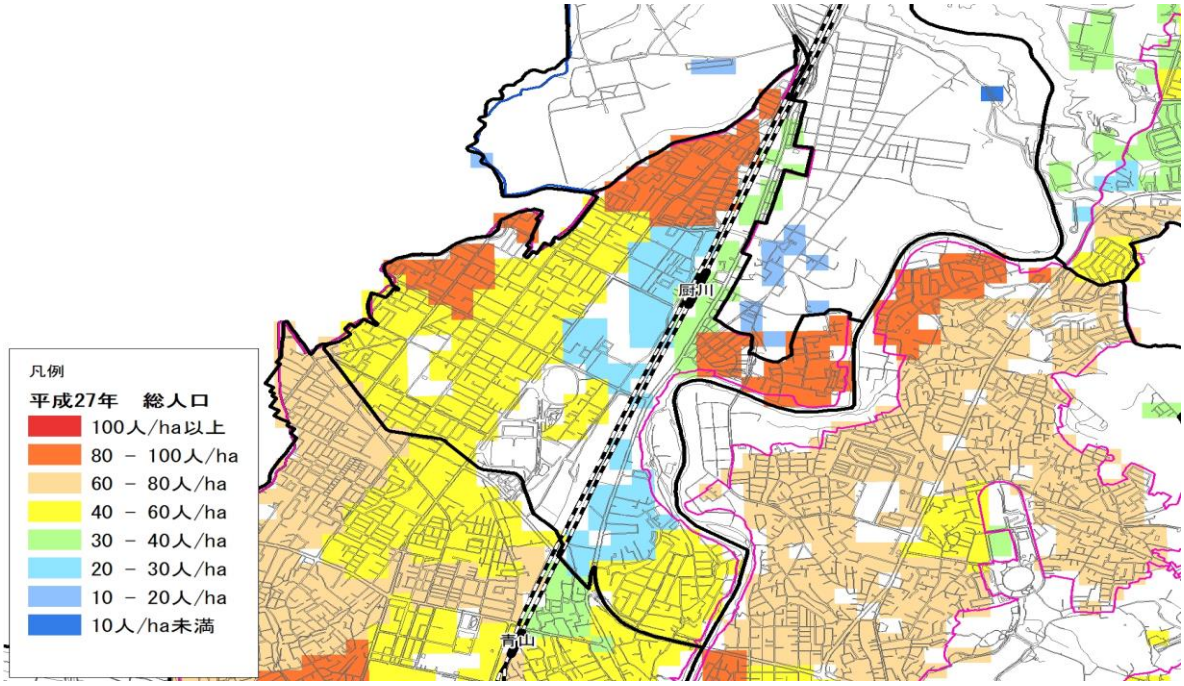


iii）人口の分布状況

地域内に 80 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられますが、将来的には、多くのエリアにおいて人口減少が見込まれます。

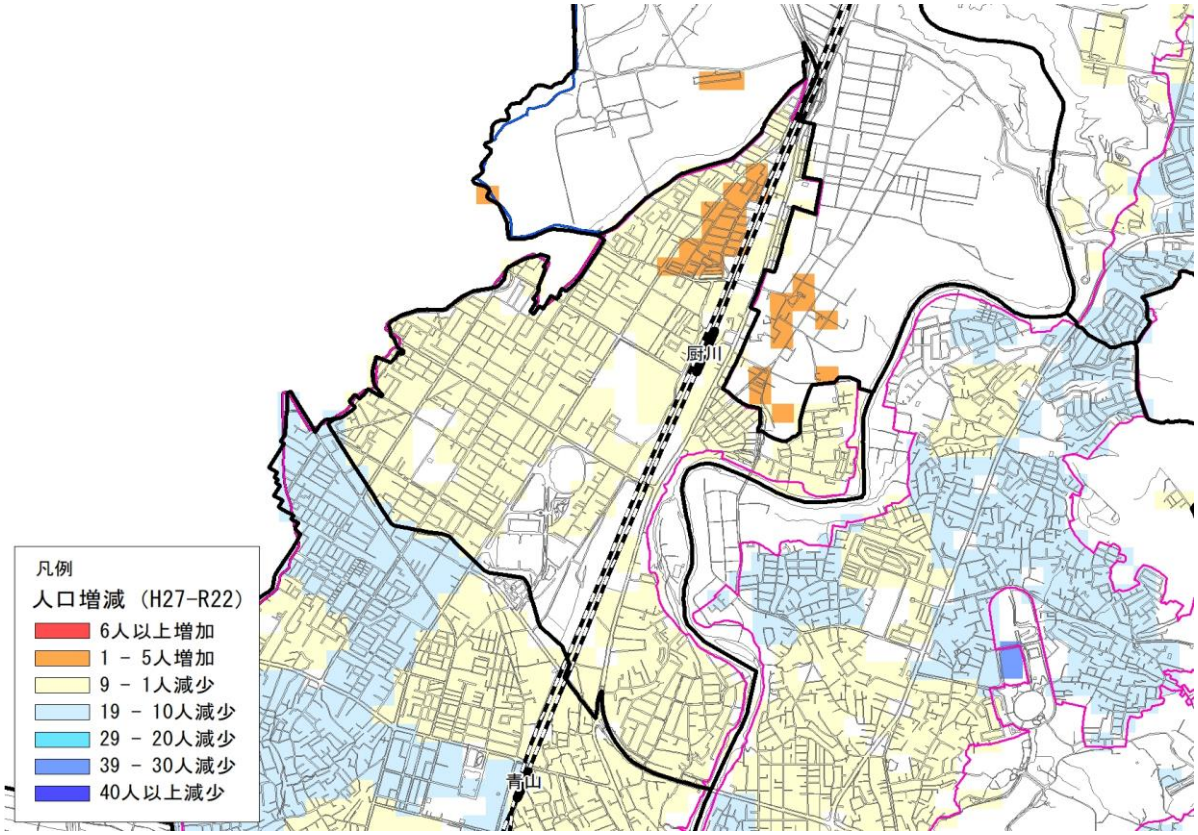
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲はありません。

100mメッシュ総人口分布図　資料：平成 27 年国勢調査結果

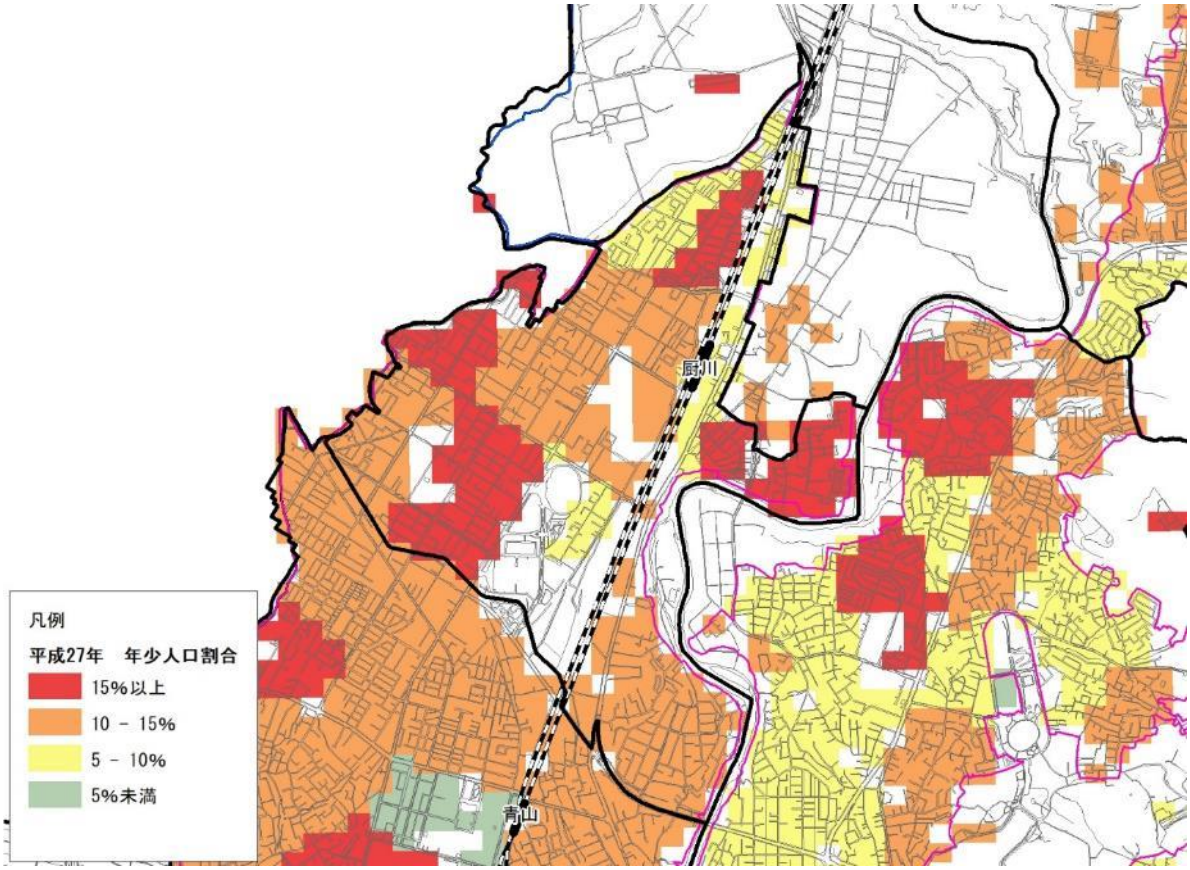


人口増減予測図（平成 27 年～令和 22 年）

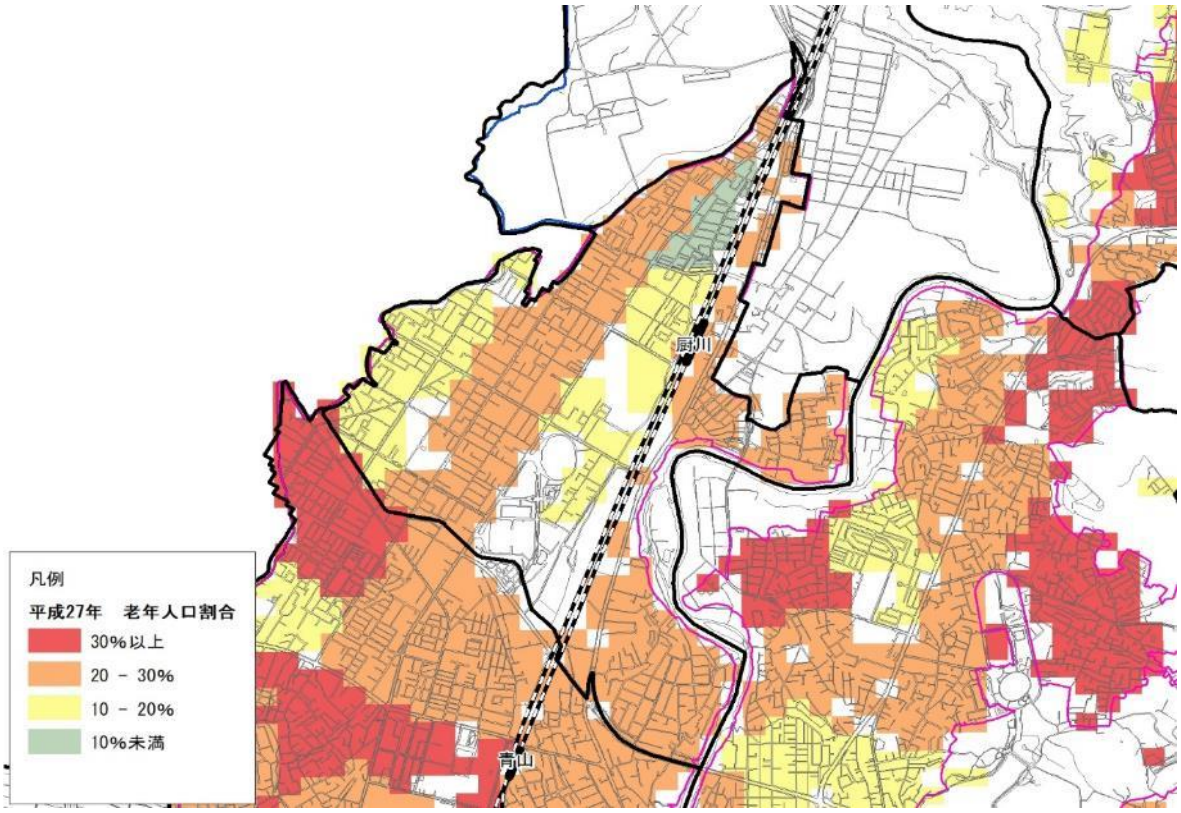
資料：平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



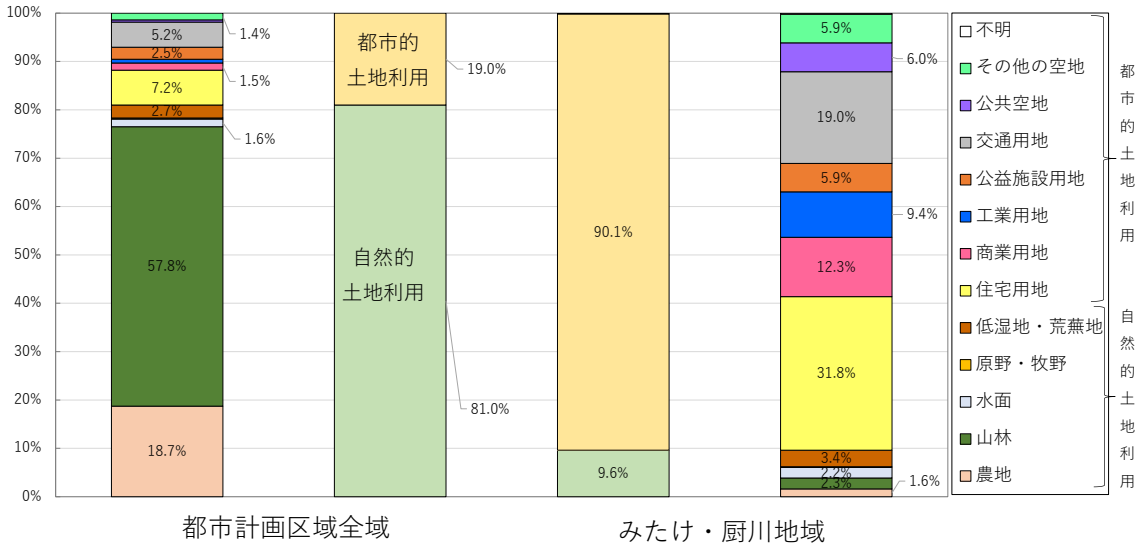
ⅳ）土地利用の状況

みたけ・厨川地域の土地利用は、約 90%が都市的土地利用であり、都市化が進んだ地域となっています。

都市的土地利用の中では、住宅用地が最も多く、次いで、交通施設用地、商業用地、工業用地が多くなっています。

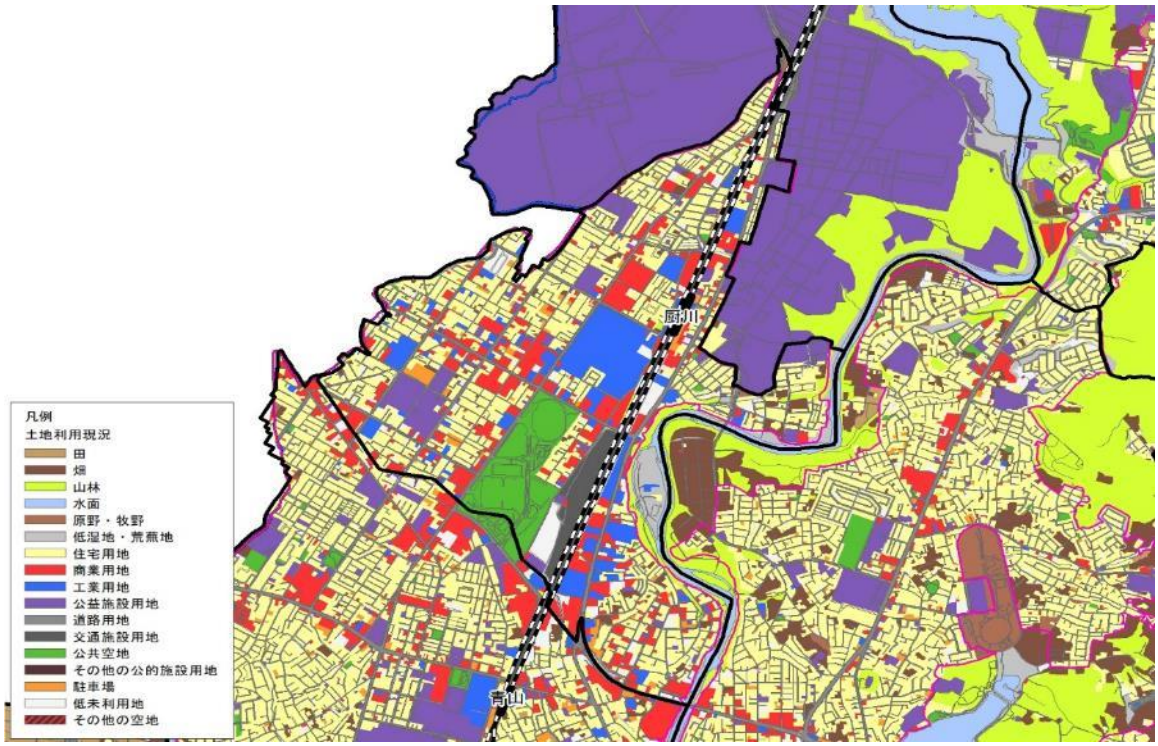
また、県営運動公園の立地により公共空地も多くなっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



（地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。）

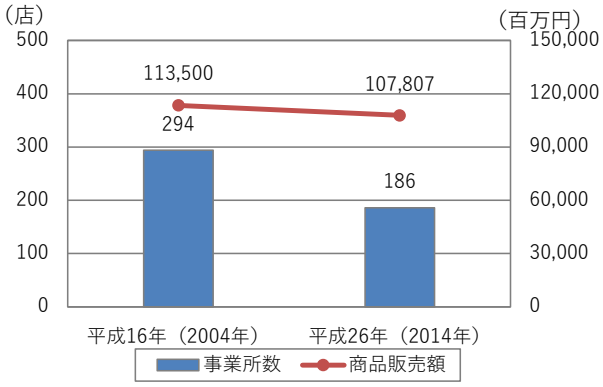
土地利用現況図　資料:平成 27 年都市計画基礎調査

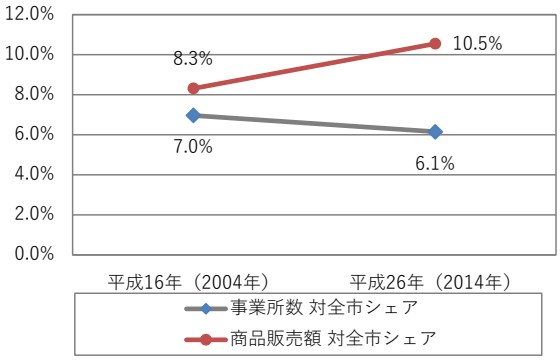


v）商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは約６％、商品販売額の対全市シェアは約 11%となっています。



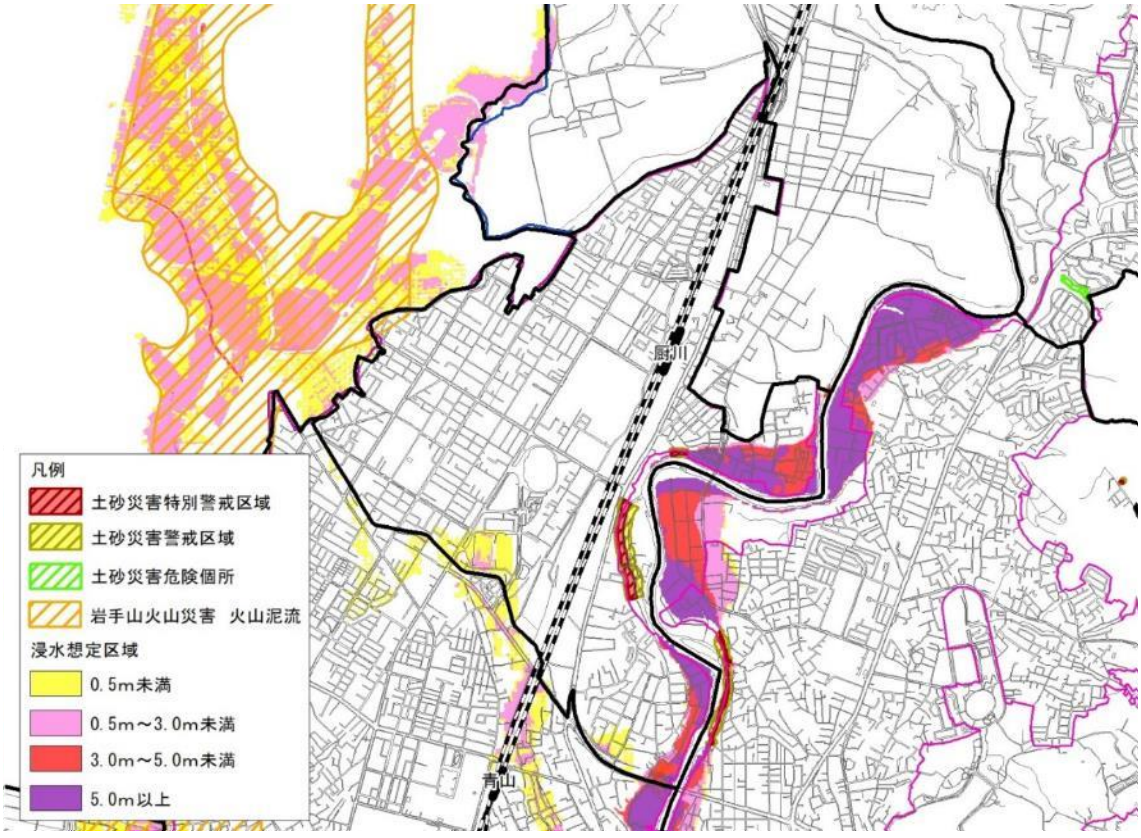


vi）災害リスクの分布状況

地域を流れる北上川及び木賊川沿いに洪水浸水想定区域が広く分布しており、浸水深が 5.0m以上の範囲もあります。

また、北上川沿いに土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が分布しているほか、諸葛川沿いに火山泥流が流れ下る危険性のある範囲が分布しています。

洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料：国土交通省、岩手県



②市民意見

ｉ)地域の良いところ

平成 15 年度に策定した地域別構想（みたけ・厨川地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

１班（みたけ）
- ○緑が多く，通りの並木が美しい
- ○大型スーパーがあり利便性が高い
- ○区画整備され，わかりやすい
- ○スポーツ施設が充実している

２班（みたけ）
- ○緑を風景に残したい
- ○新興地域としてのパワーを感じる
- ○買物等，生活に便利
- ○地域活動が盛んである

３班（みたけ，厨川）
- ○学術研究所の緑が多い
- ○整備された街並みと，緑道
- ○町内活動や，人柄が良い
- ○商工住の混在

４班（みたけ，厨川）
- ○岩手山が美しく見える
- ○町内活動が盛んで住みやすい
- ○市中心部への交通が便利
- ○道路や公園が整備されている

５班（厨川）
- ○ダムと農試を中心とした自然
- ○学校が多くあり通学に便利
- ○古くからのつきあいが残り，人柄も良い
- ○バスと鉄道があり交通の便がよい

６班（厨川）
- ○パチンコ，娯楽場がなくて良い
- ○岩手山や北上川の風景
- ○学校が地域に貢献している
- ○町内会で夜回りが行われ安心

自然
- 自然が多く，美しい風景
  - 国有地の雄大な緑
    - ●東北農業試験センター
    - ●岩手牧場
    - ●森林総合研究所
  - 街中に整備された緑
    - ●運動公園
    - ●みたけ緑道
    - ●新興地域として整備された緑
  - 美しい景色
    - ●岩手山の眺望
    - ●北上川，木賊川の流れ
    - ●四十四田ダムの桜

人
- 身近なスポーツ施設
  - ●運動公園
  - ●武道館
  - ●スケート場
  - 運動
- 人の環，心の環
  - 町内会活動の充実
    - ●夜回り
    - ●４号線に花
    - ●町内清掃
  - コミュニティ活動
    - ●小学生のあいさつ運動
    - ●盛附野球部のゴミ拾い
    - ●ふれあい事業
    - ●老人交流

生活
- 生活の便利さ
  - 交通の便
    - ●区画整理された広い道路
    - ●南側はバスの便がよい
    - ●厨川駅がある
    - ●市内への交通の便がよい
  - 買物に便利
    - ●大型店で買物が便利
    - ●小さい店も残っている
  - 教育，環境
    - ●すべての種類の学校がある
    - ●学校が近い
    - ●子供達が多い
    - ●比較的環境がよい
    - ●有害図書を撤去した

身近な美しい自然と岩手山の景観
生活利便性と活発な地域活動

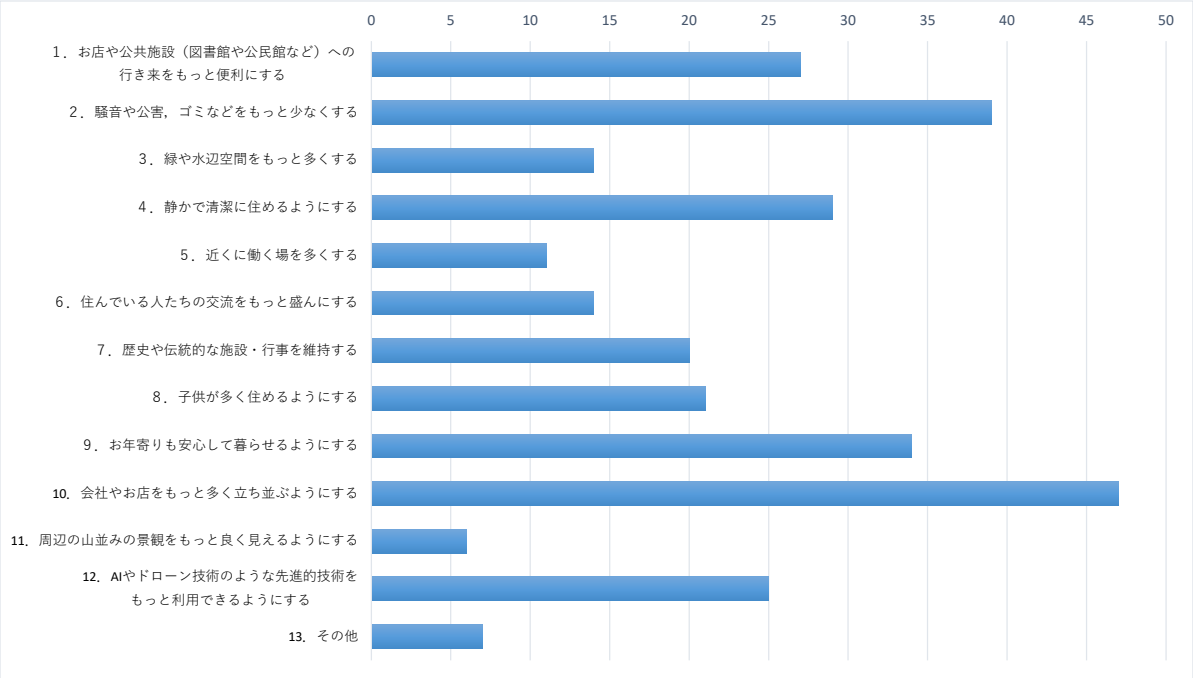
ii)地域の課題

平成 15 年度に策定した地域別構想（みたけ・厨川地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。

iii）中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（みたけ・厨川地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代であるみたけ・厨川地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（みたけ・厨川地域の 109 人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「騒音やゴミなどをもっと少なくする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」、「静かで清潔に住めるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、防犯に関する意見（街灯の増設など）、道路整備に関する意見（道路の拡幅など）、環境保全等に関する意見（騒音、ゴミなど）が多くありました。

ⅳ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(1回目:資源・課題)

今回の地域別構想（みたけ・厨川地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、みたけ・厨川地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔23 町内会・自治会のうち 16 団体（70%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●運動公園、武道館などスポーツ施設を有し、緑も多く岩手山も美しく見えるすばらしい環境の地域である。さらにこの 10 年で商業施設（ショッピングモール）も整備され、より住みやすいまちになっていると思う。
●緑道など歩道が比較的整備されている。
●ＩＧＲ厨川駅、国道４号には岩手県交通、岩手県北バスのバス停留所があり、交通の便はよい。欲を言えば、鉄道とバスの乗り継ぎ時間が合うとより利用しやすくなると思う。

【課題】

●交通が不便（バス）。
●少子化・高齢化や生活様式の多様化などにより、各種行事の実施が難しくなっている。
●自然災害、特に北上川の洪水による護岸の崩れが心配である。

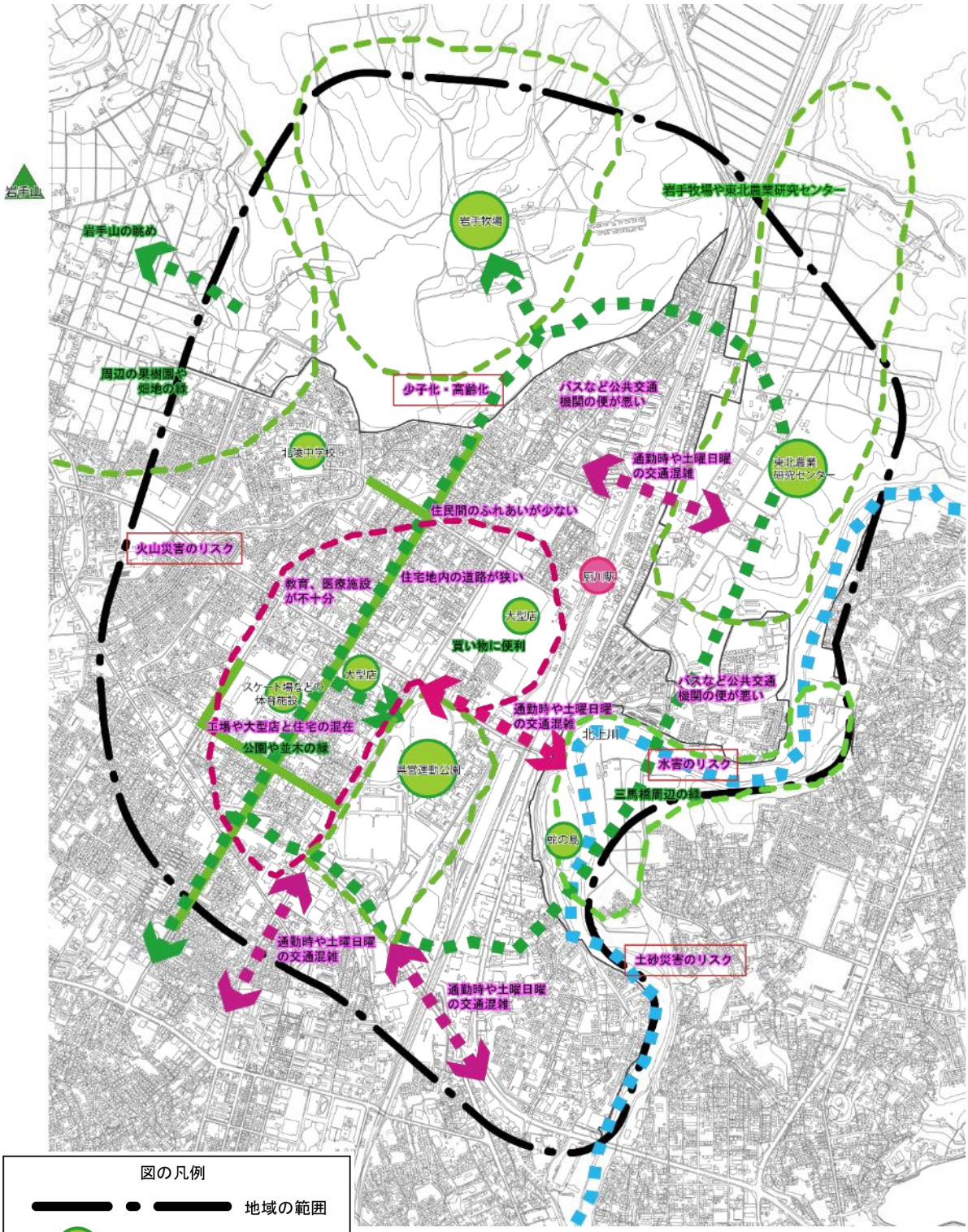
ⅴ)町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見(2回目:まちづくりの方向性と基本方針)

今回の地域別構想（みたけ・厨川地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、みたけ・厨川地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔23 町内会・自治会のうち 11 団体（48%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

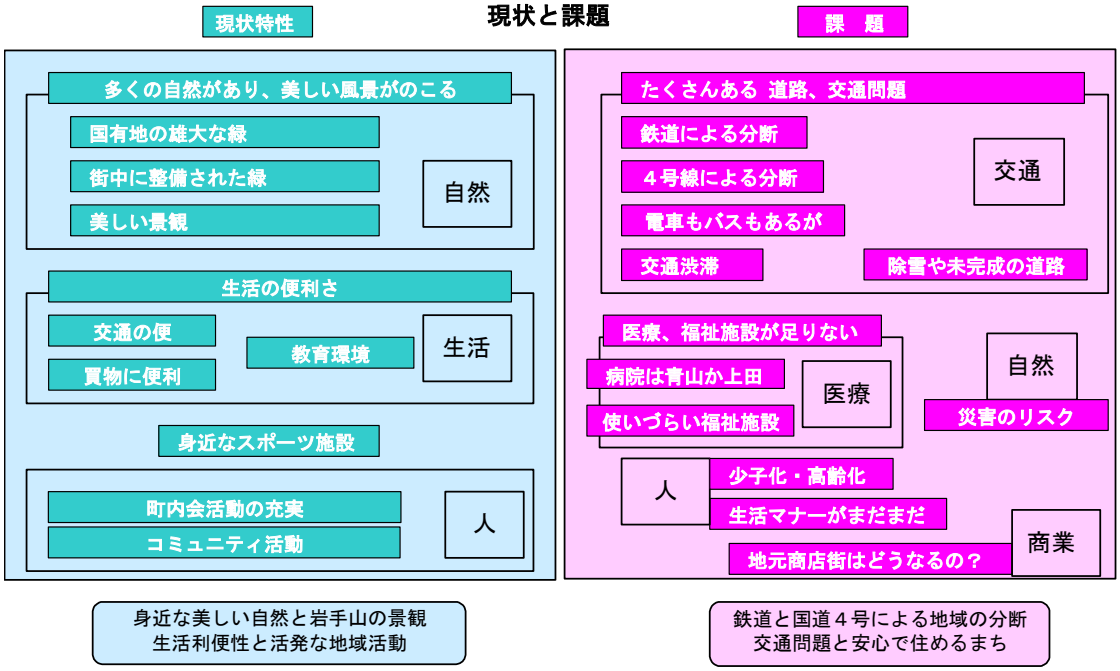
●緑豊かな美しい景観を守り、次世代に残すよう本気で取り組んでほしい。
●大型商業施設の立地により生活の利便性は向上しているが、一方、交通渋滞など地域の安全面での懸念が増加している。安全・安心が確保できる環境整備が必要である。
●まちづくりの目標は、現状はこのままで良いと思うが 10 年後、20 年後のまちづくりを考えて行動すべき。

地域の資源･課題マップ


岩手山
岩手山の眺め
岩手牧場
岩手牧場や東北農業研究センター
周辺の果樹園や畑地の緑
少子化・高齢化
バスなど公共交通機関の便が悪い
北陵中学校
通勤時や土曜日曜の交通混雑
東北農業研究センター
住民間のふれあいが少ない
火山災害のリスク
教育、医療施設が不十分
住宅地内の道路が狭い
厨川駅
大型店
買い物に便利
大型店
スケート場などの体育施設
工場や大型店と住宅の混在
公園や並木の緑
通勤時や土曜日曜の交通混雑
バスなど公共交通機関の便が悪い
北上川
水害のリスク
県営運動公園
三馬橋周辺の緑
蛇の鼻
通勤時や土曜日曜の交通混雑
土砂災害のリスク
通勤時や土曜日曜の交通混雑
図の凡例
地域の範囲
地域の資源　場所を特定できるもの
地域の資源　場所を特定できないもの
地域の課題　場所を特定できるもの
地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成15年度に策定した地域別構想（みたけ・厨川地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



全体まとめ
「自然、緑に恵まれた環境と景観の保全、活用、
協力、交流による輪・環・和・話づくり」

まちづくりの方向性

☆　駅とバスのさらなる活用 ・厨川駅へのアクセス性の向上 ・電車とバスの乗り継ぎ利便性の向上	便利な交通
☆　地域の交流・隣接機関との相互理解の促進 ・鉄道・道路による地域の分断を人の和での解決 ・みたけ・厨川の地域一体化での町内活動の活発化 ・地域と農業試験場・農業研究所との相互理解による、交流促進 ・地域活動拠点の整備、充実と既存施設の活用検討	地区の連携
☆　安心して暮らすことができる環境整備 ・高齢者福祉施設の充実と高齢者ケア施設の整備促進 ・地区への救急車の配置及び医療機関の充実 ・周囲の豊かな自然、運動公園、緑道などの緑の保全 ・木賊川の河川改修と親水性の高い憩いの場を整備 ☆　自然災害に対応したまちづくり ・災害リスクについての情報共有 ・地域住民の防災意識の向上 ・ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減	安心な環境
☆　みんなで守る地域の景観と残された緑 ・岩手山の景観を守る高さの規制 ・次の世代に引き継ぐ、地域を取巻く国有地の緑の資源	景観･緑を未来に
☆　みんなで考える地域の活性化 ・厨川地域の商店街の再生 ・みたけ地域の商・工・住のバランス ・少子化・高齢化への対応	地域の活性化

守ろう緑と景観、交流・協力・活用の輪でつくるまちづくり

(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『守ろう緑と景観、交流・協力・活用の輪でつくるまちづくり』

②基本方針

ⅰ)豊かな自然とみんなで守る景観、安心･安全なまちづくり

厨川地域の北側には農林業関係の研究機関施設が広がり、豊かな自然が地域を取り囲むように残され、また、みたけ地域内には運動公園や緑道の整備による緑の空間があり、それらの内外の緑は、地域住民の憩いの場となっています。地域を取り囲む緑は、今後とも、関係者と連携しながら保全を図ります。また、雄大な岩手山の景観は、地域のシンボルとなっており、この景観を次の世代に守り残していくための取組を推進します。

誰もが安心して暮らせるよう、住民相互の助け合いの活動を広げるとともに、老人福祉施設や医療体制の充実を図ります。

防災面では、地域を流れる北上川及び木賊川沿いに、洪水浸水想定区域などに含まれるエリアが多くあります、さらに、北上川沿いには、土砂災害警戒区域に含まれているエリアが、諸葛川沿いには、岩手山の火山噴火による火山泥流が想定されるエリアがあります。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

ⅱ)商･工･住のバランスのとれたまちづくりと交通ネットワークの形成

みたけ・厨川地域は、国道４号の沿道として発展した厨川地域と、工場等の企業誘致を行ってきたみたけ地域からなります。みたけの工業地域は、住居への土地利用の転換や商業施設の立地が進んでおり、活発な産業活動と快適な住民生活が共存できるよう、地域の中での話し合いをもとに、バランスのとれたまちづくりを推進します。

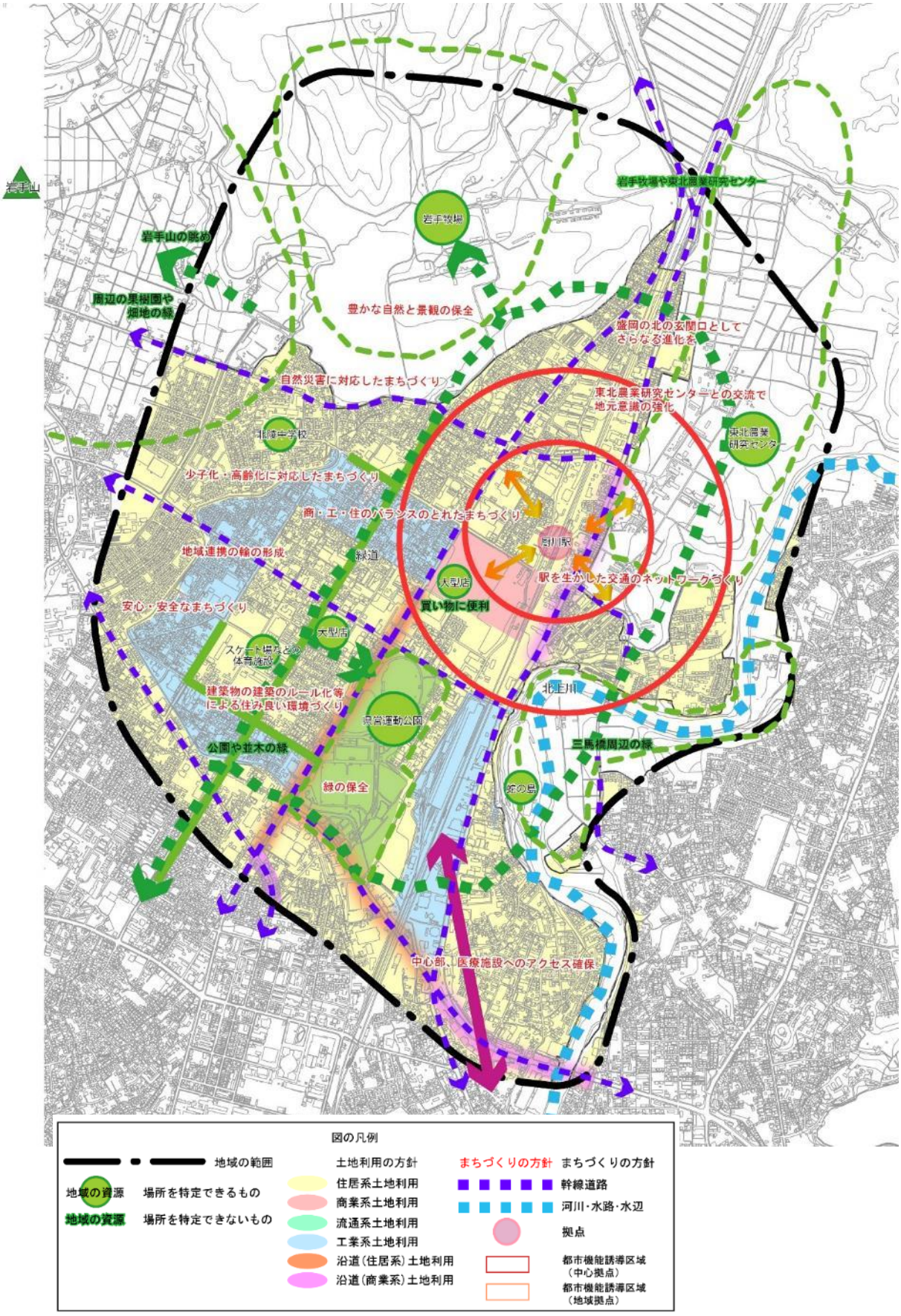
道路は、地域周辺の幹線道路へのアクセス性を高めるため、計画的な整備を進めます。公共交通は、ＩＧＲ厨川駅からの鉄道利用促進のため、東西の連絡と西側からのアクセス性を高めるとともに、電車とバスの乗り継ぎ利便性の向上など、地域内の交通ネットワークの形成を図ります。

ⅲ)地域の交流･協力でつくる地域連携の輪の形成

みたけ・厨川地域が抱える様々な課題を解決していくためには、課題を地域全体のものとして捉え、みんなで協力し取り組む人の輪が必要です。

既存施設の活用や機能の充実による、地域活動の拠点整備を進めながら、地域活動の活性化や、より多くの人々の参加を促進し、地域連携の輪を形成します。

まちづくりの方針マップ



８)仙北地域

仙北地域の平成 15 年度の地域別構想策定において整理した内容を基本とし、今回、新たに、地域の最新のデータによる現状把握や町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングなどを行い、その結果を踏まえて、地域別構想を見直しました。

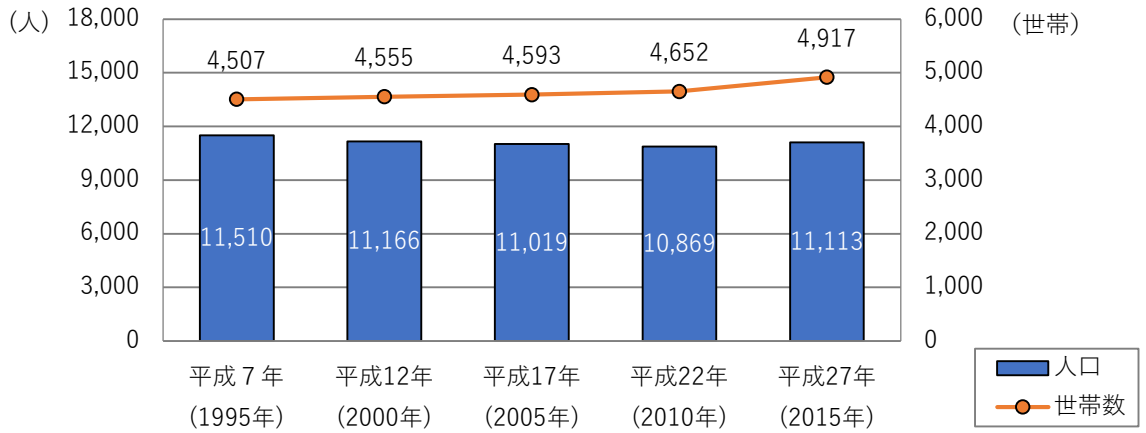
(1)地域の現況

①地域データ

ⅰ)人口･世帯数

仙北地域の人口は概ね横ばい傾向、世帯数は増加傾向にあります。

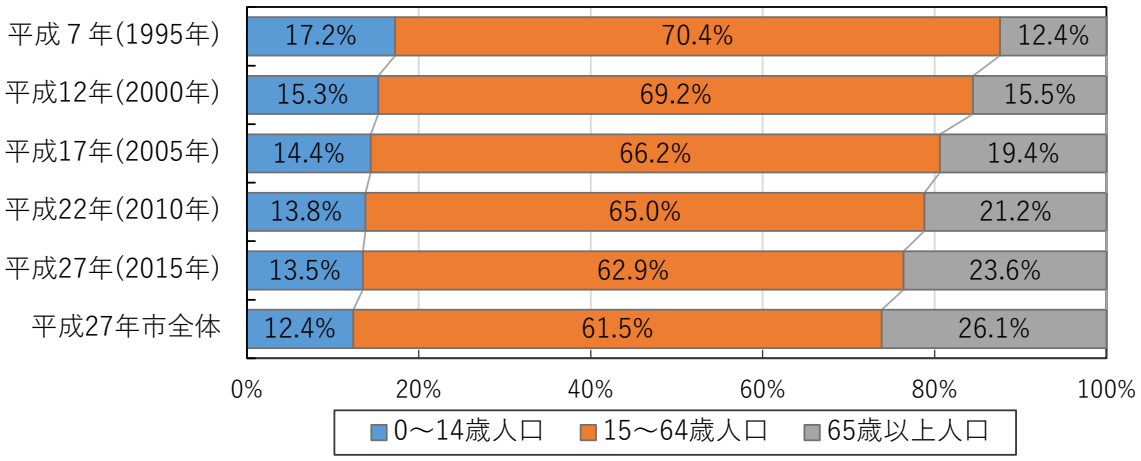
人口･世帯数の推移　資料:国勢調査



ⅱ)年齢階層別人口割合

仙北地域は、高齢化の傾向にありますが、年齢構成は、市全体に比べて若干若い構成となっています。
また、0～14 歳人口の割合が高い地域となっています。

年齢階層の推移　資料:国勢調査

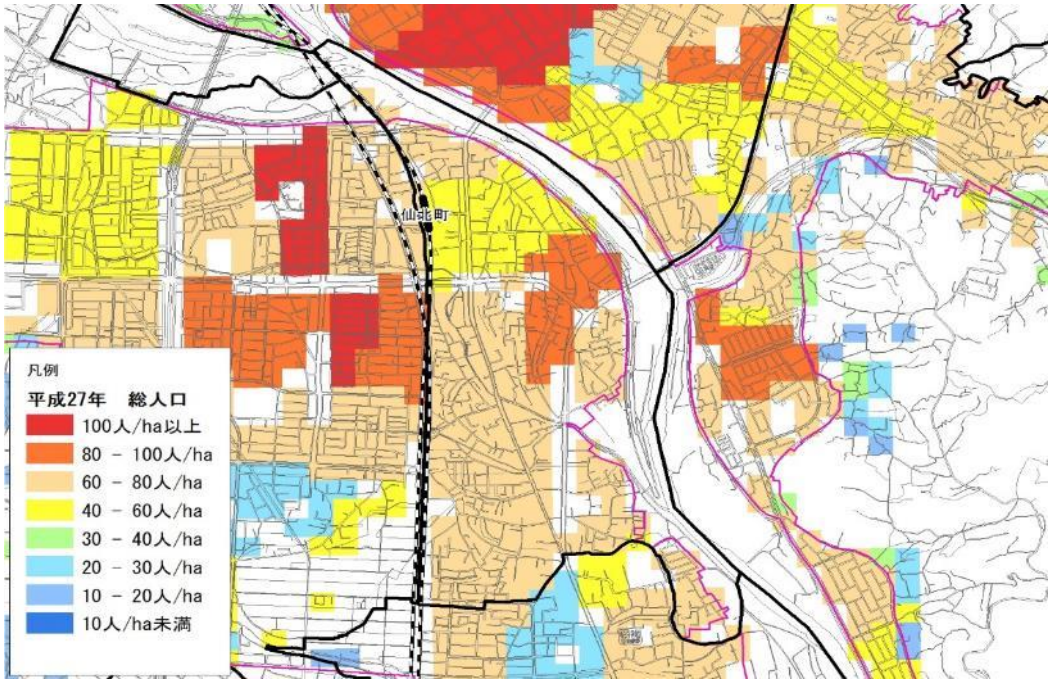


iii)人口の分布状況

80 人/ha 以上の人口が集積しているエリアがみられますが、将来的には、多くのエリアにおいて人口の減少が見込まれます。

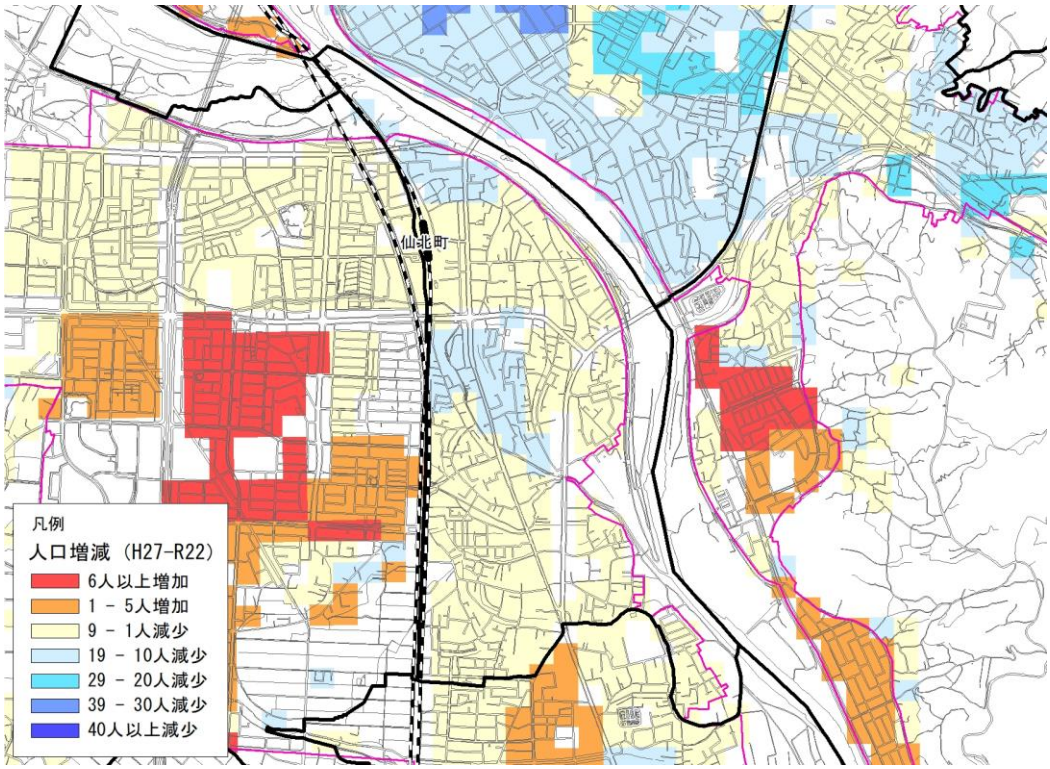
65 歳以上人口割合が 30%以上の範囲はありません。

100mメッシュ総人口分布図　資料:平成 27 年国勢調査結果

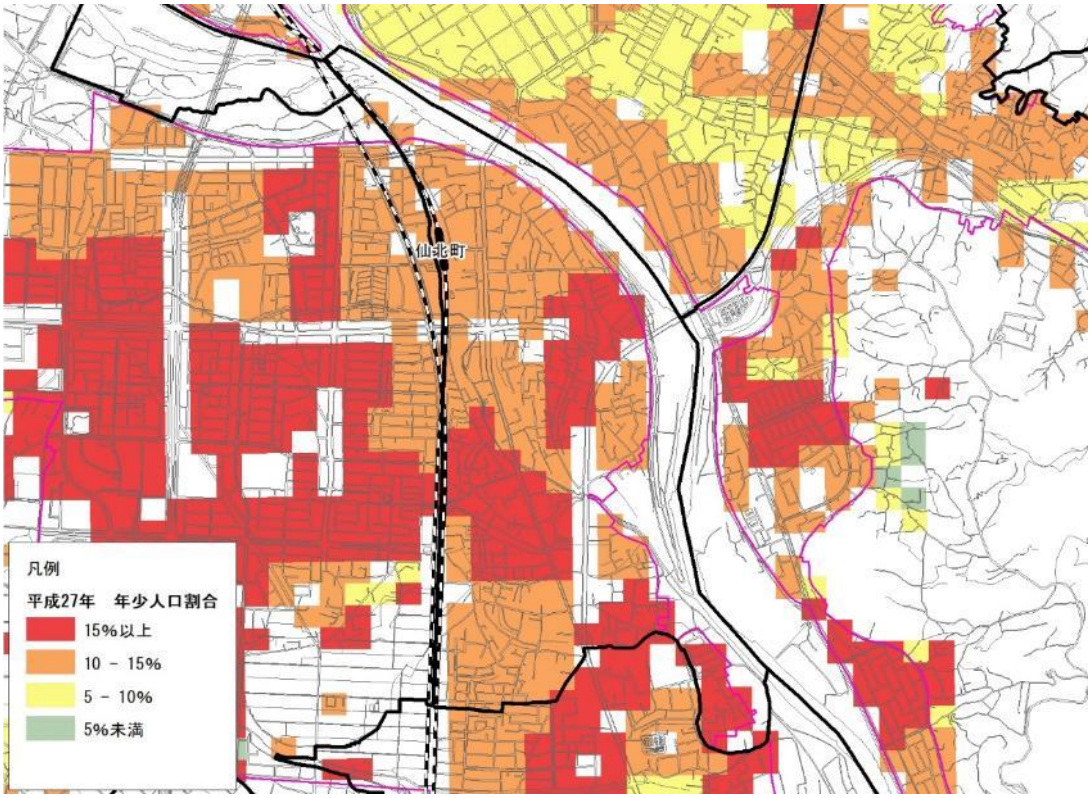


人口増減予測図(平成 27 年～令和 22 年)

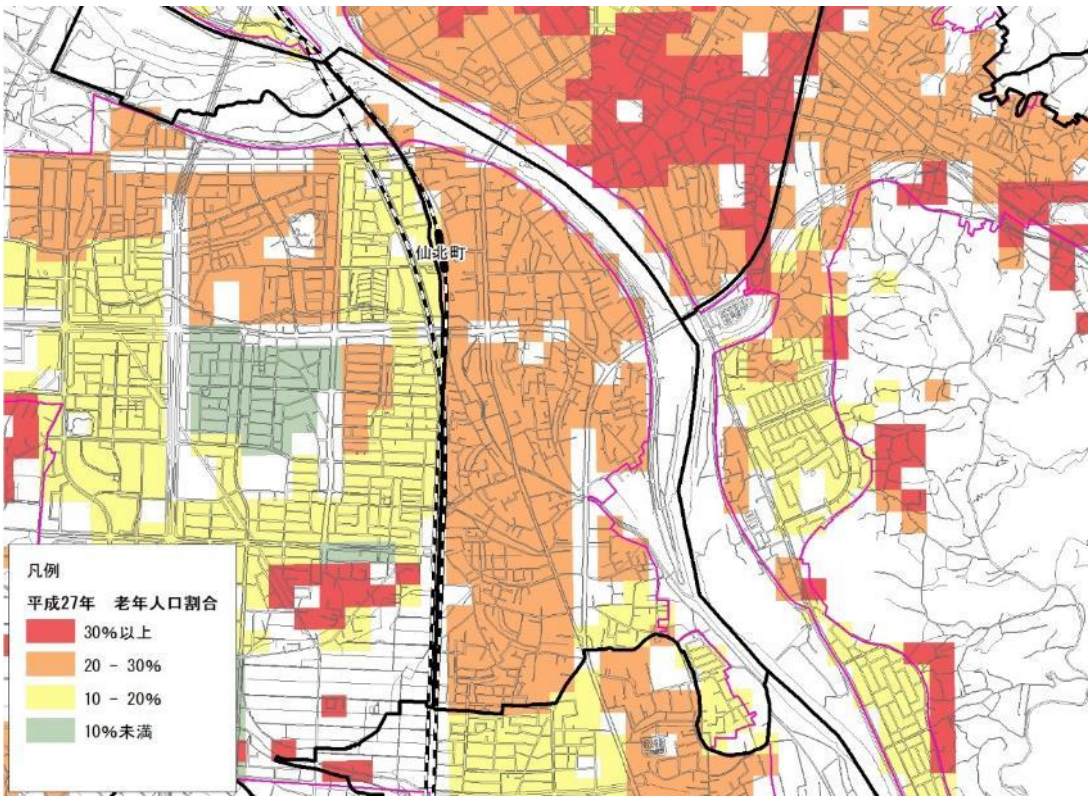
資料:平成 27 年国勢調査結果、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」より作成



100mメッシュ 0～14 歳人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



100mメッシュ 65 歳以上人口比率図　資料:平成 27 年国勢調査結果



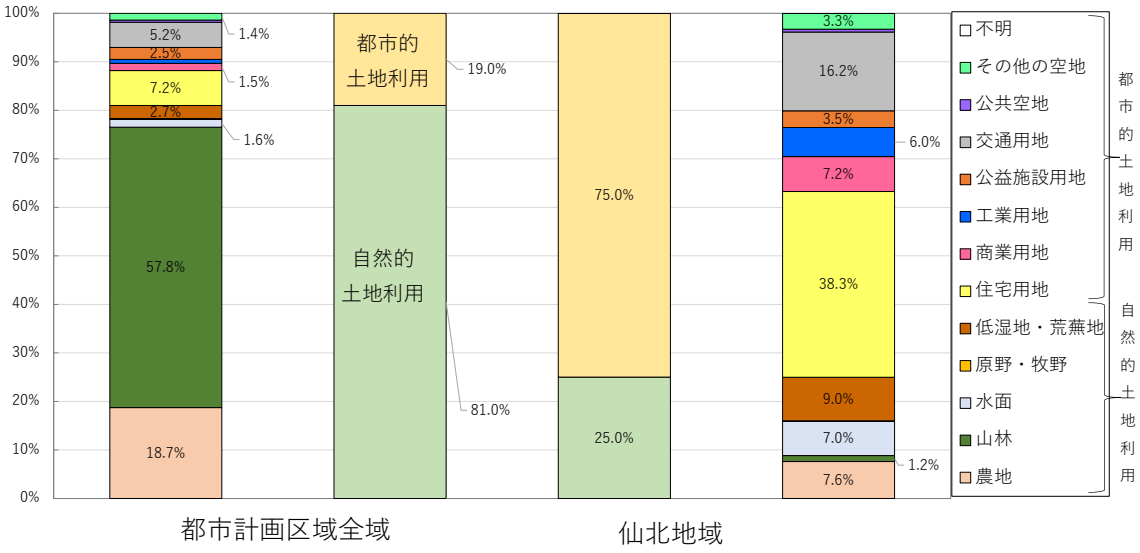
iv)土地利用の状況

仙北地域の土地利用は、約 75%が都市的土地利用であり、都市化が進んだ地域となっています。

都市的土地利用の中では、住宅用地が最も多く、次いで、交通施設用地、商業用地、工業用地が多くなっています。

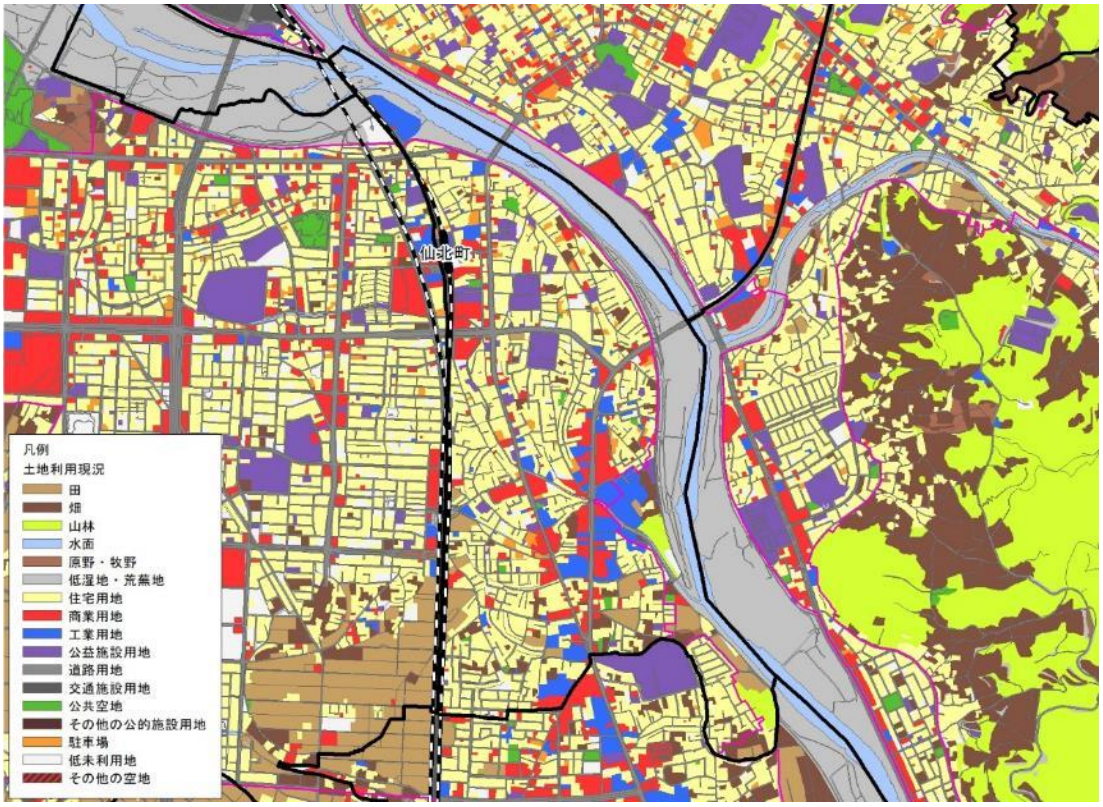
自然的土地利用については、水面、低湿地・荒蕪地のほかは、概ね農地となっています。

地域の土地利用構成と全地域との比較　資料:平成 27 年都市計画基礎調査



（地域の土地利用の割合が 1%未満のものは、表記を割愛しました。）

土地利用現況図　資料:平成 27 年都市計画基礎調査

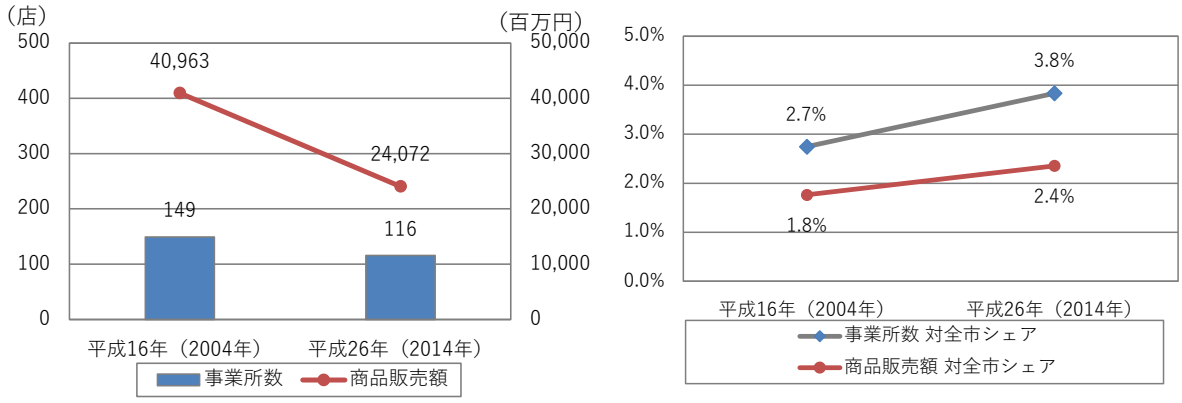


v）商業の状況

地域内の事業所数、商品販売額とも減少傾向にあります。

平成 26 年の地域内の事業所数の対全市シェアは約４％、商品販売額の対全市シェアは約２％となっています。

産業関連指標と対全市シェア　資料：商業統計

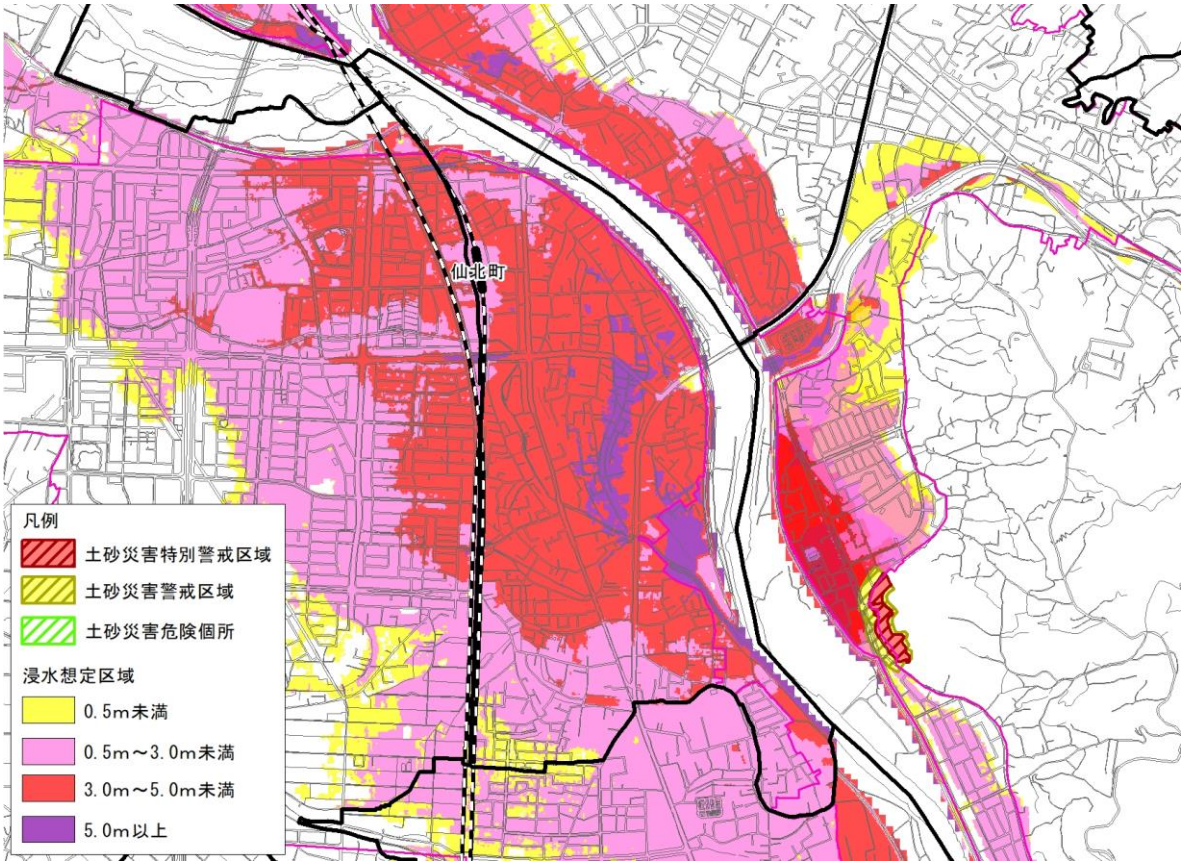


vi）災害リスクの分布状況

地域のほぼ全域が洪水浸水想定区域となっており、地域の大半が浸水深 3.0ｍ～5.0ｍ未満の範囲となっています。さらに一部には、浸水深が5.0ｍ以上の範囲が分布しています。

なお、土砂災害警戒区域等は分布していません。

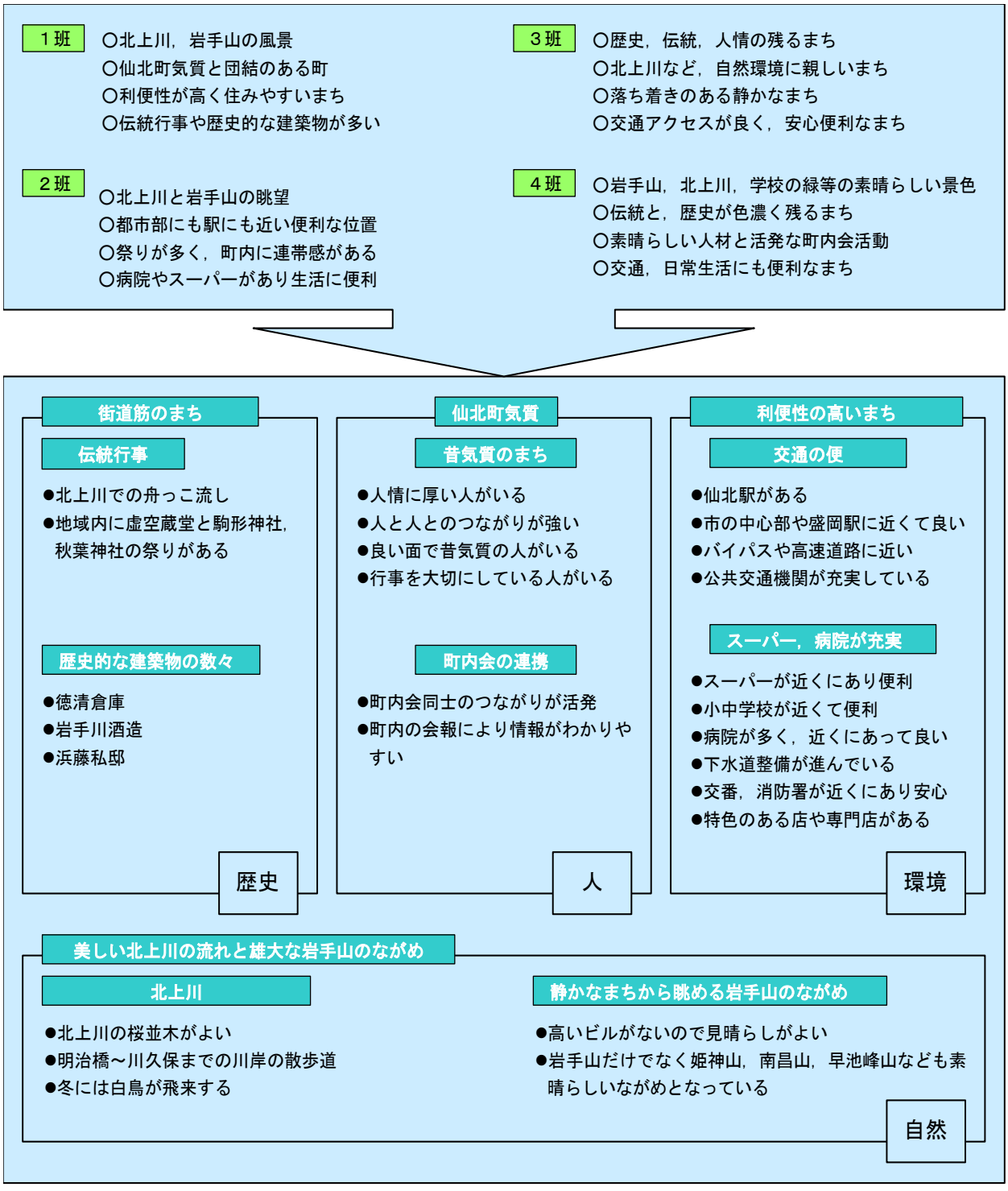
洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等災害リスク図　資料：国土交通省、岩手県



②市民意見

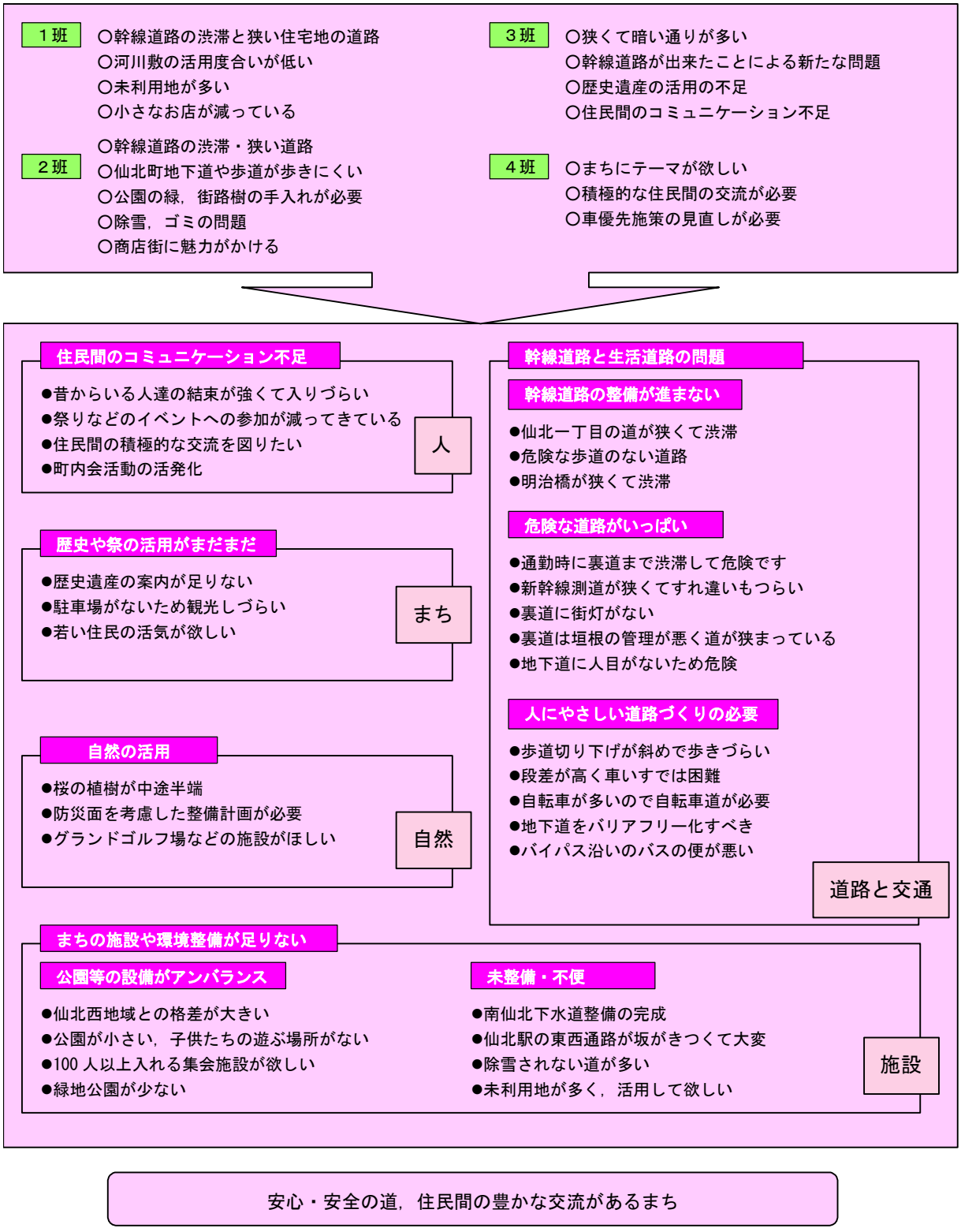
ｉ)地域の良いところ

平成 15 年度に策定した地域別構想（仙北地域）における、「地域の良いところ」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



ii)地域の課題

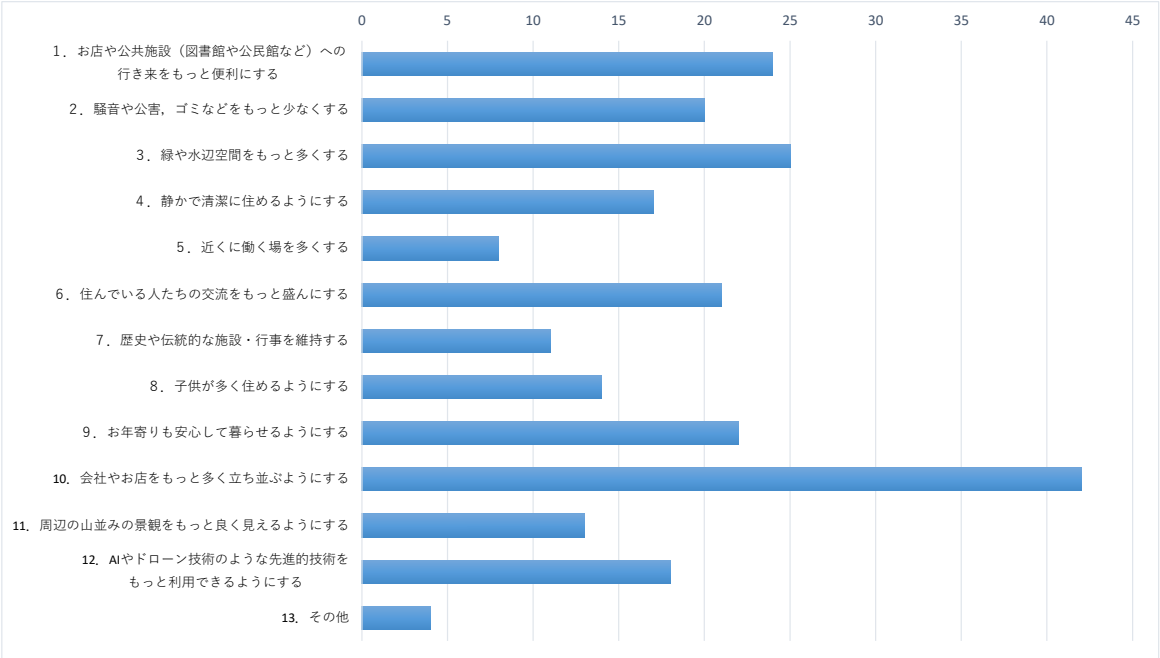
平成 15 年度に策定した地域別構想（仙北地域）における「地域の課題」に関するアンケート調査及びワークショップの結果のまとめは、次のとおりとなっています。



iii）中学生アンケートにおける意見

今回の地域別構想（仙北地域）の見直しにあたり、約 20 年後のまちづくりを担う世代である仙北地域の市立中学校２学年の生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

地域を良くするために優先すべき事項を選択する設問での回答の結果は下記のとおりです。



（仙北地域の 91 人による複数回答を集計）

「会社やお店を増やす」、「緑や水辺空間をもっと多くする」、「お店や公共施設との行き来をもっと便利にする」、「お年寄りも安心して暮らせるようにする」という意見が多くありました。また、地域を良くする方法や必要な施設を自由記載する設問での回答では、商業施設の出店に関する意見（新たな商業施設の立地など）、公園整備に関する意見（新たな公園の整備など）、地域内の交流に関する意見（子どもと高齢者の交流など）が多くありました。

ⅳ）町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見（1回目：資源・課題）

今回の地域別構想（仙北地域）の見直しにあたり、地域の資源と課題について、仙北地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔12 町内会・自治会のうち５団体（42%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

【資源】

●岩手山を遠景にして流れる北上川との景観は自然の豊かさを感じる。
●歴史や伝統のあるまち。
●明治橋袂の桜並木がきれい。
●舟っこ流しや仙北地区運動会が個々の町内会の枠を越えて実施され、地域のまとまりに一役買っているので大事にしたい。

【課題】

●狭い道路が多い。
●仙北地区は北上川が流れているが近年は 100 年に一度の大雨が各地で記録されており水害が心配である。
●町内会役員のなり手が少ない。高齢化が進んでいる。
●バスの利便が悪い。

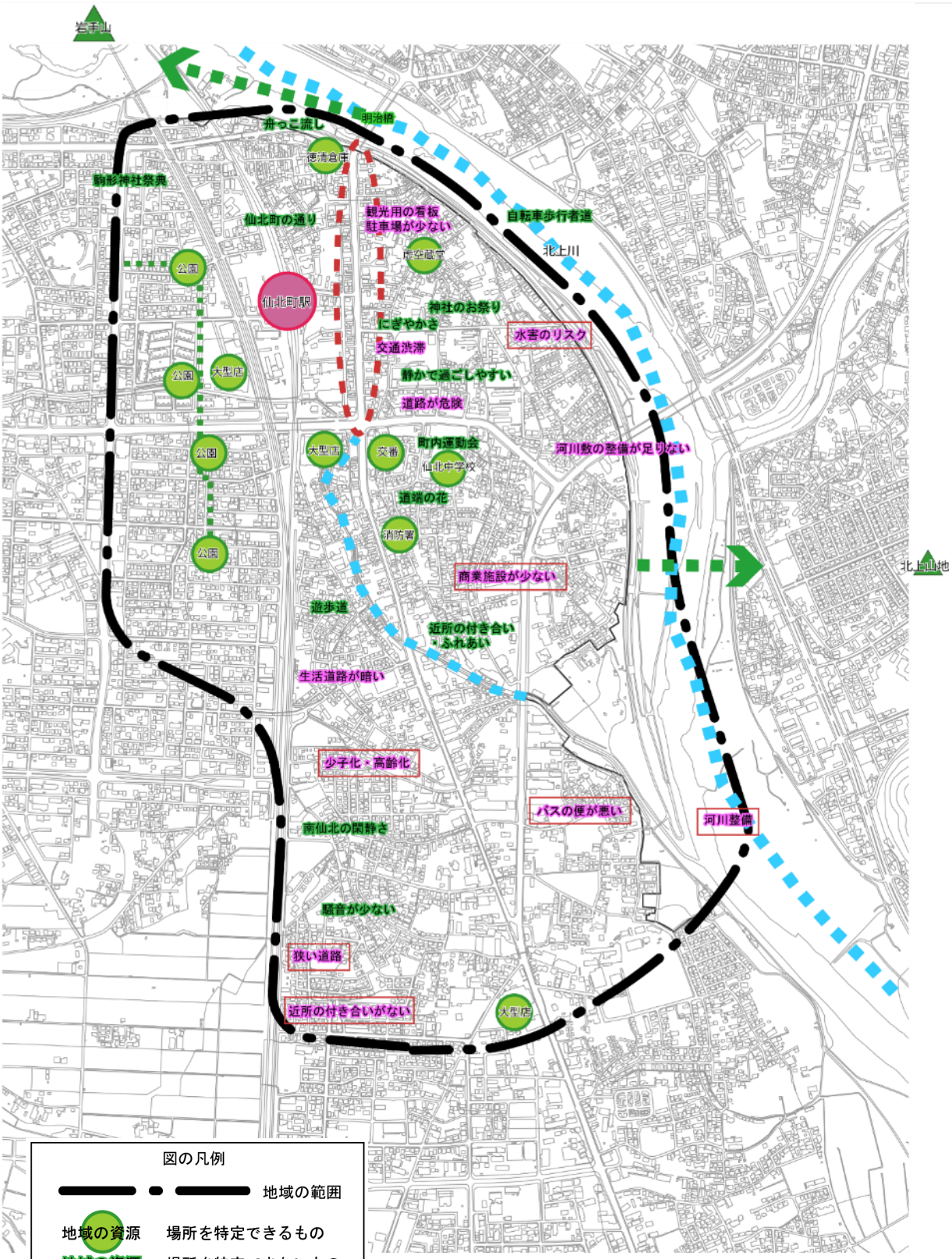
ⅴ）町内会・自治会等を対象とした書面ヒアリングにおける意見（2回目：まちづくりの方向性と基本方針）

今回の地域別構想（仙北地域）の見直しにあたり、まちづくりの方向性と基本方針について、仙北地域の町内会・自治会等を対象とした書面によるヒアリングを実施しました。〔12 町内会・自治会のうち 7 団体（58%）から回答〕

主な意見は次のとおりです。

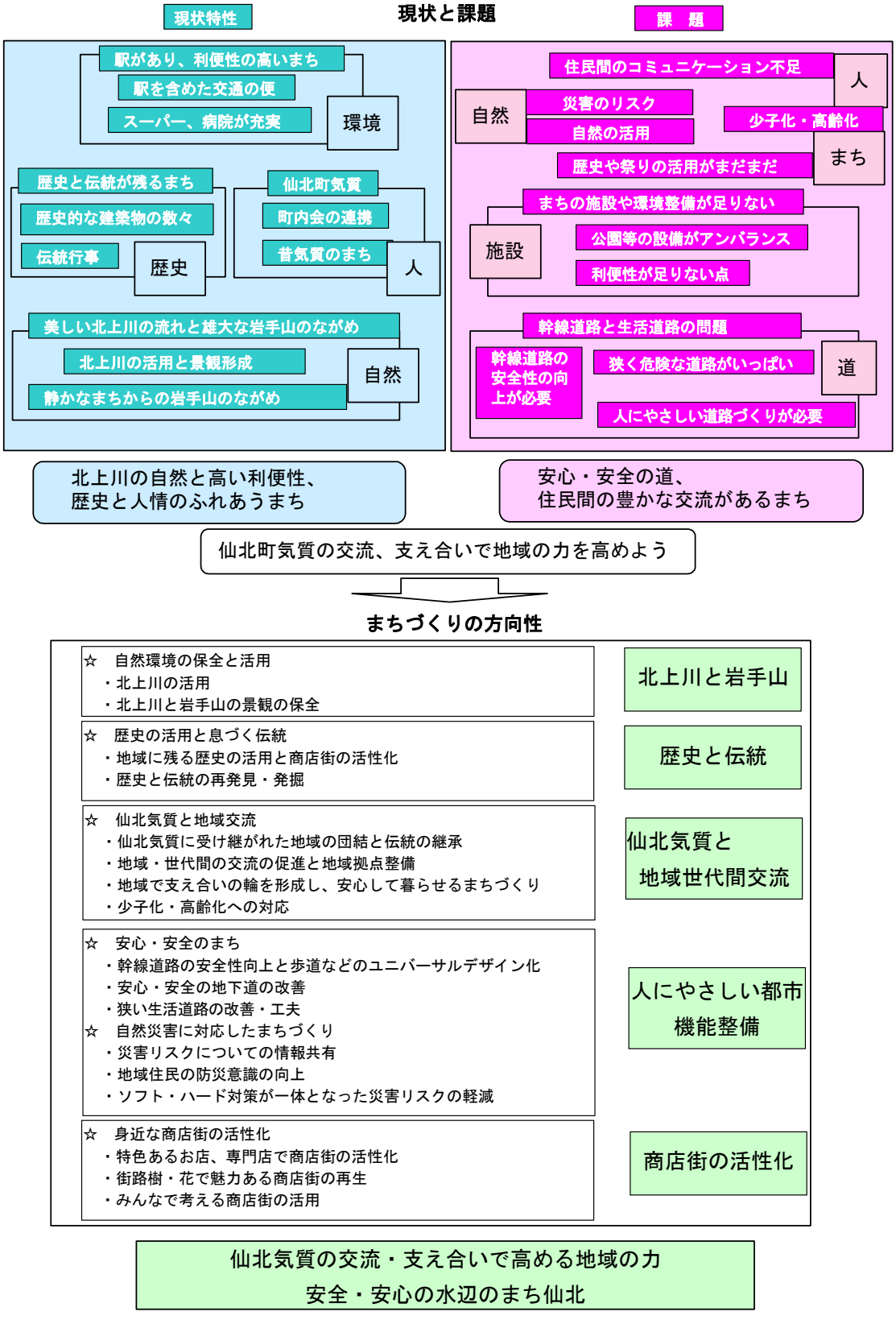
●高齢化が進み認知症の方も増えている。ユニバーサルデザイン化、交通の利便性向上、買い物等高齢者にやさしいまち、ひとにやさしいまち。
●北上川の桜並木、遊歩道、河川公園等の充実を図りながら同時に洪水浸水想定区域であることを知ってもらうことも必要である。
●商店街の活性化が必要である。
●仙北町駅の利便性向上と駅周辺の活性化。
●洪水浸水想定区域であることから、その対策について触れる必要がある。

地域の資源・課題マップ


岩手山
舟っこ流し
明治橋
便清倉庫
駒形神社祭典
仙北町の通り
観光用の看板
駐車場が少ない
自転車歩行者道
北上川
公園
仙北町駅
虚空蔵堂
神社のお祭り
にぎやかさ
水害のリスク
交通渋滞
大型店
静かで過ごしやすい
道路が危険
公園
大型店
交番
町内運動会
仙北中学校
河川敷の整備が足りない
道端の花
公園
消防署
商業施設が少ない
北上山地
遊歩道
近所の付き合い
・ふれあい
生活道路が暗い
少子化・高齢化
バスの便が悪い
河川整備
南仙北の閑静さ
騒音が少ない
狭い道路
近所の付き合いがない
大型店
図の凡例
地域の範囲
地域の資源　場所を特定できるもの
地域の資源　場所を特定できないもの
地域の課題　場所を特定できるもの
地域の課題　場所を特定できないもの

(2)まちづくりの方向性

平成 15 年度に策定した地域別構想（仙北地域）の「まちづくりの方向性」を基本とし、地域の最新データによる現状把握や町内会・自治会を対象とした書面によるヒアリングの結果などを踏まえて、次のとおり整理しました。



(3)まちづくりの目標と基本方針

①目標

『仙北気質（かたぎ）の交流・支え合いで高める地域の力
安全・安心の水辺のまち仙北』

②基本方針

ⅰ)歴史と伝統でつくるまちづくり

仙北地域は、藩政時代から奥州街道を中心に形成されたまちで、神社や古くからの建築物が生活の中に生き続けています。このような歴史に加え、北上川を隔てて中心市街地から離れていることもあり、「仙北気質」と言われる地域の強い繋がりを生み出してきました。地域の歴史を再認識しながら、古い建物や行事などの歴史と伝統をまちづくりに活かすようにみんなで取り組んでいきます。

ⅱ)北上川の水辺と岩手山の景観でつくるまちづくり

北上川では、白鳥が飛来し、伝統的な祭りである「舟っこ流し」や、かつて盛んだった「舟運」の実現に向けた木造船の運航が行われています。川沿いの散歩道は人々の憩いの場として、日常的に利用されており、北上川と地域は深く結びついています。また、明治橋から眺める北上川と岩手山の景観は、盛岡市の誇れる景観のひとつとなっています。

北上川の桜並木、散歩道、河川公園等の充実を図りながら、地域の宝を活用したまちづくりを推進します。

ⅲ)交流ふれあいによる商店街活性化と安全なまちづくり

商業を取り巻く環境が大きく変わろうとしているところであり、身近な買物の場として親しまれる店づくり、街路樹やハンギングバスケットなどの花による魅力ある商店街づくりなど、地域主導による活性化を促進するとともに、幹線道路や駅などの優位な交通条件を活かした新しいまちづくりを推進します。

道路整備は、自動車交通の円滑化や、バス運行の利便性向上と併せ、歩行者や自転車のための安心空間の確保に配慮しながら進めます。また、施設整備は、高齢者や子どもの視点など、地域の考え方を反映できるよう、地域との情報のキャッチボールに努めながら進めます。

ⅳ)福祉で安心なまちづくり

歴史と伝統のある仙北地域では、古くから住む人々と、移り住んだ人々との交流も課題のひとつです。また、少子化・高齢化の進行により、地域活動への参加者の減少も顕在化していますが、これまで続いてきた地域の団結の力をもとに、地域をみんなで知り、支え合いの輪を広め、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します。

防災面では、地域のほぼ全域が洪水浸水想定区域に含まれており、氾濫流による家屋倒壊の危険性や、想定浸水深が深いエリアが多くあります。これらの災害リスクについて、官民が情報を共有しながら各種活動を通じて地域住民の防災意識の向上を図るとともに、避難場所の確保や避難路の整備など、ソフト・ハード対策が一体となった災害リスクの軽減に努めます。

まちづくりの方針マップ